

〈資料〉

「西周日記」

——明治二十六年一月～六月——

川 崎 勝

本稿は、「西周日記」——明治二十五年七月～十二月——（『南山経済研究』第34巻第1号、2019年6月）の続きをなすものである。

「西周日記」については、「西周日記」——明治二十年一月～六月——（『南山経済研究』第14巻第3号、2000年2月）の「序文」を参照されたい。

「西周日記」は、年を経るとともに、さらに病状により筆には乱れが多くなり、判読しにくい文字が頻出する。極力読み取るよう努力はしたが、十分ではない部分が多くなっている。多くの誤読があると思われるので、引き続き、ご叱正を乞いたい。

本号の翻刻に当たって、前号までの校訂方針を踏襲し、若干整理した。日記帳（半紙版20行罫紙、二折）の上段枠外には、曜日のほか、追記がある。便宜的に、枠外の記事は『 』で括り、曜日は日付の次に、追記は一日の記述の終わりに置いた。また、見消は二重線＝、塗潰しは■、不読文字は□、長文および字数不明のものは□□ □□で示した。なお、「鯖塩」などの傍点は、西自身による訂正、「塩鯖」の意。「日記」本文には、○ごとに簡条書されており、句読点はほとんどない。読みやすさを考慮して、やや細かく読点のみを付した（なお、原本にある読点は「、」で残した）。旧漢字は常用体、合字は開き、変体仮名は常用の仮名に統一した。また、固有名詞をはじめ、宛字と思われるものは極力そのままに、誤字についても多くはそのままにし、適宜〔ママ〕あるいは〔訂正文字〕を付した。〔 〕は、翻刻者の註記である。〔 〕のない傍註、圈点、括弧〔（ ）、〔 〕〕などは、原文のものである。

「西周日記」

(明治二十六年一月～六月)

〔表紙〕
「明治二十六年癸巳日記」

紀元二千三百五十四年

西曆千八百九十三年」

一月大三十一日

一日『日』晴、暖氣甚し、初西風より南風に変ず、海浪荒し、○朝灌水、其後屠蕪、象煮餅、○アウトメール牛乳二杯、○其後小水一過、○其後元旦試筆、○新年礼者、宮田紘五郎、林若吉、山村甚兵衛末子某、三人ナリ、○甲州桜鴨ノ鋤焼□し等の引□を持ち来る、○午餐は牛肉のビーフステッキ及雑物ナリ、○午餐前厠に行かんとし、時に寫津忠寛君の家臣落合藤二君来りて、主人從^(二)三位も同病ニ付、若し通行もアラバ立寄り呉れよとの事なり、宜敷挨拶して返す、○今朝三十間堀へ回礼者は、松本和君、豊秀堅、好子、秀、名刺ニテ、丸山町橋元至矣、吉木文三、駒込妙義坂下町二番地国府寺新作、西時雄等ナリ、○午後瀬脇姉様、随分長と談合、其中勃平之談、菊ニ託すへき事なり、相沢朮君、佐野絜君、両君書状も来れり、○午後瀬脇の前に加藤弘之君来ル、屠蕪なら飲むといふ、屠蕪を供し三盃許を飲ミ、色々旧故を話し、手塚お春、中嶋玄覚等は夜中及び稍久ふして来る、是夜中追記す、

一月二日『月』晴穩、西風未た起らず、○朝灌水、○其後餅、アウトメール、餅等、○一番に高木より色々頂戴、第一雉子一羽、第二雲丹箱二ヶ、第三角沙糖一箱、第三牛肉、第四鱒罐詰、第五松茸罐詰、凡て五品、○其後お寛さん来り、其後高木夫婦来訪、屠蕪を出ス、直ニ帰る、○本日も十時頃西風強く海浪堆く起る、○渋谷愛太郎、年礼に来る、駅長之由ナリ、○本日廻礼は、三嶋通庸君の寡婦人、坐に大久保卿利通君の寡夫人あり、其次巡查平野平吉^{是は序に立、審りたり}、其次は高木兼寛君^{是は昨日瀬脇姉来訪、お広さんは今朝速に来訪、兼寛君夫妻も今朝早く来訪等々}、屠蕪を供ス、三寫も同し、○帰宅後午餐に就く、赤小豆飯、雉子の鋤焼にて、三椀を喫ス、○本日は烈風、雨は遅からざるを以て、寫津其他年礼は明日に廻、書翰は永見裕君、佐野絜君、橋元至矣君、吉木文三君等ニテ、皆舛子より^{名刺}寺志を配る、別造作を取らず、豊住秀堅ら三人も同様ナリ、○晚餐兔の煮物^{高木よ、到來}、赤豆飯、鮎の昆布卷、頗味あり、了て小水に行き、就寝、

一月三日『火』晴、朝起灌水せず、少し風気なれはなり、其鵜飼をなし、顔を洗ふ、其後瀬脇薬に、アウトメール牛乳二盃、○朝加藤、雉肉少しなりして別杯遣はず、○昨日同様にて九時過より西風波浪高く起る、○三嶋通庸君の寡婦、大陸魚ノ贈物あり、牧野君の娘子を連れて年礼に来訪、屠蕪を出し□□□□漸らく話して去る、

後高木夫人、瀬脇姉様来る、又こ色こ持なす、後新潟県人藤宮規平と申者、号象洲といふ人来り、津田東君の知音なりと云訪ひ来る、此時百足屋からも半紙并ニ菓子の贈あり、○百足屋年礼に来る、屠蘇を出て直ニ帰ル、○高木は今朝急病人あり、帰宅之由、其子供兩人、舛子、大勢を率きて駒山辺へ免獵に出掛けたる由ナリ、晚餐は汁粉二杯、白飯一杯、雉飯一杯、其後小水一過、就寝、○

一月四日『水』朝晴、午後曇る、雪降る、本日朝灌腸、其後灌水、其後アウトメール牛乳二椀、○其後豊来る、高木午後一時出立之間に来る、高木へ行く、午後再ひ来る、織田一と共にして屠蘇なり、余り飲ます、○当地の梯子乗りあり、騒甚し、○
○本日来賀は、織田一、同豊のミ、○朝瀬脇姉、電報を瀬脇娘子を出産と聞き朝の車ニ而帰府、○高木帰るは午後三時の瀛車と聞き、舛子は一診を乞はんと午高後高木に出掛る、未夕帰らず、水薬丸薬之処方を得て帰る、薬剤は馬嶋より取れといふ、○高後木は三時四十五分気車に乗る、○中間招仙閣に行く、□□□あり、○本日若松屋主人来り、年礼に郵便端書数枚を持参す、晚餐牛肉、睦魚の煮物ナリ、屠蘇三杯之後、就寝、○

一月五日『木』晴、無風、午後は如何哉、本日午前十時三十四分小寒ニ入る、○朝七時起床、灌水、本日本氷り極而厚し、○其後アウトメール牛乳二盃、其小水一過、其後年礼に出掛く、第一招仙閣ニ至り、織田一君に逢ふ、此時織田□与は別ニ言伝ありとて別荘に来り、祖父に逢ふ、遂織田一君共に招仙閣ヲ辞、共に東京の二番瀛車来るに逢ふ、何人かと瀛車下りる人に談し、遂ニ織田は松林館へ至るとて辞し去る、其より先駅長渋谷愛太郎の所、新年の挨拶に至り名刺を投し、其より従二位勲二等門カ寫津忠寛君の邸を訪ふ、都合よく列車の迎に出しなり、是に逢、先日来訪の礼を述へて、岡を越へて裏間より門カ帰宅、帰宅、織田一の妻女猶在り、速に辞し去る、○其後岡守節君并ニ水崎保祐祐より年始状を差越ス、○午後加藤夫妻連兩人ニ而来る、其前舛子より菊を馳らせて風邪ニ而立寄致さすと申遣る、途ニ而既に彼家を出るに逢ふ、帰る、○其後□腸通利なり、○其後入浴、潮湯なり、其後晚餐牛肉、鴨汁等ナリ、而後就寝、

一月六日『金』晴、○本日は朝遅く起き、灌水に行き、本日寒気緩やかなりと見へ氷張らず、其後瀬脇薬少し、午後より例の西風起り、波上も波浪高し、其後アウトメール二盃、其後小水第二次、其後湿電未た十分終らず、善し、好勃平来る、其前織田一來りて挨拶して鎌倉に行くといふ、皆勿こナリ、四人ニ而午餐も了す、好の相談も始る、午後三時好も帰府の由、勃平も同し、○好子、間を得て余の後事を嘱する為遺書を嘱する事を約す、此を諾す、三時前に至り前岡を越へ、為吉に扶けられて若松屋へ至り、暫して好、勃平共瀛車に去る、余は人力を命し人車にて帰る、此時舛子も共にて、其前旧矢田部別荘に至り、帰宅の後、舛子は猶下へ廻り帰るの頃ナリ、○夜ニ入りたれば時事新報を殆闕す了ス、晚餐は鯛の照焼、午房の煮物、牛肉等に、

「西周日記」

白酒を□□□□、就寝前小水に行く、○

一月七日『土』朝曇天なれと其後晴れて好天気となる、○朝灌水、其後象煮餅、其前瀬脇薬、蓋其利目か、俄かに通利を催ふし厠に至り下利沢山ナリ、其後跡を斂メ、加藤氏へ向ふ、本日午後一時之瀛車ニ而帰府となる故ナリ、○奥さんは照磨君随て来る故ナリ、○其より歩行して帰宅、本人力車は出掛より加藤氏まで、其余は歩行十の三に尽る、帰宅猶午前なり、午餐は鯛の焼物、汁粉^{ママ}粉等ナリ、本日加藤氏に行きしは舛子同道にて菊を連れたり、人力も先日来面を知る者ニ而御夫等、勿論帰来餅ニ而も振舞はんといひしに、価を取り直ニ帰れり、○大野富雄より年首賀状来る、此五六日の頃彼地出発ニ而直返る由なれば、答書も間に合不申と棄く、○時事新報も見了る、中に嶋本仲道君の伝あり、半にして了る、後之を期すへし、○四時半入湯、塩湯ナリ、浴後少く憩ふ、後晚餐を喫す、晚餐牛肉、味噌汁等ナリ、牛蒡の鐘詰等ナリ、

一月八日『日』曇、南風、朝七時後起床、灌水、本日氷張らず、凌能し、其後瀬脇薬、其後アウトメール牛乳三杯、其後小水一次、其後湿電、菊此を司る、時第二東京瀛車着、紳六郎、きよ子来車かと思ふに其沙汰無し、○午前より風向北風に変し日脚折々露はる、○
○午後舛子、加藤氏に行く時、鉄道局へ至り、序に若松屋へ立寄り煙草一服を喫して帰宅、此時シヨンも来たり、三嶋の奥さんに抱き付き、其勢夫人を田畝中に倒したり、巡查のかみさん扶起、傷薬□□□得たり、□□□□□帰宅の時間安眠に付き□□□□□□□□□□
小水に行きたり、是より元に復す、○本日死去の知らせに橋元至矣七日死去の由、○大野富雄より根室より年始状着きたれと、去六日出立之由なれば、答書差遣を止メたる、

『六時前五十分地震ナル震なり、』

一月九日『月』晴、無風、本日舛子、朝六時半の瀛車にて東京へ行く、瀛車にて行違ひたるものと見へ、東京よりきよ子差出し電報届き、一旦不審に堪へさりしか、周、きよ子の来るを来るを知り、俄かに迎ひを出さんも間に合すして、前岡越へて来りたる故に始めて出電の由を会解したり、○朝灌水、其後瀬脇薬少し、其後少水に行き、其後きよ子来り、其前湿電を了したり、○午餐はひらめの煮物等、三人対食、○きよ子、寥しきと□□に可るなり□取らんと三嶋へ借りに遣はしたるに、三嶋にも欲しきなれと未だ求め得ずて断りたり、○余りの閑に堪へず高木の隣を下り本道へ出て、坂を越て例の若松屋へ立寄り、煙草、帽子も忘れたれば、為吉を内取りに遣はし、舛子の帰るやと待ちけるに、猶早ければ皆内の□□り、夫より再び岡を越へて帰るは、昨日如く疲れんことを恐れ、人力を雇して本道より帰たり、○本日到来の賀状、大野直和、佐野村石河年養より母の死去、寿丸等兩人より年賀状等ナリ、○本日午後は暖気なれとも曇りたり、○高木の祖父に赤小豆を贈り来る、きよ子に逢ふて□ク親類始の事を囁したり、○四時二十分大磯着瀛車にて皆迎には出た

- れと、遂に五時着瀛車なるへし、
- 一月十日『火』曇、昨夜より風雨となる、本日も風烈、時々雨となる、○本日も朝灌水、其後灌腸、通利あり、其後灌水水温なり、其後アウトメール牛乳二盃、其後小水二行く、○紳六郎、品川登千代田艦発の端書届、出帆之場所は訳らす、○午餐は鮭の牛肉等、汁粉餅二盃、飯一盃、○午後風雨共に烈し、○ ○晚餐は鰻鯉□□□、舂子□鶏卵漬ナリ、□□□葡萄酒□□□□ナリ、其後就寝、時事新報も雑に閱す□□□、
- 一月十一日『水』昨夜大風雨、今朝晴、北風穏ナリ、朝灌水、其後瀨脇服薬、アウトメール牛乳二盃、此間小水一過之後、其後歩して鳴立沢に至り、百足屋へ年礼に行き、帰路若松屋に行き、人力車ニ而本道より帰宅、其後汁粉餅二盃、○本日一時四十八分瀛車ニ而、きよ子、菊を連れ帰府す、きよ子は下女を連れて時前山岡を越へて瀛車に行く、余は前時歩したるを以て申へし、送らす、窓間よりを望む、餐は鰻鯉のかま焼、吸物等ナリ、擬制豆腐は味佳ならず、横須賀の製なりと、其後小水一過、○松林館より粉糰を送り越ス、○晚餐、○紳六郎は館山へ行きたるなりし、きよ子□□□りといへと読売に見ゆと思ふ、○晚餐は東京の赤小豆飯、鰻鯉のかま焼等ナリ、味佳ナリ、直に就寝、○本日より前村にて十四日までヤンヤコツコを建る、
- 一月十二日『木』曇、併し雨は降らす、午後は如何哉、○朝灌水、其後アウトメール二盃、其後小水一次、○其後湿電、左右腕背腰部兩股兩脚各一過、菊此を司る、○小水に行かんとして顛ふ、小水一次、暈の上なれ幸怪我無し、○午餐は象暑汁三盃、赤小豆飯一盃ナリ、午後三時過灌腸一過、通利あり、○午前十時頃湿電前に在り、○此より入浴をなさんとす、故に灌腸を行ふなり、○本日午後寒気甚し、然るに静穏に曇る故、夜来の雪も測り難しと思ふ、○午後四時頃盗伐歎または濫伐歎、岡上四足亭前の樹を伐る人を見たり、○晚餐は□□の味噌汁、豚肉の玉子巻、赤小豆飯二盃、是入浴後ナリ、而て後就寝、
- 一月十三日『金』夜来雪降る、今朝曇起灌水、其後瀨脇薬一服、其後アウトメール牛乳二盃、水餅を喫す、其後小水一過昨夜十一時、其晚四時、夜明五時一過、其後湿電、左右腕背腰部兩股兩脚、午餐は、昨夜入湯塩湯ニ付巡查のかゝさんと呼ひたる処、其厚意、鶏卵入の蕎麦を得たり、依本日午餐に之を用ゆ、また罐詰牛肉等ナリ、明三時過小水一過、殆満□ナリ、○午後書状の届きしは、山辺お貞さん、豊住好子出産の納の礼の礼なり、お定さんは類埃挨拶ノ由ナリ、晩飯は赤小豆飯二盃、エソの味噌汁、其他□□□□ナリ、晩飯了て就寝、
- 一月十四日『土』晴、本日昨日之寒気猶在り、漸次晴ニ就く、○朝起灌水、其後アウトメール牛乳二杯、其後少水一過小水、○其後灌腸、通利沢山あり、○其後湿電、左右手額面頭直腰脊兩股兩脚等、菊此を司る、○其後新聞来ル、十一時ナリ、○本日

「西周日記」

十時より横浜へ遣はし為吉に滋強丸一劑とコルンメル一箱を買はしむ、○午餐は鮭の腐敗しせり、エソの味噌汁、さんまの鐘詰等なり、兼て亀井家の葡萄酒、□□子より到来の白酒を用ひたり、○午後は天気漸く変り西南風となれり、此時舂子白酒に酔ふ、□焼へ如し、臥に就く、○午後二時小水一過、○舂子は酒□しと見へ□□□□時に二時なり、○後三半より舂子に誘れて入湯に赴く、暫時にして了る、晚餐は為吉か帰を待つのみ、入湯并ニ削髭、其後小水一過、了て休憩ナリ、○本日に枕出来、菊此を縫_目る、浜ニ而人民□□所謂ヤンヤコッコを焼くを見る、殆□□内の人物となり、

一月十五日『日』曇、折々日足を漏す、○朝灌水、其後瀨脇薬を禁す、昨夜滋強丸を服すれば也、其後コルンメル二盃を喫す、○舂子も同じ、○其後菊湿電掛く、両腕面頭項脊腰部両腕下両股両脚等ナリ、其後小水一過、○本日は第三日曜ニ而、本年は第二近き故本日学士会院なれと、寒中ニ際し断て不参ナリ、○其後舂子、菊を連れ、金太と共に、下町へ鳥賊の塩辛を買ひに行く、○其後時事新報来ル、○舂子、午前帰宅、其後三寫寡婦人、娘子、牧野氏を連れて来る、暫く去る、其後午餐は睦の肉子とも、赤小豆飯ナリ、○午後は快晴にならざるも日脚漏れて過す晴天なり、○二時前小水一過、○三嶋氏より交肴鱈はよし、鯖等を贈る、汁粉の礼□対たる物也、○晚餐は鱈の塩焼、其後赤小豆飯一盃、其後葡萄酒亀井贈の物二杯、白酒三杯、次ニ丸薬定法、次ニ小水に行く、次ニ寝ニ就く、

一月十六日『月』曇、時々薄日見ゆ、寒し、雨は降らず、○早朝例の塩湯、其後灌水、其後コルンメル二盃、其後電気湿電、菊此を司る、両腕両脊面項、中間小水に行く、腰脊両股両脚等ナリ、○午前十一時より風起る、寒甚し、○本日朝爪を剔る、○午前十一時高木の祖父も来る、肥溜は買はずといふ、○午餐は真黒の刺身、小赤豆飯二杯半、別に鳥賊の塩辛等ナリ、○午餐後一時小水快通、○此時為吉、潮一荷を担ひ来る、○金太の箱を内へ入れる、○此時三嶋夫人帰路に就く、牧野の稚児も同じ、○二時為吉、二度目の潮を担ヒ来る、○二時過金太箱内ニテ吐く、○即ち此を出して懐抱す、再箱中入て眠に就く、○四時前小水一過、此ヨリ入湯せんとすれば也、○四時入浴了ス、其晚餐に到る、鱈の煮物、□□の塩、其後白酒五勺、余□□酒二盃、并鶏卵ニ而、滋強丸、而後に寝_前に就、

一月十七日『火』晴、好天気、早晨ニ起き灌水、其後塩湯一服、其後コルンメル二杯、其後下利の気味を感じ厠に行く、果して下利一行アリ、其後菊湿電を装し之を按つ、即ち両腕面額脊項両掖下脊両股両脚、其後好晴に乗し、舂子逍遥を勧む、門を出て招仙閣前を過ぎ、踏切を越へ、此時伊藤伯杯数人小田原へ行く、過ぎて若松屋の前を過く、若松の老母曰く、只今慥かに郎君と見へたる者前岡を越へて御別荘に至れりと、心之を□とし乃ち鉄道路を下り、裏面より又踏切を越へて裏門へ返る、路次紳六郎出迎へ、此に扶けられて帰宅、○其後午餐に就く、真黒の刺身碗盛、赤

小豆飯二盃半、また葡萄酒一杯等ナリ、○其後時事新報を閲^し了ス、其後晚餐五時前、紳六郎入湯、晚餐は鶏肉の吸物、ゑびの鬼殻焼、牛肉杯、五時三十分紳六郎帰る、

一月十八日『水』薄曇、漸次快晴となるに近し、○朝灌水、其後コロンメール牛乳二盃、○其後小水一次^{昨夜十時頃一盃、二時頃一盃、一盃、今晚□時一盃}、次に乾電、菊此を司る、午前分平常に同し、○和泉竹、鄰地之事二付未タ□□□□拘らすと返答す、○舛子、三嶋氏へ交肴の礼に行く、○和泉竹に酒を与ふ、台所に猶あり、○為吉、潮水を取りに行く、○為吉帰る、○午前十時西風烈く起る、○海上白波起る、○為吉、第二潮水担ひ帰る、時二十一時前ナリ、○午餐は鱧の炙物、牛肉、氷豆腐^{本見の}等ナリ、○午後灌腸、明日の為なれと通利無し、○入湯後晚餐は牛肉、并ニ鱧の炙物杯少し、赤小豆飯一杯ナリ、了て丸薬、此時菊ニ薬方書を渡し、明日の計を為す、

一月十九日『木』晴、渴この晴、四方雲気あれと雨らず、本日第二汽車ニ而大磯出發、汽車中松本良順君、余夫婦のミ、横浜前より紳商二人乗れり、横浜より菊三等列車より下て横浜野毛町二丁目ターガー商会に行き、周の薬并ニ舛子の薬を買はしむ、后午前に前後して着す、一列車を後ろになり、其より芝居に行く、歌舞伎座へ、周、舛、きよ、大野富雄、四人ナリ、親疎の別ありて菊は残ること、劇は尾上菊五郎、梅幸なり、其一列の中、中村福助、尾之上菊之助、尾之上栄三郎、秀調、松助を尤ナリとて、夜九時幕止る、帰宅十時ナリ、阿母布列幾斯丸は明早より飲用^服と決す、

一月二十日『金』昨夜ストーブを用ひ夜中煖かなり、朝起灌水、菊此を扶く、○舛子、きよ子、芝勸工場へ行く、尤も舛子は其後豊住へ行き、猶帰宅後再び石川達玄之処へ至り、太郎を訪問せんといふ、○時雄、早朝高木先生を訪れ診察を乞ふ、先生曰く、脚蹠少く腫張を見る、瀬脇之薬を服用すへしと、別ニ服薬を遣はず、三日にして再び来診すへしと、其後第二回小試験点数を示ス、百点代数学、九拾八点幾何学、九拾五点算術、八拾点英語読方、八拾四点同読訳、八拾点同書取、七拾点同会話、八拾八点歴史、七拾点地理学、八拾点作文日本、八拾二点漢学、八拾六点植物学、八拾点国文、七拾点倫理、七拾点日本習字、九拾五点体操、九拾点画学ナリ、○其後二十銀行ニ行き、大野に就き、周五十円ノ利子を請求ス、銀行前約ノ如ク六分ノ利子参百円を受取る、再証書を取り来る、并ニ舛子の金拾五円抽キ出し来ル也、○大野富雄齋し来る北海道の写真を見る、○舛子は午後一時に豊住より帰宅、早こ太郎見舞に出掛けたり、○大蔵省会計主務官より通知あり、非職俸給渡シ日ノ儀、本月より毎月廿一日賜下定候間、此旨及御通知候也と、本日河岸の金次^七郎年礼ニ来る、菓子の贈あり、○また勃平来ル、舛子留守ニ而□□□□、其後五時過舛子帰宅、本日板橋行、幸にして舛子無難なり、丸の内より□一ツ橋門を出て、角を曲らんとする時、向の巡查派出所ニ沿ふて他の人力車客を載て牽来り、舛子の人力車と衝突し、舛子の人力倒れて、向の人力其棍棒を折りたり、舛子倒れたれと幸に顔を蔽ひ

「西周日記」

- し為手掌を少く傷し軽へとも懼したる怪我無し、其より直ニ同車ニテ板橋に至り太郎を省し、相沢にも至り直ちに帰る、帰宅後余^か入浴を扶け此をなし、其前晚餐を喫し□は鰻鯉焼二盃を食したり、其前余急に大便行急ナリ、菊をして灌腸の仕掛をなさしめ、事備て舂子帰る、遂に灌腸をなして後、共に食に就き、入浴ナリ、事の混雑いふへからず、以て二十日の日を終はる、幸に舂子無難なり、□幸へ、
- 一月廿一日『土』晴、早朝浴室に到り^灌漉水、其後食事の間ニテ卓に向ひ、パン、牛乳二盃、了て夜来の想惑を解かんと二階の上ノ間より次の間に至り、此所にて立なから下利、其後お貞さん来り、舂子も繼て来る、大便所を構へ就て猶下利す、一回了て臀を拭ひ手を洗ひ、始て常に復す、乃ち温湯を以てアポプレキシール丸二十粒を服す、以て十一時後の発車を待つ、○此時山本を大蔵省に遣はし、非職給料を請取らしむ、非職給料は七十式円拾八錢七厘ナリ、此を了して直に停車場に赴き出発時間を待つ、送り来る者、きよ子、大野富雄、山本、時雄、人力車雇夫等ナリ、車中に芸妓数人、皆禱龍館に行く者ナリ、和泉竹も速に□□□禱龍館に行く、余ノ座より牀に上がるまで扶て在り、其後暫くして潮湧くと報ス、乃ち湯殿へ行き入浴、暫くして浴後晚餐を喫す、永見の真鱈の甘煮、かきの昆布煮、款冬の煮物等なり、飯一盃等ナリ、食了て忽復下利を覚ふ、乃ち厠を整へ了厠に上り下利数行あり、乃ちアポプレキシール丸を二十粒の処十粒に減、白湯にて遣下す、此を帰宅後の一奇事とす、
- 一月廿二日『日』快晴、昨日帰車中横^{〔漢〕}以来俄の暴暖ニテ、着大磯の頃ニは一天墨を流すか如く俄に雪模様と変たれと、夜中に和解したりと見へ本日も好晴暖気なり、○朝灌水、其後コルンメール二盃と小水一行、其後湿電一回如例、菊此を司るも如例、○舂子より永見鎮子へ鱈の礼状を出ス、○また津和野お信より咲子の謝状来ル、○午餐はほらの味噌汁、ひさみの雑菜也と、味佳し、猶牛肉もあり、○午餐後小水一行、○時事新報は本日の分を閲し畢る、○午後は別ニ用事もなければ日本本草枸杞の条を見たり、○三時頃平野君無音見舞に来訪、種々談話之末、菓子を供し、白酒を出したれと辞して一盃をも飲ます、余却而二盃を傾けたり、○晚餐はほらの刺身、鱈の甘煮等ナリ、○本日枸杞の条を見たり、また枸杞の鉢より其実を取り置き、以て直殖を謀らんと為たり、○晚餐はほらの刺身、鱈の煮物、同其白子の酸浸等ナリ、○始め平野の時白酒二盃、後舂子と共新餅三切レを喫したり、其後小水に行き、寝に就く、其前アポプレキシール丸十粒を服用したり、
- 一月廿三日『月』朝寒し、晴快し、午後は如何哉、○朝灌水、其後^{〔乳〕}コルンメール牛肉二盃、其後湿電一回、其後灌腸、通利少し、○本日は月曜ニ付新報来らず、○休暇ニ付、本草書、仏蘭西書を調ふ、舂子の処へきよ子^{〔乳〕}并ニ富子の手紙来る、○午餐鱈の照焼ナリ、其前阿部川餅数切レを食す、○本日は^{〔漢〕}搗餅之事ニ而玄関世話し、○午餐後小水一廻ナリ、○舂子、菊を連れ金太と共に運動に行く、百足屋の事は帰宅

まで待ち呉れとの事なり、○此時為吉風呂の潮水を一荷担ひ来る、○此時既に西風吹き始む、○時に午後二時ナリ、小水一過、○三時前舛子、菊共、金太共に帰宅、○四時後潮湯に浴し、了て晚餐に就く、晚餐は鱧の照焼、鱈の白ノ子煮等なり、了てアポプレキシール丸十五粒を服し、小水一過の後、寝に就く、

一月廿四日『火』朝は少曇天たれと午後は如何あらん、○朝灌水、其後コルンメール牛乳二盃、其後小水一廻、其後アポプレキシール丸十五粒、其後湿電一回、菊も例の如し、中間小水一廻、○午時前より快晴となる、風も北風なれば合割に軽ろし、○午前新聞来る、序に端書時雄より届、明日より学校へも出席の積り之由申越、高木診断も宜敷と相見へ大ニ安心の事なり、○午餐は鱈の罐詰、鳥賊の塩辛等ナリ、○午後猛灌腸を行ふ、只二切のミ、アポプレキシール丸の不足を覚ゆ、時百足屋来り、昨日は松本順君の懇親会の幹事ニ而来るを得さりし旨を一ニの質あり、第一下の^{畑買}畑借入之事、右は当人より掛合ふへしと、坪壱円五十銭位なるへしと、第二高木借地は年一坪二十銭、畑は坪拾銭ナリト、建足は承知、自ら湯殿ニ至り此を見たり、松の移植は大ニ賛成ナリト、植木屋も此地の者にて可なるへしと、白酒、カスターを供し、直に山岡を越へて去る、○佐土原の落合君来り、台所の者に就て厳寒なれど変なきやを聞て帰る、○其後伊泉竹来り、松本の薪之事を気□なれば下地面之事をも話す、○晚餐ハ鮎の海草卷、鳥賊の塩辛等ナリ、食後アポプレキシール丸二十粒を服用し、而て後に寝に就く、猶小水一廻訖ナリ、

『本日、衆議院十五日間停会を命せらる、』

廿五日『水』曇、雪降る、○朝起灌水、此時雪気と見へ水凍らず、其後コルンメール牛乳二盃、其後小水三廻^{昨夜十一時一回、四時一回、復一廻其後}本日に移る、○今暁来北風、寒甚し、果して九時頃より雪となる、既に十時頃庭前庭外四方皚々たり、本日アポプレキシール丸二十粒、通利の気味無し、○其後湿電一廻、菊も尋常法ナリ、○午餐ハ[□]鱈の[□]葱煮物、栗の金鈍、及味噌汁ナリ、○其後小水に行一失策、○其後衣□□□たり、○午後雪猶止まず、積ること三寸許なり、○午後三時前灌腸、通利暁昨日の通思ひの外解し、○時事新報も荒増閱す、○午後三時猶雪罷ます、此夜も降る敷も知れず、○入湯後^{ママ}アポレキール丸二十粒を為し、寝に就く、其前小水一過、

廿六日『木』昨夜中雪降り止ミ、中霄月凄へたりと、本日快晴、雪未た消けず、寒気強し、○朝灌水、湯殿氷りて滑走殆と危し、○其後^{コルン}子~~ウ~~メール牛乳二盃、大豆小菜等、其後小水^{昨夜十一時、暁四時、曙五時}九時過、○此時アポプレキシール丸二十粒を服用す、其後金太湯を遣ふ、其後菊湿電を行ふ、平常の通なり、○中間小水一過、○本日快晴の天気なりし処、十時後薄曇となる、○午餐は牛肉の味噌汁、鮎の昆布卷等ナリ、肉は好からず臭し、昆布卷は昆布堅し、共に不味なり、然れと赤小豆飯三盃を喫したり、○午前きよ子、瀬脇姉、石川おせいとのより舛子へ書東届く、皆、太郎宜しからずとの報なり、○午餐後小水一過、○此時菊をして佐土原氏の家僕落合氏に昨日

「西周日記」

の答礼なし、訪問の礼を了はしむ、帰路に駐車場の指針を聴せしむ、直に返り報ス、
○午後三時後落合君其命を奉して桜嶋の蜜柑なりとて齋し来る、また何か答礼な
さざる可らすと思へとも品物無きに窮す、宜敷挨拶して返へす、○其後晩飯、○相
談あり、鮎の煮物なるへし、時に小水一過、○其後四時頃鄰家深井の令夫人招仙閣
に飯する旨ニ而訪問を受く、九年母の土産あり、厚意と謂ふへし、菓子を供□□□、
汁粉を供せん□□をなす、直ニ帰て間も□□□、余其具汁粉を喫す、以て本日了
ス、晩方ニ掛ケ黒雲出つ、明日は晴雨を測り難し、或は又曇歟、

一月廿七日『金』朝雲あり、晴、西風と変したり、○灌水朝塩湯、其後灌腸、通利少
し、其後灌水、其後コロンメール牛乳二杯、其後小水一廻、其後湿電一廻、菊部分
も同し、○中間小水過ナリ、○また小水一過、略法を用ゆ□、○十時頃より南烈風
に変したる歟、殊ニ温暖を覚ゆ、海上白波起る、小波瀾ナリ、○天気亦漸次に曇る、
○午餐は沖ギスの味噌汁、鮭の酸浸等、赤小豆飯等ナリ、二膳満腹ナリ、○午後一
時より手足の爪を剔る、其後に小水、湯に入る前なればなり、○本日外来の客も書
状も無し、紳六郎は本日より横浜港に帰る由なり、未た何等事も分らされは環海乗
組なれば何か命せらるへしと、昨日きよ子より左右ありしと、○時事新報も荒方閲
し了る、○本日は□湯ノ湧遅く三時といふ約束なれと□□きくの注意届かす四時に
至るも猶湧かす、遂に四時五分過に至り始て湯湧くを報ス、○四時三十分湯より揚
る、○晩餐はいわし之塩焼、昆布の煮物、茶飯等ナリ、其後小水一過、就寝、○ア
ポプレキシール丸二十粒服用、○

『伊藤首相は一昨廿廿五日^(行)帰京と聞く、深井ノ話なり、』

一月廿八日『土』昨夜入浴後晩餐、就寝後風向南風より東風、所謂ならひ曇^曇に変し、
一時家屋震蕩し、また南風に変し後また西風に変す、今朝常の如く北風吹き、風気
次第に和らきたり、一時は舂子杯、ならひにて、高木の横を吹き揚げたる故、事を
懐ひ恐懼甚しかりしも、夜半より漸次に和らきたりし故、今朝海上一帶の曇なりて、
其後は日光明処に透徹したれとも、其後総体の曇天となれり、朝灌水ニ昨夜の熱蒸
ニ而水温なり、○其後コロンメール牛乳二盃、其後小水<sup>昨夜十一時半一度、中三時一度、
今晩六時一度、夕五度ナリ</sup>、後また
小水一度、湿電十時前了、菊も同し、○紳六郎書状届く、佐野氏へ依頼の事は二
月下旬に帰京の上取調に着手となり、其ニ而宜敷、○其後小水一度、○紳六郎、板
橋行、相沢、石川へ年礼、太郎の見舞等兼而意也、本日より第三海軍区とあり、受
命の由、御苦勞ナリ、○其後小水一度、○時事新報は荒増閲し了たり、四時三十分
小水一度、○此時風向北ニ而烈しくなる、海上も波頗荒し、○晩餐は鯛の刺身、雲
丹の附ナリ、食後小水一度、時雄来着を待て到着之上寝に就く、食後アポプレキ
シー丸二十粒を服用ス、

廿九日『日』昨夜北風強し、本日朝より雪降し、今十一時愈盛ナリ、○朝塩湯、其後
灌腸、通利少し、其後灌水、今朝水温ナリ、其後小水二次また一次、湿電一回、時

雄、菊□□□此を代司ス、(早餐コロンメール牛乳二杯、之を飲したり)、東京ニテ村上典表来り朝鮮へ行くいふ、然れば此前雪降ノ日ナリト、則ち廿五日の日ナリ、時雄の話ナリ、○午後雪ハ降らし□興も無ければ午睡一眠、時に岡野藤太郎来り、大坂之事何か話したり、辱中ニ而□とハ□したれと寒氣障へられて出逢はず、暫して大船に至るとて帰りたり、大坂ニ而数度見舞を受け、此度も態々見舞呉れたるは神妙なりと謂ふへし、其常として□□もの往来も成す、○四時過より佐々木信綱一君の来訪を辱うし晚餐を供もにす、^{ママ}子の腸の土産□□多分の贈与なり、一酌後晚餐を供ス、時雄も共にす、

一月廿十日『月』孝明天皇祭、晴なれと黒雲密に蔽ひ氣象慘澹たり、猶雪景色あり、○朝灌水、其後コロンメール牛乳二盃、其後時雄、信綱と共に出行ス、十時前兩人とも帰る、其後信綱君帰るを話しと見ゆ、○午餐は牛肉、葱の煮物、鮭の罐鎮、款冬花の煮物等ナリ、潮湯湧きたりに付、時雄を先に入ることせり、本日午後三時帰宅すればなり、○午後三時半時雄行く、本日朝佐々木信綱を送り、午後時雄を送る、○石太郎義兼而重症承知之处、昨夜愈危篤之旨に至り、其後遂に死去之旨、相沢朧、石川達玄両君より申越ス、遺憾至極の事なり□□□□□□、不幸可察といふ、一月三十一日『火』晴、朝より北風なれと、雪追々融け風ニ而落下ス、朝灌水、其後コロンメール牛乳二盃、其後小水一度(其前第一灌腸、通利あり、其前小水一度^{昨夜十時二時□といふ、^{ママ}二時、三時、四時、六時、}○午餐は陸魚の煮物等ニ而、金太も能く食ふたり、○時事新報も午前に届き荒増看尽したり、政論は無し、只社説のミニ而余は会社事件のミ、格別記するに足る者無し、○舛子より内へ端書を出ス、一日を止めて二日節分を終り出立と極めたればなり、此度は菊も横浜まで連れる事を止したり、服薬も兩人とも沢山あればなり、○午餐前湿電一回、両腕頭面脊背両股両脚、菊も同じ、○本日は晴成たりと雖へとも端□白雲ありて爽ならず、四方□□□□□□、○晚餐は鱒の子、鮭の□、酒一合 赤小豆飯、佐々木の□□□□□□なり、味佳ナリ、腹満つ、○其後アポプレキ^(シ)ー丸二十粒、小水一度、後就寝、

二月一日『水』晴、朝起、灌腸、其後灌水、其後コロンメール牛乳三盃、其後小水一度、其後湿電一回、^{薬田う}葉故^はにして利薄し、其後舛子、時計ノ針を直しに停車場へ行く、肥田有年別荘に来るを聴く、○本日漁船白帆を立ちて遠近海洋に出つ、午餐は^(鮭)鯨の煮付、子の腸にて、^(ママ)小赤豆飯三盃を喫せり、○其小水一度、○其間に^(尾)百屋来り、兼而頼みたる湯殿の建増の図を示し、且下の畠を買入る事に極め、畠地一反一畝十二歩、坪にして三百四十二坪也買入たる事に極め、大凡五百四十二円位との事也、委任状を認めて帰れり、此にて明日東京へ出立すへしと、明日ハ□□□□□□可しと極めたり、○時事新報も荒増閱了せり、坪田繁氏、衆議員国民協和会^(院)の一人、の善後策は政府ニ而□□□用する哉否や、六時潮湯より揚り、^(ママ)小水不通^(院)の後、就寝、○

「西周日記」

明朝三番ニ而東京へ行く、

二月二日『金』晴、○本日九時五十八分大磯出発、東京着十二時十五分、直ニ午餐を食す、午餐は鰹、^{味噌汁}晩飯、晩餐同しく鯉の味噌汁、其後高木お富さん来訪、○其次勃平帰る、舛子より好子へ言伝あり、明日の芝居之事ナリ、勃平は自ら行かすといふ、其後お富さん帰る、子の腸及林檎の贈あり、其楼へ上り小水一行あり、就寝、○舛子杯は猶入湯の企あり、余は顧みずして寝に就く、夜中大神楽、獅子舞等の喧擾あり、

二月三日『金』晴、○今日十時より蛸殻町有楽館へ久米八の演芸を観に行く、本日は余の誕生日ナリ、○瀬脇より^(新)生生児宮参り祝として赤飯来ル、○其前仙台ノ陸軍一等軍医正渡辺重綱君来訪ニ而、故石川良信君の墓碑を仙台松島へ建設せんと乞ふ、余も亦一円金を醸して是を賛成す、依而奉加帳に署名押印して返す、重綱君厚く謝して還る、是午前ナリ、○久米八ノ芝居は四時に了するも、五時頃に帰宅せり、

二月四日『土』朝天気模様如何なりしか、十一時半東京を發して大磯に向ふ、中途全く晴天となれり、然れとも雲全く晴るゝにはあらず、海上雲頗る多し、出立の節、利助及ひきよ子、停車場まで見送て、春も来たり、○帰来菊をして子の腸を佐土原公の処へ献したれば、大に御意に叶ひ大好物の由ニ而大慶致す、○三嶋氏より横浜より同列車にて帰れり、帰来三嶋氏より風月堂の菓子^{●●}を贈り越せり、○帰来大工の仕事新建築を視るに、昨日と本日とにて既大半を成就せり、

二月五日『日』照りもせず雨りもせざる日なりけり、○朝灌水、其後コルンメール牛乳二盃、其後^前灌腸、其後灌水、其後湿電、菊此を司る、其後午餐は鯉の黒漿、午後一睡、其後晩餐は赤小豆飯、海鼠腸、昨日取返りたる勝の桜園集、細川の山内一豊伝、祭祀日講延等を閲す、○其後アポプレキシール二十粒を服用、小水一度、後就寝、○本日朝会計帳を記す、一月以来の計算ナリ、

二月六日『月』昨夜雨頻リナリ、終夜点滴の声を聴く、本日曇天、夜来南東吹けとも破れず、起床後灌水、其後コルンメール牛乳二盃、其後小水一度、其後アポプレキシール二十粒、其後小水一度、其後湿電一回、菊も同し、其後小水一度、○本日は月曜、時事新報の休暇ニ付、売読新聞の□氏の意見外一寸を読む、○午餐は鯉の黒漿二杯、鮭の腹ら子糠漬、此の腸等也、餐後小水一度、○其後鯉及び鮒を売りに来る、また之を買ふ、暫くして五拾二銭なりと、無事なる故に午睡に就く、○午睡中百足屋来り、買地面之事を話し、○紳六郎より佐世保発の書状来る、無異之由ナリ、○晩餐は午餐之残、鯉黒の余り、睦の子、鮭のはら之子の糠漬等ナリ、○此より入湯、就寝の積リナリ、

二月七日『火』半曇、朝灌水、其後コルンメール^{●●}乳牛二盃、其後自然通利沢山なり、其前小水一度、其後通利自然心持宜し、其後アポプレキシール二十粒、其後小水一度、簡略法を行ふ、少し溢れたり、○本日唐種秋海棠を断り、^大■円株枸杞を刷り園

に移ス、是團植の物ナリ、○石井邦猷三日死去の由申越スニ付、曾て同役を辱うするを以て香典一円を送る事を申し遣はス、○本日百足屋午前十時に来るを約し十二時前まで来らず、百足屋并ニ戸長、地主等数人、地所売渡シに来ル、戸長ニは逢はず、午餐後直に来る、地所売買ハ例の証書ニ而了したり、其後経界は縄を引き此を仕脇し、余夫婦道上よりも視たり、了て為吉に扶けられて大道を通り遂に若松屋へ至り、煙草を喫し、遂に為吉に扶けられて岡を越へ裏道より帰りたり、此故午後二時頃ナリ、今日は裏の普請も略成り、松五郎へ金五拾円金を払ひたり、其後山内□□君過訪を辱うし、茶菓を出し且葛湯を出し、暫く談話し、了て日没後に風も無ければ人力□□徘徊して返らんと、裏路より踏切を越へて来れり、○晚餐は百足屋より贈る所の酢□□にて満腹となれり、地所は相模国^(海)陶綾郡字坂田山付八百九拾八番地、同八百九拾九番イ号ニ而、兩地ニ而五百三拾^五圓也、右買入事、別に登記料七円ナリ、

二月八日『水』本日も亦曇る、○朝灌水、其後コルンメール牛乳二杯、小水二度、○此日豊屋も瓦家根屋も来る、○時事新報も来る、猶午後に来ると見へ未来らず、昨日停会明ケの期ニ而自由党と同盟倶楽部一致したれと改進黨一致せず、○寿丸より書状到来、時雄の礼なり、骨膜炎の礼なり、大事に至る処、高木、瀬脇之蔭ニ而平^(真、以下同)愈に至り大ニ安心致し、○此間小水一度、○其後耳垢を取りて費ふ、○午餐は阿安川餅二重、鯉黒二杯、小豆飯二杯、鮭のはら之子等なり、○本日も曇、寒気強くして北風強し、瓦屋根葺も河原に其を焚して暖を取る、晚餐は鯉黒の残物、赤小豆飯、海鼠腸の茶漬なり、其后入潮温浴の上、就寝す、本寒気甚しきに、就一睡後及此なりといふ、夜中時事新報届く、夜中に閱すへし、

二月九日『木』曇、朝灌水、其後コルンメール牛乳二杯、其後小水一度、(本日朝灌腸、通利少し、其後灌水)、其後如常、其後湿電、菊同し、只右肩下異なり、其余は同し、小水一度、初坪満と少し溢る、本日も北風曇天なり、朝淡雲の間より日光漏たる、其後総而曇天となる、○朝大工来る、朝為吉に連れられて園中の枸杞及秋海棠を看る、其後普請場を一覧す、○中間アポプレキシール二十粒を用ゆ、○午餐は鯉黒残物、赤小豆飯二椀、海鼠腸等ナリ、其より園中に出て、普請場を閱し、迂路を経て常路を通り、若松屋に至り煙草を喫し、岡を越へて帰る、帰て午睡に就く、眠られず再起て、○此時頃に蕎麦掻き一椀を喫す、○本日午後より快晴となれり、本日の晴に依り明日の晴を予するに足れり、本日の晴、海上船多く出つ、○時事新報も荒増此を閱了、自由党は勿論、改進黨も今一政府を攻撃し、無期の休会をなす由ナリ、暫処に高木夫婦先日光子を伴ひて来れり、土産あり、牛肉、白酒なり、○高木来るは五時四十九分の瀛車ナリ、其より三嶋氏に至る^(ママ)至り、高木令夫人及山本お満さんは此方ニ而夜食を供し、七時三十五分の瀛車にて東京に向へり、

二月十日『金』曇、牢く破れず、北風寒甚し、○朝寒灌水、其後コルンメール牛乳二

「西周日記」

杯、其後小水二度、○九時過日光少し漏る、きよ子より左右あり、○九時半より湿電、菊此を司る、左右腕腰脊左肋上及右肩下腕部の前両腕両脚脊、○本日寒気強きニ付、羽織の上とてらを着たり、○十時半過、為吉、潮一荷を担ふて帰る、シヨンまた跡より帰る、為吉再び浜へ行く、○午餐は〔ママ〕小赤豆飯四杯、疣鯛の煮付、味尤佳、海鼠腸、別ニ牛肉等なり、○食後普請場を一周して座に還る、○時事新報も漸く閱了す、時に午後二時ナリ、○其後小水一度、○追加、今朝牛乳後アポプレキシール丸三十粒今日より一〇〇粒を服用、○晚餐は赤小豆飯、鮭の子、海鼠腸等ナリ、其後小水一度、入浴潮水温湯、就寝、

二月十一日『土』紀元節、近來の快晴、○朝起塩湯、其後灌腸二度通利少し、其後小水一度、其後〔以下同〕コルンメール牛乳二杯、其後小水一度昨夜九時一度、今晚二時一度、四時一度、メ四度、○林洞海翁より根室の鮭の子付の箱酢贈らる、厚意と謂ふへし、○本日大工早朝より来る、○九時前より十時まで湿電を用ゆ、右肩下も、菊も同し、間小水度失策あり、○本日便受けを大鉢に換へたり、○十時過より、舂子、周、菊と俱に、為吉に左手を誘かれ、町に出て、松林館前より右に切れて、浜際に甲喜樓の辺まで歩行して来りたるに、或家〔録〕椽先にて一歩も引かれざるに至り、人力を呼び来らしむ、□□好にて金太来れり、乃ち之に載りて若松屋に入りたり、○本日、金太は連れず、留守番なり、然処〔勞〕歸來不気分となり嘔吐を〔行〕を為したり、昨日牛房を喰ひしに由るといふ、帰り来れば、門内に三寫氏寡婦君在りて、余の病症を聞く様ならん、混雜なし、○午前は本日の天気至極穩ニ而晴れ渡りたりしか、午後に至り曇、雲処々に起れり、明日は天気は期す可らず、海上既に早起曇雲一帯をなしたり、○本日アポプレキシール丸二週間分を購入す、代八拾三錢四厘なりと、○午餐は牛肉、陸卵、海鼠腸等なり、晚餐は赤小豆飯、海鼠腸、洞海翁鮭の酢等なり、○時事新報荒増閱了る、○昨日衆議院の上奏ニ付、聖明詔勅ありし由ニ而、皇祖よりの遺訓を奉し玉ひ、御手元より金三千円宛五ケ年間御差出可被成ニ付、就而は各自も俸給十分一を納ては海軍費を助くへしと、誠ニ就当之聖議聖治なり、晚餐後タキガーア風薬三十粒、其後小水一度、就寝、

二月十二日『日』昨夜暁四時頃より雪降、本日快晴、雪猶未解、○朝灌水、其後コルンメール牛乳二盃、其後アポプレキシール丸三十粒、其後小水一度また小水一度、○林洞海翁鮭の乍し〔鮮カ〕の挨拶状を認む、郵便ニ而差出ス、○湿電一回、右肩下、菊も同し、○午時前大野富雄届く、此度小樽へ寄留を銀行より命せられ、一旦津和野へ帰省の積なり、老母あり、其事可然と許容ナリ、○此時より風向西に変わり、寒尤甚し、○午餐は鰯の蒸焼、赤小豆飯等なり、口取りも何かあれと何か分らず、餐後富雄は、○時事新報も午後早に來れとも、本日は別に是をして記す可き事なし、○二時潮湯湧、先つ富雄を入る、本日夕帰京すればなり、○入湯前ニ付小水一度、○本日午後は西風と変したるニ付漁船を□□一艘も見掛り無し、○富雄は午後無聊ニ乗し、舂

子と市中を徘徊し、市中より鳴立沢に至りて還り来れり、其後入湯、○五時三十五分富雄帰京、瀛車に乗り大磯を發ス、総へての事、舛子之をい托ナリ、其後兩人上湯後如常就寝、其前中風の妙薬三十粒を服用す、

二月十三日『月』本日海上大頑雲あり、南より東に亘る、其故日出極て遅し、九時前漸く明かなり、西風寒甚し、寒暖計三十度に至ると舛子いふ、○朝灌水せず、温湯手顔を洗ふのミ、直ニコルンメール乳牛二杯を喫す、其後表手水場に小水一度、菊此扶く、○家人いふ、算水凍りて出ですと、さもありません、為吉、高木の水を酌ミに行く、寒気の致す所また甚しと謂ふへし、大工早朝より来る、○序余か小用所の朝貌を命ス、○諾なり、○再び小水に行く、菊此を扶く、前様ナリ、○頑雲九時頃まで未霽西風出て南より次第に東に向ふ物の如し、○為吉、朝貌の大磯町に無きを報ス、無抛平塚まで行く事となれり、○アポプレシー丸三十粒を用ゆ、○十時後湿電一回、右肩下同し、菊も同し、○此時十時後西風烈敷起る、頑雲既に東方に吹き去らん、復続きて南方より来る、而して寒気僅〜強し、○成る程西風海上にも烈しと見へ白波起りて一艘も出でず、午前十一時殊に甚し、○小水一度、表の手水場へ行く、此度は舛子此を扶く、○午餐は陸〔新〕の煮付、赤小豆飯、海鼠腸の茶漬三椀、猶林翁之贈もの鮭の酢もあり、一時満腹、○午後一時為吉、所謂草を買来ル、上等ナリ、初平塚へ買ひに行く者は手水鉢也、言語の違ひに因て殆ト別物を買ひ来らんとす、慎むへしといふ、○午後一時頃、例の如く舛子の扶に依て手水に行く、奇あり、○其後灌腸、明日之入浴を思立しなり、通利頗ルあり、小便所、明日か明後日は出来るへし、職に花柄之下駄を以て其不足を償ふ事となしたり、後普請場を見廻り、玄関より帰座〔湯婆カ〕に就く、○本日は寒気殊に甚しきを以て午睡を試んと欲、牀を取らしむ、湯且普既に備る、是に於て牀に就く、○晚餐は赤小豆飯、鮎の甘露煮、味尤佳し、海鼠腸等ナリ、尤味佳にして満腹なり、四時就食、其間小水一度、就寝、其前アポプレキシー丸三十粒、其後就寝、

二月十四日『火』晴、西風昨日に同じ、寒気も昨日に同じ、西風何時変すへき哉、○朝灌水、其後コルンメール牛乳三盃、其後小水、座上ニテ、○本日朝大工、小用所を直し既に了る、未だ試ミず、○其後小水を試む、至極上合宜し、小水一度、其前アポプレキシー丸三十粒を用ゆ、○其前大工の際に小水一度、直後へ大工来ル、○富雄より挨拶状を差越す、○午餐晚餐共略す、晚餐後潮湯に入る、其後直に寝に就く、

二月十五日『水』快晴、風穏なり、北風ならん歟、未だ分らず、○朝灌水、本日は水らず、余程凌き能し、其後コルンメール牛乳二杯、其後小水一度、其後剃鬚、明日の用意をなす、大工老人之分独り来ル、本日ニ而大工之方は落成之由ナリ、○左官来る、○小水前アポプレキシー丸三十粒を服用す、○九時過より湿電を行ふ、個所別段替る事なし、菊も同し、○金太湯を遣ふ、天気好ければ大強音無し、午餐は大

「西周日記」

鰯の煮付と雲丹と鮭のはら之子等なり、佐土原公贈物の余、此にて満腹、其後普請場見分後、高木下道を通り横に切レ、本道より門に至り端路の裏門を通り元椽側(縁)に至て休息す、其後別爪、其後小水ニ行く、○本日より土方の親方、南畠の経界土手に掛り、先つ溝を掘りて水を抜く、○本日朝の晴天に似す南を除き北方一面に曇りたり、風は北風なり、○本日は時事新報も早く午前に来りたれと、貴族院は前日と異ならず、衆議院は予算の事にて急わしき様子なり、貴族院に政費、即貴族院費節減の問題に、林議官十分一を節減費政府に即ち海軍費に納めんといふの議は法定せり、是尤当然なるか如し、○晚餐は赤小豆飯、海鼠腸等三椀、餐後百足屋主人来ル、買入地面経界之事を見、堤を築く、五円ナリト、是を付け合して十七円となる由、其後□を植るも彼方より百姓を差越して此を為さしむに至る、梅の樹下なり、孰れ細算して此を任さんと、其後アポプレキシール三十粒を服用し、寝に就く、

二月十六日『木』晴、本日東京に一両日帰ル、夜来所謂習なれと本日は北風ナリ、○本日朝より築堤の土方来ル、○灌水後コルンメール牛乳二椀、飯一椀、○其小水へ行く、其後灌腸、通利あり、其前アポプレキシール三十粒、○此日客不多、大磯ヨリ夫婦と別二人、横浜ヨリ多ハ帰へりたり、着後直ニ山本ヲ林并ニ岡へ遣ハシ、鮭の子を贈らしむ、帰路に西小川町三崎座に立寄り座敷の有無を聞合せたる、○富雄も来り在ルを以テ、今度津和野へ帰省スルニ付、鶉ニ粟を西へ利足トシテ遣ハス、山楽の花鳥を大野直和に、米庵ノ真筆天馬賦を富雄に、清人張照ノ法帖を富雄に、故法帖ノ良キ分一箱を井関に、生存遺物トシテ、并ニ金壺円宛を大野、西へ贈らしむ、其後山本帰り、林、岡等の返報あり、また(三崎)座は九時より始まり五時半に畢る由、総而浅草の大和座の如し、見料も容易ニ而、弁当菓子等も茶屋一軒の賄ひの由、愈々行く事に決せり、

二月十七日『金』本日灌水、早朝より天気予報、東京地方の部本日曇りとあり、本日も朝より三崎座、周、舛、きよ、三人行く、晚五時半前帰宅、

『本日朝東京微震あり』

二月十八日『土』本日霽れたり、未点と曇雲あり、昨夜始終雨る、雨水の勢なりと見ゆ、○朝起灌水、其後夫婦共ニパン、牛乳二椀、其前灌腸、其後愼思郎君来訪、(其前朝浅日屋衣替之注文ニ付来ル、価二十五円の袖裏海巻の羅紗マンテル(前カ)テルを誂ふ)、鮭はら之子の糟漬到来、此は大好物ニ而、佐土原君より兼而到来なり、故に好物之処、測らず愼思郎君より到来也、○其後続て瀬脇姉君、昨日来る、本日は瀬脇細君来訪也、兄は連来らず、○本日午后二時之瀛車ニ而大磯へ帰る積りナリ、瀛中ニ而大船近傍ニ而、石黒忠直君(忠)に逢、暫く話して、彼の瀛車大船ヨリ横須賀に行く故下り分る、四時過大磯に達す、本日送る者、きよ子、富雄、時雄、長子ナリ、迎る者為吉ナリ、留守ヲ托シタルきみは今朝故郷ニ帰りたる由ナリ、俄に暫□下樓なり、後餐潮湯に浴し、寝に就く、午前アポプレキシール三十粒を服用ス、

二月十九日『日』朝曇、其後霽に向ふ、○朝灌水、其後コルンメール牛乳二杯、其後小水一度、○本日土手築、朝より来ル、其前植木屋の雇人数人、昨日入れ置きし植木を担ひ去る、○其前アポプレキシ丸三十粒服用ス、其後小水一度、其後小水一度、○本日は北風なり、○九時過より湿電にかゝり、両腕面額項脊両脇右肩下両腹両脚背、菊も同じ、○午餐は豊住より到来の鮎の糠漬、佐土原君より到来の鮭のはら之子等なり、此にて赤小豆飯三椀を喫したり、○其小水一度、○其後時事新報を閲し、緊要部を了れり、○本舛子は菊^(母)を連れて運動に出つ、余を誘ひたれと天気陰鬱なれば断りたり、留守は金太寥にて甚し、○昨日、寺西一善より養父啓太郎の悼状に金壺円の礼を差越せり、事多くして脱したり、○舛子は菊を連れ平塚まで至り反物を買て三時頃に帰宅せり、○□、○晩飯は赤小豆飯、海鼠腸二杯、また赤小豆飯、鮭のはら之子一杯等なり、後中風好薬三十粒、寝衣を着替へ寝に就く、其前小水一度たり、

二月二十日『月』早起、灌腸、硬利四五通利あり、其後灌水、其後コルンメール牛乳二椀、其後湿電、如平常腕右肩下、菊共に同じ、遂朝九時より十時過に至たる、午餐は海鼠腸に小赤豆飯^(ママ)、また鮭のはら之子、白飯ナリ、最後に食す、此間小水三度、其後入湯潮湯、了て就午睡、○本日朝百足屋来、湯殿戸を見て行く、其前松五郎来ル、舛子奥に逢ふ、大家の不都合を語る、議して行く、其後百足屋来り、始に買入地□□□□□□□□□□、○午後建具、湯殿物置の戸を拵て□□、入浴後、植木屋来、植木□□□□□、松の枯葉を隔剔ス、二十日に不虞の事は菊使に出、狂犬に噛たる事ナリ、犬はシヨンの友にて且家へも来るよし、見識ある犬なり、突然菊に噛付たるすは如何ニモ不思議の事ナリ、馬罵氏に至り、石炭酸を投与し熱を□□る後にすへしとなり、○入浴後午睡に付き、此事不守るに堪へず、○裏土手築終す、明日は雪なるへしと謂ふ、虹川を亘れりと、余は臥中故此を見ず、○其後アポフレキシ丸三十粒を服用し、寝に就く、

二月廿一日『火』朝薄曇、午後は如何哉、○朝起灌水、其後コルンメール牛乳二杯半、其後小水一度、少し溢れり、其後一寸上の間に至り新築地を見る、此時小水既に腹中に溢ふる故に疎走あり、○其後アポプレキシ丸三十粒を服用す、○其後梅の母親来る、赤小豆の土産あり、○其後湿電を用ゆ、右肩下も、菊も同じ、○菊、馬罵へ診察を受けに行く、其後帰宅、昨日の咬傷狗亦来る、菊近寄らんとすれば亦来らんとす、恐れて止む、偶為吉不在なる故撃微を得ずして止む、○午餐は鮭の味噌附、海鼠腸、鮭のはら之子の糟漬等ナリ、赤小豆飯、白飯等、また本日より白飯を用ふる事ニ決す、赤小豆飯を必とせず、午餐後小水一度、梅花を看て、後園より環り、高木送に出て、門前を通過し、再び座敷の縁に至り座に復す、途中にて高木の翁に逢ふ、高木の事を囑す、また平野の婦人君に逢ふ、平野及三嶋の庭内には梅花満開なれと歩行の勞を厭て顧ミして帰宅、梅の母は午餐後に帰る、○時事新報も荒増見

「西周日記」

たり、貴族院ニ而十分一の決議は論あれと感服せず、松林館の談は可なれとも独り松本順君に帰したるは感服せり、山県君病気の由は始而審たり、○市村座の三月狂言は幕臣の近藤重蔵□□□□□□、○菊の処へきミより書状届く、道中ニ而一夜不快なりし由、三月十日を期して帰宅せんかと述たり、○本日風穏にして海上寸波なく、其色如藍、明日も天気なるへし、○晚餐は安口鍋等、うどん、牛肉□□□等ナリ、○紳六郎より鹿兒島県下より便来り、太郎死去之追悼と、自身レウマチス未全癒せず、大磯ニ而療用と事ナリ、○然るに本日時事新報に既に呉ヨリ千代田艦出航之由ナリ、遠からず帰京と見へたり、○其後アポプレキシール丸三十粒を服用し、小水一度、後就寝、

二月廿二日『水』天気曇る、初の間晴曇相半す、後全く曇となる、気候は少く暖なり、北風、雨は降らず、○朝灌水、其後コルンメール乳牛二杯、其後小水一度、本日加藤へ行かんとして俄かに灌腸す、乾便少く通利す、其後小水一度、○加藤より来客中ニ而不得来と報す、此方は午後必行かんと思ふ、○其後萩の餅出来、加藤へ為吉を遣はし、午後二時必ず参上せんと報ス、其前為吉、海水二個を担ひ来る、○其後十一時に際し萩の餅、此に黒五切を喫す、○午前百足屋来ル、納戸の錠前の事、買入地に土管を埋る事、また買入地の土堤の先き三尺許の歩道を掘り、四足亭の如き物を建る事等を注進し呉れたり、萩の餅を出ス、次に暫次にてきみの事を言ひたりと、○午餐は入浴後、直に加藤氏を夫婦にて訪ふ、人力は例の金太ナリ、夫より少く話し、直ニ乞暇て松林館より出つ、加藤君は二三日病氣ニ□□□□旁殊ニ烈敷故、卒然息閉し一時困難したる由、其故乞暇て大磯に來りしなりと、夫婦ナリ、仙台へ行きし娘も在り、夫れより余金太の車にて帰り、舛子は浜を運動して帰れり、帰宅後晚餐は蛸の煮堅し、はものかは焼等ナリ、帰宅後直に築く土堤之裏芝植を見て面□□に入り、小水に一行、始て終息を得る心地ナリ、其後アポプレキシール丸三十粒、小水一度、就寝、

『本日も時事新報来る、□□ □□、』

二月廿三日『木』曇、朝灌水、其後コルンメール牛乳三杯、○紳六郎より呉より書状、きよ子所へ来る、^(買)儂麻室斯余り宜からず、左の足痛む由、故に兵庫寄航せず、須^(増)摩の病院にても入り暫く養生せんと申越したる由なり、○午前アポプレキシール丸三十粒を服用す、○紳六郎病氣は誠に心配なり、併遠路如何とも為る能はず、きよ子の心配思ふへし、○其後表の手水所へ行き小水一度、○此頃より全く曇天となる、其前百足屋来ル、直に下の畠に至り指図する事と見へ去て来らず、○本日は大工も来り物置の普請に掛り居れり、○百足屋は其後帰れり、○九時半より湿電利不宜、個所も菊も同じ、○為吉^手水所葬を直ほす、○時事新報来る、○小水一度、○また其後にも小水一度、此にて時事新報を見了す、○議会も詔勅の故を以て、先つ平穩に済むに至れり、先つ安全ナリと謂ふへし、○本日も午後より曇、雲も下へ下る、

晴天となれり、○昨日紳六郎も神戸へ着し、夫より清水港を経て帰京する由なり、先つ万事安泰なりと謂ふへし、午餐は鱧の漿、晚餐は牛肉ナリ、堅くして食へず、午餐後黒牡丹餅を食ひ、晚餐は肉堅き故余り食はず、

二月廿四日『金』曇、薄雲、北風、午後は如何に哉、○朝灌水、其後^腸コルンメール牛乳二杯、早朝灌腸、硬糞通利少く、其後灌水なり、其後アポプロキシシー丸三十粒、其前表の手水場小水一度、○十時前シヨン、東京に行き荷瀛車に乗る、金太、菊、赤松屋の娘、婆さん送に出る、為吉は始終此を世話す、此前菊湿電を行ふ、個所等例に同じ、○本日曇天なるか上に北風ニテ寒気甚し、午餐も酒を一杯飲まんすとす、午餐は鯉の黒漿、鮭のはら之子等なり、小水度後入浴、寝就、其前時事新報を閲したり、本日の新報報告はハワイ革命の事、貴族院林、諸君の論色等にて、別に報記すべき事無し、梳髪後、此を記して寝に就く、○新聞中廿一日岐嶼早にて地震之事あり、よみ驚くへしと察す、晚餐は鯉黒醬漬ナリ、乃ち黒醬漬は堅くして食可らず、○

二月廿五日『土』本日天気朗清ならず、朝も青気にて紅霞見出す、漸く九時頃に至りて日光一寸上の方より現はる、朝寒し、北風は常の如し、○本日は朝寒き故灌水せず、唯兒を洗ふのみ、其後^{ママ}コルンメール牛乳二杯、其後アポプロキシシー丸三十粒を服用ス、其後湿電常より利宜し一回、本日は人足来ル、大工は昨日ニ而了すと見へ来らず、○此時橋元文三より書状来る、亀井家の事ナリ、○午餐は鮭の煮肴、海鼠腸、蛸の煮和ナリ、中にも海鼠腸を食ひたり、午後百足屋また来園、梅樹二本を口入す、一本は方園の南端に植たり、一本は東端に植たり、正東にあらず、未だ定まらず、○本日の天気頗る□□□□、晚来海上船の出るは夥多なるに在り、白帆扁々として遠房総間に出没す、晚餐は安口鍋、うど、海鼠腸、芳蓼草等ナリ、白飯三杯、亀井君の葡萄酒四杯等ナリ、外もあり、

二月廿六日『日』晴、本日紅霞の間より日光出現、初而旧時の模様をなす、○朝灌腸二廻にして始而通利あり、其後灌水、本日寒気何時より強し、器具皆水始して動かす、熱湯を以て先つ此を復し而後に動く、其後^シコルンメール牛乳三杯、其後アポプロキシシー丸三十粒、○小水一度、○午後湿電一回、個所並ニ菊も同じ、○此前より本草書を閲す、○また小水一度、簡易法を行ふ、渴□□□□植木屋、花を活けに来る、昨日園梅の残也、○午餐は鮭の煮付、海鼠腸等ナリ、餐後園内より下鼻に降、堤に上り本道より園に至り帰ル、則ち小水一度、潮湯に入り暖まり、後梳りて後午睡に就く、○本日天気は午後亦曇天となれり、寒気少く暖たれと、橋元文三の答書を作に懶し、遂ニ寝に就、○晚餐キヤベツの煮物、金太は鮭の煮肴、別に従二位殿よりの葡萄酒三杯ナリ、夕方紳六郎帰宅、電報届き返電に茲へ来レと出ス処、湯治ならハ仕度ありとせり、復返電、湯治には□□□と尋る、余は詳かに舛子より申遣ス、○今夜八時紳六郎着、明前十時瀛車ニ而、一旦海軍省御届等の為メ東京へ帰り、繼

「西周日記」

て湯河原へ入浴之積のよし、○富雄電報届、此は八時三分とあり、「イマブジチャクス」トあり、二十六日なり、延引の様に見ゆれと船中の都合も上□も中□も下□る故ナラント、○此夜大磯表火災あり、夜十時頃下の方次の宿の近所ナリと、(熱海の手前^{□□□□}より一里程の由、湯河原ニ至る、○発車は竹豊より少し傍の半田といふ処より瀛車に乗りたる由)、

二月廿七日『月』曇、日光を見ず、○朝灌水、其後コロンメール牛乳三杯、其後小水二度、○紳六郎、九時五十八分の瀛車ニテ帰京す、来月一日は再小田原迄に同車ニテ□る、梅花を見、紳六郎夫婦は湯河原入浴に行く由、○午睡より雪降り出ス、紳六郎は即時帰宅せり、○晚餐は湯豆腐、海鼠腸、焼豆腐の煮物、葡萄酒三杯、象煮餅等ナリ、其前小水一度ナリ、○□午時より雪降り出し未タ止む景色無し、明朝まで降る事ならん、○

二月廿八日『火』本日も十分霽れず、曇天なり、風はならひの由、南東の間なり、爰ニ而は前岡の浜方より起る風なり、○朝六時起き灌水、其後コロンメール牛乳三杯、其後米来る、舂子、早速土産物を分配し、勃平へ手帑を出し、きよ子、紳六郎へも手帑を出し、○午餐は米の土産等ナリ、乾鰯、さ寄等なり、別ニ何も無し、○午後二時よりまた〜雪降出ス、小雪にて積り□なり、○午前横須賀□□一面の雪なりしか、(須賀海岸と此岸積雪融けたれと、午後より同一様となれり)、

三月一日『水』曇天、早朝灌水、此時便気頻りに催ふしたれと湯殿なれハ堪へたり、夫よりコロンメール牛乳二杯、○其後大用有るか如く通せず、小用に行けども何事も無し、於是濯腸を用ひて相応に通利あり、其後アポプレキシール丸三十粒服用、一番東京瀛車、勃平も紳六郎も見へず、二番も見へず、三番は荷瀛車なり、○風は余張北風にて海上船颿多し、○三番には紳六郎、きよ子、勃平とも来らず、○本日園丁朝より来たる、○若松屋より三日の餅を差越す、○午後また為吉の腕に依り新開園の半まで至り見分を遂げ来る、○此次の瀛車ニ而或は勃平来るかとに極なり、為吉、此か為に停車場に行き見る筈なり、紳六郎夫妻、勃平共、一時五十四分に來ル、共に酔を以て馳走とす、皆満腹にて四時二十五分に紳六郎夫婦出立す、勃平は跡に残ル、

三月二日『木』好晴、○朝灌水、其後コロンメール牛乳二盃、○本日十時十四分の瀛車にて小田原へ梅見に行くに極める、○勃平も同じ、○八時半過、百足屋水管の落口願書を持参、印行をなし遣はず、御苦労なり、三時三十分帰着、百足屋終日弁当持参、園内の^差白図をなしたる由、帰宅後も猶在り挨拶して帰る、此時弁当之事ニ而、金太の羨望ありと菊いふ、○午餐は小田原片岡ニ而白酒杯取りし、先つ□□瀛車を下て梅園に行く、路悪くして余り□無し、帰着後晚餐は雑の餐なり、

三月三日『金』好晴、暖なり、風は南東の様子強からず、北風も交るか、○朝灌水、

○其後コルンメール牛乳三盃、其後小水一度、○此時既に百足屋来ル、人足は朝早く来て南方の嶺を破壊して通路を作る、時既に九時半なり、○湿電十時頃より十一時七分過まで、菊此を行ふ、其序表の手水場へ行く、○園丁最早午餐に行く、百足屋は一寸中間に藤沢へ行く、○午餐は真黒の刺身、海鼠腸、^[ママ]魚鯖の半酢等なり、其前座の鰻頭一ツ、○三時三十分瀛車にて勃平帰る、金太は~~十四~~貫二百目、菊は十三貫五百目、勃平ハ十五貫七百目なりと、米は得らず、○午後四時聴て百足屋帰る、○^[ママ]土方頭梁も帰る、○四時過石川達玄君訪訪、色々土産あり、招仙閣の吸物等ナリ、了て舛子之母の五十年祭付合葬を□為相沢を□□□に託し、相沢朮君と相談の上にて取計度書を送る、□□君は此を□□之通算計して左取計らんことを許諾す、○晚餐後小水一度、就寝、○前ニテアポプレキシール丸三十粒を服用スナリ、三月四日『土』朝より曇、午前十時頃雨降す、○朝灌水、○其後コルンメール牛乳三盃、○達玄も同朝飯、○後小水に表へ行く、○其後時事新報来ル、○少間達玄、米と同道ニ而、大磯町を観物に行き、浜へ出て百足屋傍より帰り来る、○午餐は鮭の子、吸物は昨晚の残ナリ、亀井公の酒二杯など、○一時二十四分、達玄瀛車ニテ出立、○午餐後入浴、海潮水、○其後津和野村田春生へ額面の挨拶状を認め差出す、○其後小水一度、○其後休憩に就く、休憩、晚餐は鮭の卵の糠漬等ナリ、□鉢の牛肉等なり、皆腹中に□して甘からず、○餐後帯を解き小水に行き、寝に就く、三月五日『日』朝灌水、此日昨夜より海潮音甚敷、朝になり少数折合ひたるか如し、本日曇天多けれと、先雨も降らず天気なり、○裸にて表の手水所へ行く、灌水時湯殿一度、総て二度なり、○勃平より手昏到来、挨拶状なり、米ニも手昏来ル、海苔も贈る由なり、○舛子、障子金太破烈並に敷紙の破烈、勃平の破烈、之を繕ふ、○朝灌水後コルンメール牛乳三杯、本日よりコルンメール尽く、白飯にても可なりと極めたり、尤豊住好より赤小豆を贈由なれば赤小豆飯になる歟も知れず、○午前小水一度、午餐は象煮餅二杯、常飯一盃、菊は鮭のはら子等ナリ、○園丁朝蔵ら来る、園を廻せんと欲す、○天気は漸く晴れ、白雲を北風へ遁り去る、風は所謂南東なり、海上は所謂干潟前にて白波驚濤騒然たり、○今朝加藤氏へ宮中の贈あり、先日牛肉の挨拶なりと、○其後園内一寸行き見る、風氣之故ニ直ニ帰し座に就く、○午時過一時頃より西風となる、暴風ニ而海上白波起る、○其後少時間洪紙の上ニテ臥す、庭冷へて安眠せず、其後小水一度、○其後勃平より白酒、米へ海苔を贈り越ス、好子の注意に由るなり、橋元文三へ書を贈らんと思ひたれとも、彼此ニ而止したり、○晚来四時過白雲起る、海上同時の位置を掩ふ、此白雲は西風ニも感せざる物と見ゆ、○晚餐は白酒、干玉子漬旧漬等、○米、明日一時の瀛車ニ而出立^発の由、舛子より^{手金ノ}小^周金^ノ銭別あり、余は瀛車を六円に出ス、壺円を遣はず積ナリ、三月六日『月』快晴、○朝灌腸、通利あり、其後灌水、其後コルンメール牛乳三碗、其後表の手水所に行く、頗ル急にして垂れ掛けを為す、○本日快晴にて、海上之驚

「西周日記」

濤無く水光歛艶として波頗細やかなり、○九時前大磯頗ルの地震あり、○海上の風帆は依然たり、○時雄より亀井写真の事ニ付照会あり、舂子、此を□□し遣はす、○十時過小狗来ル、若と命く、○米、出發ハ二時ナリ、○暫くして海水湧くを報ス、直ニ入浴二時半頃ナリ、揚ル、加藤昭磨君^照の夫人来ル、湯より出ると雖へとも、暫く上亭に居りて帰るを待つ、遂ニ寢を通りて上亭に来ル故に止を得ず挨拶ス、後間も無く裏口より帰る、岡を越へて帰るを見たり、○其後舂子、湯入る、○晚餐は若狭鰯の炙物、昨日の牛肉、白酒三杯等ナリ、晚餐後日記を認め、寢に就く、其前午睡中百足屋来り、此度の地面開発地之事ニ付舂子と相談、天井無きは三拾円、天井ヲ附れば二拾二円位、猶大工と植木屋と相談の上、再可申上とノナリ、○晚餐後^{ママ}アポプレキシー丸三十粒ヲ服用す、

三月七日『火』晴、北風強し、寒、朝灌水、其後コルンメール牛乳二盃、其後表手水所へ行く、小水一度、其後アポプレキシー丸三十粒、○九時より十時まで、部位も菊も同じ、湿電なり、○天気北方江戸部分は晴たれと、房州の部分、横須賀の上は曇雲あり、相州の方も同じ、○其後表の手水所へ行く、急にして□□ましあり、小水一度、○本日寒けれと漁獵には好しと見へ、漁船横須賀辺へ夥しく出てたり、○午餐は鯉の子、若狭鰯、梅干塩、紫蘇口塩等ナリ、味可なり、白飯三碗を喫、○天気霽れ、南東少し雲あるへし、○時事新報荒方閲了す、○其後下園へ下り園内を遶りて提上より本道へ降り、また本道より高木下の径頭に入り、遶りて右に折れ、裏径より屋敷へ帰りたり、尤園中半迄は舂子此を扶く、其以下は為吉此を扶けたり、○晚餐は広嶋の鮎の糟漬、頗る味佳ナリ、鯉の子、菜の漬物等ナリ、皆頗ル味佳なり、午時前食了ル、○アポプレキシー丸三十粒服用、再び寢に就く、

三月八日『水』初晴、後半天曇る、本日は曙色甚宜しからず、日出前少く紅雲あり、日出後南方より東方へ白雲を吹き順る、風は北風なれと此に關せず、南方白雲は遠く相川地方^{州カ}の上^{州カ}にあり、後午後出浴後は南方亦霽る、一時横須賀海岸雨模様の時なり、只今□之頭上白雲片を残るのミ、南東翠色、唯対岸は漂々不可弁といふ、○朝灌腸、其後灌水、其後コルンメール牛乳二盃、其大通の気味あり、菊に衣を儒せしめ大便所に至り息むこと数次、辛して一水便を為す、後アポプレキシー丸三十粒を服用ス、其にて利く気味無し、○午餐は白飯、海鼠腸、鯉魚の卵等ナリ、加藤照磨君昨夜着の由ニ而、雞卵十数を贈り呉る、返礼として広嶋の鮎の糠漬を贈る、○本日朝疾くより園丁来ル、然ニ而見分の暇無し、途上に棚櫛を打つを觀ナリ、○午餐後直に潮湯に浴ス、並ニ鬚髯を剃ス、其前俳諧自在法九ノ巻を贈り来ル、後時事新報を贈り来ル（井上毅君文部大臣に登用せし由、河野前文部大臣依願免職、西村農商次官^務も辭職の由、其他内閣は任免等無し、山県は昨日従り目白台へ引越たりし筈れとも司法官を免せられたるには非ず、郡司海軍大尉は宮城県にて大ニ歡迎準備を為す由ナリ、○午前湿電を用ゐたり、部位は何時もの通り、能く利きたり、菊之

を司めり、○海上一里溟濛土を雨めり如し、未だ陸は雨降らず、時正に五時なり、
○晚餐はかれいの煮肴、豊住の鮎への糠漬ケ等ナリ、○本日愈十日出立と極める、
○園丁も皆帰り去る、

三月九日『木』快晴、昨夜の土風変して、本日四方霽れ亘り、一片の雲無し、○朝灌水、其後コルンメール牛乳三椀、其後表の手水所へ小水に行く、独歩にして、為吉見兼て此を扶く、○時に杉本突然来り、昨夜三嶋氏の小兒悪く、本日東京へ連れ帰る由ナリ、○本日も土方数人来る、○其後アポプレキシール三十粒服用ス、○近江屋の小僧来る、金太吠ル、湿電を掛く、部位も菊も同じ、○時雄より端書来、昨日夜瀛車二而、松并ニ金柑柚ノ樹等を送り出したる由ニテ、未届かず、○其後小水ニ内手水場へ行く、○衣物の衣替悪しく新参の梅なり、○本日十時前、天候を窺ふに、横須賀沿岸は猶朦朧、白雲は相州地方より東方へ送り来ル者の如し、海上は平穩、舟船も定処に聚るか如し、風は南風なり、煙烟北に飛ぶ、○午後より西風に変わり、故船□も出てす、○午餐は酢卵と白洲干とを混する物二椀、其他鮭のはら之子等なり、餐後表の手水所へ行き、其後椽側より下て松を見に行き、帰て新聞に掛る、○時事新報も格別の事無し、但し河野文部大臣は宮中顧問官に任せり、山県司法大臣、次に清原司法次官之事あり、繼て西村農商務次官の事あり、皆信す可らすと思ふ、世間話なるへし、○其後百足屋来り、三時過より松を世話し、また金柑を世話し、諸事を指図して帰り去り、中間白酒、酢を供す、別に事無し、○日本本草は一応閲したれと、別に遠忘の説なし、只花と同類なる由、本草細目に見へたり、

三月十日『金』曇天、本日午後一時の瀛車二而東京へ行かと思ひたれと、止メにしたり、○雨模様なり、朝灌水せず、只面を洗ふのミ、其後直ニコルンメール牛乳三盃、其再灌腸、今朝一度灌、通利少し、再灌腸亦通利少し、食事不足故と思はる、本日朝一度一寸と日光を拝したれと、其後忽ち曇天となり、海上は北風故船舟は出ると見ゆれと、海上も惣曇りニ而江の寫も鮮明ならず、出立をも止し、学士会院は断り遣はず、白帆船も一旦出たれと追々帰り来る、但し漁舟は猶海上に見ゆ、時既に十時後ナリ、○潮湯は未夕湧かず、其後十時湯に入る、湯より上れば伊豆竹来ル、此度之女は一見貌姿好し、天気猶北風ニ而曇愈甚し、雪降るかも知れずとおもふ、○□□□□時午餐帰ル、○午餐は海鼠腸、鮭の煮付等ナリ、浴後一同食□□ナリ、○午前時事新報来、床就、之を閲せんとす、○午餐後、牀ニ而新報時事を荒増読閲したり、牀中表裏とも小水二次ナリ、海上例の土風の如し、陸は未だ雨らず、風所謂東南ならひなり、○晚餐は鮭の子、梅干塩等に続飯三杯、至極味佳なり、飯後アポプレキシール三十粒服用、就寝、

三月十一日『土』曇、寒、霽れ相も無し、○朝灌水、其後座に就きコルンメール牛乳二杯、○本日も植木人足早くより来ル、○其後表手水所ニテ小水一廻、○為吉に油糠を買ふ事を命ス、来たらハ昇へ入れ肥へたるを見て、枸杞ノ種を蒔く積りなり、

「西周日記」

○本日朝アポプレキシ―丸三十粒を服用ス、○植木は本道の界なり、○湿電一廻、
個も菊も同し、○植木屋一間許松の樹数十本を運ふ、即堀ノ止に架する土橋ノ橋杭
なり、○裏之手水所ニテ小水一度、金太うんこを垂るゝ、同時混雑甚し、○時事新
報来る、○此時十一時過頗曇少く破裂を生ず、○午餐は鮭の煮肴^子、人參、海鼠等、
午後二時百足屋来り、人足頭及植木屋も来ル、□□を□す、皆礼を述へ包ミて去る、
土堤園圃板杭を結び、松を渡さん為メ、旧来のものを下に移ナリ、平□少し他所へ
移、景色大に変われり、○新聞も別に格別の事無し、只斎藤隆一郎氏、西村氏に代り
商務局兼農務局とを兼るのミ、○西村氏の補処を得たりと謂ふへし、また西郷大臣、
仁礼海軍大臣二代る由、是も其処を得たり謂ふへし、其他はハワイの革命等、記す
るに足る事なし、○寿丸より手紙届く、生存遺物と金一円の礼あり、只富雄之事に
付一言も無し、薄情なりと謂ふ可し、○晚餐は鮭の味噌漬、大根の煮物、梅干塩等
ナリ、○怪む可きは晩刻の間に黒雲半天す、半天を覆ひたるナリ、平時ならハ兎も
角も、□□には非常なりと謂ふへし、職^(人)皆も帰り去る、○余は後アポフレキシ丸
三十粒を服用了、○本日朝命したる油糟肥料は買ひ来らず、○

三月十二日『日』快晴、昨霽、陰雲天を覆ひたれば如何と思ひしに、今曉は陰雲も無
く霽れたるは都合宜かりき、朝灌腸、通利乾糞少し、其後灌水、其後就座、コルン
メール牛乳三椀、其後表の手水所に行き小水一度、此時帰座、歎^歎痰ニ付失禁アリ、
其後舂子来り、衣服を衣替へ、座も直る、○本日大工諸人等朝早く来ル、大工は例
ノ人良ニテ、中途鼠穴を塞くに雇ひたり、○白酒を売りに来ル、一水三十五銭ナリ、
二掬ナリ、○表ニテ小水一度、○其後湿電一廻、部位菊も同し、時に十時前ナリ、
午餐篠の子と昆布の吸物にて別ニ佳味無し、尤本日は肴無き様子なり、其より小水
一度、後三時より入浴、○新聞は山県枢密院議長、西郷従道君は海軍大臣、仁礼枢
密院顧問官、伊藤内閣總理兼司法大臣ナリ、今後大学は先づ改革あるへしと事、
再調査は必要無しと事、是は鉄道五線路法案之事ナリ、○本日の天気は午後より全
く西風に変し、海上白波起り一船も出でず、○本日も四時より海上一面に白雲覆ひ
たり、常も同し相州界には及はず、如何なる訳にや、西風は猶烈しく歇ます、○本
日植木屋梅の鉢を呉れる、○松と相並る、繭を下段、東南方へ移植へ、丘岡上より
人の園庭を下観に支障せしむ、○五時職人帰る、○晚餐は□ 従兄弟煮、白飯二椀、
梅干塩等ナリ、食後アポフレキシ―丸三十粒を服用、其後寝に就く、○西寿丸より
三月八日□ノ手帑来ル、生存遺物と金壹円了する由、大野出立は何も言はず、
『本日第二日曜、学士会院定日なれと、十日に断り願遣したれば出でず、』

三月十三日『月』快晴、昨宵天気も本日能く霽れたり、○朝灌水、其後就座、コルン
メール牛乳三盃、○本日も朝早くより甲子植木屋来り、人良大工も来ル、○朝表の
手水所へ独ニて手水に行く、○其後アポプレキシ―丸三十粒を服用ス、其湿電一回、
個所菊等凡而同然、此時為吉へ油査ヲ検、直に行く事を命ス、○其後園内へ下り、

左右を徘徊して、再び帰りて座に就く、此時舂子は菊を連れ、金太と共ニ向ふの岡を凌て帰る、○其留守に加藤より牛肉を差越したり、留守居梅ニ而、誰か来たか分らず、定而弘之君ならんとおもふ、○座敷に行き、窓格より園中を望むに、百足屋来り此方へ来らす、○其後小水一度、○馬嶋より二度目の菓礼を取りに来る、○十二時前天気少く曇り白雲を帯ふ、風は昨日の如く西風なり、○午餐は鯛の酸蒸、尤佳し、仙台の水鷹、金太好んで此を食ふ、他に別物無し、其前小水一度、○誰人か甲子植木屋之處へ来り、余の窓格より見るを見て目礼し、植木屋と相談して去る、遂に何人たるを知らず、○三時過百足屋、角殿と共に来ル、先是菊百足に立寄ル、兩人黒ほくを集め、目方を秤る由ナリしか、果して黒ほくを一荷贈り来る、松の土台を装ふナリ、是に□□□□□□を出し□茶を供す、□東海道より着、前岡を過り来ル□なり、或大野富雄ならんを□、舂子をして此を□せしむ、□□□、○百足屋ハ晩飯にて色々世話を為し居たり、○其後晚餐は鯛のしんしょう、□子の従兄弟煮等ナリ、夫より園内徘徊し、園中ニ而小水、□し出ゝて復座し、為吉□□此を扶けたり、其後アポフレキシー丸三十粒を服用し、就寝、

『本日新聞無き日なり、』

三月十四日『火』晴、温風にて出でず、○朝灌腸、硬糞少く通利あり、其後灌水、水温稍凌能し、其後コルンメール牛乳三盃、其後アポフレキシー丸三拾粒服用ス、○本日大工、植木屋、早朝より来ル、大工は橋梁、^{イキ}植木屋は松の^{イキ}黒ボク等ナリ、○八時前海上帆船多かりしが、只今は既に一艘も見へず、○八時表の手水所へ行く、菊、手水所に掃除ニ来り此を扶く、先小水一度、○本日は北風と見ゆ、朝九時の間は左の如しといへとも午後は如何や、○九時より湿電一廻、部位も菊も同し、○其後椽側^(縁)に臨んで躑^(躑)を見に行く、松の基礎も十分ナリ、○午餐は牛肉の剥煮、人参の煮物等ナリ、餐表の手水所に 行き小水一度、○其前に佐土原候より落合君見舞^(儀)に来る、同君二月頃病気の由ニテ久しく不沙汰したりといふ、○時事新報来る、別ニ奇事無し、勝君著^(開)国起源、南伝馬町吉川半七刊行ナリを見度と思ふ、文部次官牧野^(伸)宴顕氏なり、是は本日の新聞に非れとも□□□記し置くなり、○二時過仕事場へ百足屋主人見へたり、○其後和泉竹の世話なる下女も来る由、此時和泉竹新杵の餅菓子持参^(二而)を百足屋始職人へも分ち与ふ、○風は南風なりとも霽れ、天気は霽れ、俄雲無し、○四時入浴、剃鬚、前岡猶日存ス、○晚餐は 白洲干の煮物、人参の煮物等ナリ、了て了りてアポフレキシー丸三拾粒服用、寝に就く、○本日、百足屋は夕方まで世話を指揮して帰れり、其後後園に下りて、為吉の扶助にて後園を散歩し、了て座に復し、晚餐に就て、寝に就く、

三月十五日『水』朝曇、雨、北風、○朝灌水、其後就座、コルンメール牛乳三盃、豆煮^(豆)少し、其後表の手水所へ行き小水一度、杖を落し甚だ困て後舂子来り、杖を得て座に帰る、其前アポフレキシー丸三十粒、菊其を勧む、○九時過キ庭に下りて庭中

「西周日記」

を見、再び庭ノ上に来り、下地の所謂新築繩張りを見、又返りて畠下を見、時に移植金柑の肥料の事を言て、復就座、小水二行き小水一度、○此時百足屋来ル、又土管を担ひて来ル、○十時過より湿電に掛り、菊も部位も同じ、○三嶋の寡夫人病気の由ニ而、牧野伸顕氏も一同九時の瀛車ニ而東京へ帰る由、停車場送人多し、午餐は鮎の甘露煮、昆布と切干の煮物、白酒二杯、○本日は朝より雨模様ニ而、少く降雨なりたれと、夕方になり曇雲破れ、半以上は天を観る、雨少きを憂ふるナリ、○本日も油糠来らず、亦今日を約す如何ともする無し、○諸職雨に逢ふて一旦帰りた^なり、○唯人良大工のミ再来て職を励ミたり、○本日三時半の瀛車にて、梅、親の処へ帰省に帰りたり、○本日は紳六郎、或は富雄、若くハ帰るやと、上方瀛車通行毎に待ちたれとも其甲斐無し、○詹景鳳の千字文を観て、夕刻まで閑を消したり、○本日の植木屋は躑躅の大木をもちの木の下に植へたるのミに、雨降り出し帰る、百足屋も帰りたり、○風は天気ニなりて南風に変したり、晚餐牛肉并ニ白洲ノ煮物等ナリ、此時紳六郎より□□□□帰着の由ナリ、晚餐後アポプレキシー丸三十粒を服用して、寝に就く、

三月十六日『木』快晴、○朝灌水、其後就座、コルンメール牛乳三椀、其後表の手水に行く、独行ナリ、其後衣を装し、其後アポプレキシー丸三十粒を服用ス、○本日は朝西京より白酒二徳利届く、○本日職人大工早くより来ル、芝は持込めとも植木屋は未だ来らず、第二の職人は来る、朝灌水前灌腸、通利あり、頗ル沢山ナリ、○九時過園内を却り見る、尤舛子之を扶く、○本日は南風なり、○北椽の戸は素より開き、南側の障子も開く、南風習ニ出して入ル、尤も愉快なり、○九時過より甲子植木屋来ル、此時より南風強くなり海上帆船三を見る、○十時頃百足屋来ル、午餐は鮭腹の子、鮭の味噌付、并白酒三盃等ナリ、既午時を過紳六郎、きよ子俄に帰ル、舛子にいふ、舛子信せず、山を越へ椽前^(緑)へ至る、始て其信なるを、

三月十七日『金』快晴、穏なる天気ナリ、朝灌水、其後就座、雞卵二個、其後表手^水行場へ小水一度、□此時きよ子、少之を扶く、○朝為吉を呼び、油糠の締りをなす、忽出来を報ス、○朝大工早く来る、○油糠は七拾銭位の由、確定之事か分らず、○本日は北風にて清和、海上漁船多く出つ、○九時二十五分地震あり、頗ル強し、其後百足屋来ル、本日東京へ出□之由、○其後植木屋来ル、○十時後^(園カ)専子出来、食して満腹に至る、○きよ子今入浴、○アポプレキシー丸三十粒服用了ル、○後いわしやより酔来ル、周、紳、舛、きよ、皆満腹にて、一時二十五分紳、きよ出立、此を送りて若松屋に小憩後、発車、時に二皇女の通行あり、小学生徒等唱歌叫際に瀛車通行、余は御通行後、嶋津侯の第に行き、昨日の落合君見舞の礼を述へ、人力車ニ而門前より帰りたり、○此時時事新報来ル、吉川宮中顧問官司法大臣となるの外、別に異事無し、○其後油糟を金柑に与ふる、枸杞の実の蒔処を菜園になす、○此頃紳六郎、きよ子の帰着をおもふ、○此時西風といへとも海上帆船出つ、蓋し南風故

海鳴甚し、○来ル二十一日の非職俸給はきよ子に托し、長平より書附す差越す□□
□□、○晚餐安口の□□終ル、アポフレキシー丸三十粒、就寝、○此時七時、
相沢氏来宅、同七時過晚餐を供し、就寝、周も一度起き挨拶し、直ニ就寝、紳六郎
の帰を待て発したる由なれば遅き事勿論なり、

『□□□□□、』

三月十八日『土』晴、北風強し、朝寒、○朝起、灌腸通利あり、其後就座、灌水、其
後鶏卵二個、牛乳三椀、其後表の手水場へ行く、小水一度、○其後相沢君仮名ノ事
始アリ、舂子、明一寸帰京と決す、且つ亀井家勲章ノ事あり旁とて、○其後小水一
度、裏の手水所へ行く、○了て湿電一回、個所も菊も同し、○其後団子一ツを食ふ、
○相沢君は午前の暇に乘し、旧三嶋総監ノ邸中の梅花を見に行きたり、○午前帳簿
の整理に着手、○午餐は紳六郎の鮎煮附、吉村泰得の鮎雀焼等ナリ、○其園内を遶
り、帰て就座、○相沢君、障子を繕ひ、余は吉村泰得君へ礼書を認たむ、○而して
天気俄に変わり亥雲海上を掩ふ、下方浅野氏の家ニは竜巻ありて、障二三枚吹き巻き
上天したりと、植木屋語る、○時に相沢君に入浴を勧めたり、余は余等夫婦も入浴
の積なり、其後入浴より揚り、相沢君へ手帑書封を託し、後舂子も湯より揚り、○
晚餐は小鮎の煮染、鮎の照焼、牛肉等ナリ、餐後アポフレキシー丸三十粒服用後、
小水一度、就寝、

三月十九日『日』朝灌水、其後就座、鶏卵二個、牛乳二椀、其後表の便所へ小水に行
く、○此時舂子、発車九時二十五分ナリ、○アポフレキシー丸三十粒服用、○本日
天気快晴、只今の処にて風も至極穏ナリ、○朝大工諸職人、早朝より来ル、○其後
草花を蒔く、為吉之を司る、第一枸杞、第二松葉牡丹、第三千日草、第四縷紅草、
第五日廻、第六日々草、第七貝細工、第八百日草、第九水蝶花、第十矢車、右了て
秋海棠、また金柑に水を遣り、○其後湿電を用ゆ、部座菊も同し、○十時過より北
風大に起る、海上舟船な^きゝにあらず、或は南来歟も知れず、○午前十時半百足屋来
る、直に下園に赴く、○人足是を担て来る、□打屋ナリ、○十時に人足数人帰ル、
○午前十一時植木屋も百足屋も帰る、○午餐はまく路めし三椀、白酒二杯、至極佳
ナリ、午後伊泉竹来ル、甲子植木屋も来ル、障子を、○本日は時事新報未来、如何
の訳か、本日探索を舂子に托する事を忘れてたり、○相沢の話に□子が□死たりと、
如何なる病氣にて、○午後二時半より伊豆竹来ル由聞き、□所に至る、伊豆竹は海
浜塩干付□処にて運働等勧め、使に海浜に到れば潮既干たり、如何とも為る無し、
乃ち明午時を約し帰を決し、半途より為吉に誘はれて帰る、時三時過ナリ、○其留
守に加藤照磨君夫人来る由、舂子も余も留守に手持無沙汰ナリ、○百足屋主人は午
迄にて帰宅と見ゆ、○紳六郎より端書あり、本日午前八時発瀛車に名古屋、今晚名
古屋一泊ノ積ナリトなり、また時雄より端書、富雄去ル十七日夕刻三田尻乗船出発
の見込之由申越し、○平井平□君の令夫人より稲荷酢を贈り呉ル、四時半舂子着、

「西周日記」

○加藤昭磨君も本日見舞に来たる由ナリ、○きよ子より彼岸団子の贈あり、
晚餐は鰻鯉大□焼大串□□四椀ナリ^{外子の}、○了アポプレキシー^{〔シ〕}丸三十粒、了て就寝、
三月二十日『月』曇、未だ雨らず、○朝灌腸、通利あり、其後灌水、其後就座、鶏卵
二個、豆等を食す、○本日皇霊祭ニ付、山本の忘却を測り、式部長侯爵鍋嶋直大殿
へ書し届書を相沢君へ托ス、○其後表の手水所へ独ニ而行く、○後為吉土産を買ひ
に行く、○其前アポプレキシー丸三十粒を服用ス、○本日諸職人早朝より来ル、植
木屋、大工に代り橋の□太を作る、風ハ朝より南来ナリ、○九時五十四分相沢君
発、帰路西家へ立寄る約束なり、○其後湿電を掛く、個所も菊も同し、○此時郵便
読売新聞来る、○午餐は牛肉、赤糸ひ、ジャガタ芋、少こ□佳ならず、多食せず、
其後一睡座敷にて、□□見れば、天晴れたるにあらず、あらざるも雨は降らず、○
本日は終日南来にて象の鼻穩かならず、牛の額合するに暇なし、晩間浴後愈〜甚
しきを加ふ、何時風落つ可きやと思ふ、諸職人は猶在り、晩来猶芝を掩ひ込むを見
る、○晚餐は赤糸いの□、鮎の雀焼、三葉の酸等、尤味佳ナリ、了てアポプレキシー
丸三十粒服の後、就寝、

『本日は春分六時○八分に入□□□□中なり、』

三月廿一日『火』全天中央及び北^方風は快晴、上白雲東風^{より}南に及び、再び転し西方
に及ふなり、風向は昨日昨夜終日終夜南来ナリ、寒^発甚し、○朝灌水、其後就座、鶏
卵粥三杯、鶏卵を廃す、湯殿にて小水不通、就座後裏ニ小水一度、其後アポプレシ
キシー丸三十粒、○本日南来象鼻壊れ牛頭不全は勿論、上白雲漸次破烈して、晴に庶
幾せんとす、○諸職工早朝より来ルも大工来らず、橋梁も昨日より甲子植木屋に譲
したりと見ゆ、○午前九時より湿電、菊個所等も同し、○海上舟船無きにあらず、
電気十時後了む、○午餐は小鮎の煮物等也、○天気は漸次に白雲消散し、午後は頗
る熱を□覚るに至れり、○晚餐は小鮎^{〔鮎〕}の煮染、鮭のはら之子、若松屋の酢等ナリ、
味佳なり、○餐後富雄帰る、○本日の天気南来風は猶未^レ止、併し漸次和かになり、
断雲横亘夜来ル、雨は測りかたし、○甲子植木屋只今帰ル、曇なり、○其
後表の便所に小水一度、アポプレシ^{〔キ〕}キシー丸三十粒服用、其後就寝、

青建樹、青利家、先年富雄、勝木氏の事ニ付、世話ニ成りし人ナリ、

三月廿二日『水』朝曇、其後北方雲起り、東に亘りて曇黒、其より東へ転し、横須賀
背面は雨降かと推はれ、夫より南へ亘りて、一度曇黒なりしか、中央雲□破烈して
中央部霽天を現はし、西南部は白雲多し、此時九時過南来下辱合せんとす、○朝起
灌腸、硬糞少し通す、其後灌水、其後就座、鶏卵増水を喫す、満腹ナリ、○湿電九
時より十時迄、今日は個所を用ひす、○左右腕を長く試ミたり、技手は菊ナリ、○
午餐は□□こ、○却て味噌汁、小鮎の煮染等なり、午餐後植木屋松に炭の粉を□□、
跡ニテ色と講演す、潮風にはもちの樹丈夫なり、依て其方角にもちの樹を植へたり
とて講談了て帰ル、他雇人は猶在り、○菊を和泉竹に遣はし烏瓜を乞しむ、是女の

月経の汚を去る妙なりといふ、帰路に金太の□を買はしむ、○時事新報は午前来りたり、何も別に替りし事無し、只府県官のミ少しの交換退職なるのミ、○入湯中百足屋来り世話を焼く、跡より□□迎に来たり、俄かに帰ル、海上白帆群出つ十一二艘及、晚餐は星鰈の煮物、鮭のはらノ子なり、晚来黒雲天を掩ふ、明日天気如何、其アポプレキシー丸三十粒、而后就寢、

『本日春社也、』

三月廿三日『木』朝曇、寒気自然強し、日光の昇る処を知らず、風は例の南来北風を交へたり、朝灌水、其後就座、今日より始む、鶏卵二個、白粥二碗、アポプレキシー丸十粒、今日より始む、了て表の便所ニテ小水一度、○本日は何れ雨天といふ程なり、○本日は甲子植木屋横浜へ買出シに行き来らず、余の植木屋来れり、再ひ内の便度^(ママ)にて小水一度、都合湯殿にては三度ナリ、○本日南来なりといへとも、白帆及漁舟出てさるを知らず、○九時の瀛車便ニ而舛子に簞笥片々ひら届く、通運会社なり、此時海上に白帆二艘黒帆二艘を見る、○午餐は豚の露物と鰯のてり焼き等なり、○午後雨降り出す、然れとも輕少の雨ナリ、○午後糸の母親来り、糸の□ニ而機嫌を聴、丁度此間よりの話もあり糸の姉の処にて誘はんとといふ、其意に任せ遣はしたるに序に暇を取らんとといふ、また其意に任せ五十錢に物少く遣はし、暇を告げて帰り去る、○本日は風も静なれとも、寒気は雨天故甚しければ午睡に就く、○甲子植木屋も来らず、園内も寥こたり、一睡後晚餐は鮭の子、豚の汁等ニ而飯三碗、是五時ナリ、了て六時就寢、小水一渡、○アポプレキシー丸三十粒、而后就寢、○

三月廿四日『金』曇、朝灌腸、便糞通利あり、其後灌水、其後就座、鶏卵二個、粥三碗、牛乳は粥の中に在り、了て裏手水場にて小水、また裏の便所ニ而小水一度、合二度ナリ、○本日甲子植木屋来ル、其前より他の手伝は来れり、○今曉五地震、少時間にて歇む、○北東南と曇にて、既北風ニテ尤静かなり、故に□雲破れず、○九時頃より北方□雲転裂□□□□□□□□薄らく、海上白帆黒帆舟船は諸処に見ゆ、尤横須賀背面堤方りの処漁舟輻湊すと見ゆ、尤北方の大散裂より□□を生したりと見□□□て北風を生したり、○十時前和泉竹来ル、昨日暇を取りし趣の事に就てなり、○九時過より十時半まで湿電を掛く、左右腕のミ、○其後午餐は小鮎の煮染、鮭のはら之子、鰯のてり焼等ナリ、○其後内の便所にて小水一度、○其後百足屋来ル、東屋も明日着の由ナリ、○午後亦少雨降り出す、十分の湿を祈るなり、百足屋の来たれし頃は既に歇ミたり、海上は一面朦朧たれとも船は多人数にて乗り出せり、○昨日今日も時事新報は、昨日は格別ナル事無し、本日も行政整費調査といふ事なれば、其根本を正されは或は徒為ならんといふ、○入浴後百足屋帰れり、植木屋晚方まで働き、其職人を帰へして而后に帰へり、晚餐は鰯の酢焼、味尤佳ナリ、其他鱈煮附なれとも食はず、其之後園内を徘徊し就座、今夜雨降る歟も知れず□□□の事なり、

「西周日記」

三月廿五日『土』大半晴、曇雲無きにあらず、北方は正晴、丑寅ノ方より白雲起り、卯辰巳ノ間まで引き、併し正南は愈々薄し、正に同天とならんとす、日光強し、多分快晴に至るならんと思ふ、○朝灌水、其後就座、鶏卵二個、牛乳粥二椀、其後表ノ便所へ小水に行く、今朝湯殿ノ分とも二度、○大工朝より来りて南側ノ雨戸を直ほす、○植木屋は雇人のミ来れり、○九時為吉、大工の金物を取り帰る、同時に国府津寫屋へ遣はし、約束の実柑を請はしむ、価五円を謝ス、○本日も横須賀背面諸山は曇りたれと頭雲は漸次に薄らくと見へたり、江ノ寫は曇りて爽々かならず、舟船は多く出つ、○為吉は十時十分の発車にて国府津に発ス、○此前金太湯を遣ふ、其後□犬湯を遣ふ、○甲子植木屋并二人良大工は角力見物に行く之由に、植木屋本日は屋敷左側の籬を補修す、午前は少し、角力見物に行故ナリ、○植木屋十一時過仕事を止めて帰る、二人とも、○午後 時の瀛車にて中野省吾君お花さんを連れて来訪□、舛子借金の事に就てなり、一旦内苑に出、て梅花看せむ、晚餐を共す、○午後五時三十分之瀛車にてお花さん同車にて帰京、尤品川に上陸、麻布おはしさん処へ行き一宿する由ナリ、○今晚曇雨故東南面とも総曇りとなる、

三月廿六日『日』朝曇、夫より八時頃昇る、漸次雲霽る、北方は正晴なり、○朝灌腸、硬糞少し通利あり、其後灌水、就座、鶏卵二個、平粥及牛乳二杯、○朝早くより甲子植木屋来り、昨日之蜜柑二本を植たり、○其後小水一度、○曇雲漸次に薄らき、九時頃には霽らしとなる、北方は快晴、南方は曇様あり、未だ判然せず、風位は朝南東なりしが、八時頃より北方に変わり、海上も不相替漁舟白帆彼此に見ゆ、只横須賀背面の海岸は江ノ寫を併せて鮮明ならず、○午餐は甘鯛の葛煮、鮭の腹ら子等ナリ、紳六郎より手翰来ル、既ニ一旦江多寫を去て神戸ニ着し神戸小野浜在着、軍艦千代田とあり、来月中旬ニ東京帰着由、また大野富雄より報告あり、帰省中余ノ手間取る故、兼而命せられたる小樽行は廃止になり、其代東京私居に居る由、何れ不首尾の方ならんと思ふ、○午餐後手を曳れて、昨日の蜜柑二本並ニ金柑を觀、段を降りて園内彼此を徇遙して復坐す、○東京ノ天気予報も南風晴上り、此地も矢張南風晴ならんと思ふ、○午後四時前潮湯より揚る、□温可なり、天候を觀するに南風なるか如し、只白雲西北より東方に亘り、海上尤多、南方は薄雲棚引け、○時事新報も午前に来りたれと格別の事無し、○為吉は遑暇を幸して角力へ出掛けたる由、然に觀物の戯なるならず、自身も其覚語ある由ナリ、可憐の男と謂ふへし、○横須賀対岸は日照に依り紅霞を現はしたり、多分明晩は紅霞を見るならんといふ、浪の音頗高し、

三月廿七日『月』快晴、一天雲無し、南方少し雲気あり、後如何なる歟、○早朝灌水、其後就座、鶏卵二個、粥牛肉二杯、其前小水裏ニテ壺度、其後暫ありて表ニテ小水一度、第一東京瀛車は来たりとも、時雄は未だ見へず、○本日は園内四足亭出来と見へ、早朝より雇人来り集り、甲子植木屋も来ル、一段の觀なり、○早朝帆船漁舟

は出てたり、只今の処にては北風と見ゆ、○九時より湿電、両腕、十時畢る、○小水一度、裏手水所、○また一度メ二度なり、○本日時雄、三番瀛車にて、板橋勝の妹を召連れ来るの由ナリ、○深江順暢昨日死去之由、^訃話告あり、○^{トヨ}豊住秀堅全快ニ付、来月三日芝紅葉館にて祝宴あり、案内を受けたり、○本日左の四足亭出来ニ付、植木屋は樹の皮を剥く由也、○午餐は安康の□□煮、味殊宜し、暖飯三盃、○其後小水一度、裏ノ便所、○午後二時時雄着、下女も参る、○時雄着ニ付、色〜馳走、餡古路、柏餅等なり、其後園中を徘徊、座ニ着、○本日も四足亭は出来^{せす}せり、併し杉皮を剥たり、何□□□は怠らざる事と見ゆ、○本日は南風なり、皆〜北東南西とも、午後曇□起ル、何れ降り模様ナリ、晚餐はさわらの刺身、さわらの子、板橋のふき等ナリ、明後三十日東京行と決す、本日も午後少し休息^{〔舒〕}したり、急便使節瀛車通行始てなり、

三月廿八日『火』朝起、未夕塩湯を報せず、立なから下利一行、乃ち菊に命し灌腸へ、水を灌き尻湯けて灌腸、椅子に就、下利沢山あり、其後湯殿に灌水、菊に尻を洗、禪裨壺枚を汚す、其後就坐、雞卵二個、粥牛乳三杯、其後表の便所にて小便一度、此前恐れてアポプレキシール丸拾五粒服用ス、○本日は昨夜三時半頃より俄かに南風、北風に替り北風勢強し、本日も同北風なり、北方少し雲気なり、東方海上は霞あり、南方も朗晴ならず、○朝来職人園内に来ル、九時頃大久保印甲子植木屋彼岸を持ち来ル、○時雄は朝高麗園に行く、○植木屋は直ちに帰る、思ふに園内四足亭の準備未だ調はざる故ならん、○本日海上帆船漁舟多く出たり、時雄高麗園より九時過帰る、未だ半開前ナリと、○茲ニ湿を準備したれと利かす、□□時雄九時半より十時まで乾電を用ひたり、電気の器械中受感器感動を受けざる故、此を取り還りて、いわしやへ改正を命せんとす、○其後□□□の□□□に大勢ニテ前岡を越過く、○其後二三ハ前腰を座し□□餅を搗き礼に来る、○本日の風は南風と推定す、北東南西とも薄曇りに鮮明ならされとも、○時事新報は来りたれど実ニ目録事も無し、電報報告も無し、○只本日の奇事は、昨日来りし下女安の荷物を解き開き、物一物も□□き事なり、○三時過潮湯より揚、○同時に植木屋帰る、○時に大磯町蛸を揚るを見、南風強ければ也、海上一面に白波起ル、黒雲海上に起る、北方より東黒雲棚引く、○晚餐は□□にふきの煮物、さわらの子等ナリ、其後百足屋来ル、植木屋の代価ハ孰レーこ当りて後また多かたは植木屋より予め予算を為し置き、金百円程を前借して後精算を差出スへしとて帰り去る、○最後にアポプレキシール丸十五粒を服用す、

三月廿九日『水』昨夜雨、一段の潤なり、今朝曇、猶雨望なし、太陽を看す、北東南とも総曇也、○朝灌水、其後就坐、雞卵二個、白粥二盃、其後表の便所へ小水一度、時雄朝招仙閣より岡に來り徇遙す、○職人來り追々集ル、○海上漁舟を看ル、八時十五分前東海道瀛車通ル、○風穩にして海上白帆漁舟を見る、積子を雇し昨日朝よ

「西周日記」

り噪し□□□□ノ間殊に喧し、○八時十分東京第一瀛車来ル、○九時湿電の残りあり、此まで一時間或は一時半、時雄電気司る、此にて今日の電気を終る、○此時雨降出したれと、菊は薬を買ひに行く、○其後表の便所にて小水一度、○雨降りて柑類、芝等潤ひ十分なり、亦恨無し、植木職人は皆帰る、大久保植木屋も来りたれと、愈〜雨降り出したれば、○午餐は其前に阿倍川餅、よもぎ粟ニテ一盃、其後さわらの味噌漬、ほうれん草の浸し物等ナリ、○其後小水一度、○本日雨は小止なし、近頃積の子雇ありと見へ其声喧し、○本日は時事新報は少の宮内省員の動転あり、田中榮秀の書記官御免等なり、題論ナル日蓮宗北海道開拓を思憑したるは格論なり、○晚餐は鯛の刺身、竹ノ子等ナリ、竹の子はお八重さんより、目黒の筈は今朝贈り越したるなり、遠路態々贈り越されたるは誠ニ厚き志と謂ふ可也、

三月三十日『木』昨夜北風烈し、今暁も同じ、天気都合宜しからず、○早朝灌腸、□□□のミ、其後灌水、其後就坐、鶏卵二個、其白粥牛乳二杯、其後下利之気味を覚へ再上厠、通利無し、再其後表の便所小水一度、此時尻工合未タ定ら、○再上厠の後、アポプレキシール九十五粒丸服用ス、猶尻工合未定ナリ、○甲子大久保植木屋来ル、職人も来ル、○再アポプレキシール九十五粒服用、凡て三十粒となる、○本日より三十分の下り瀛車ニ而東京行と決ス、本日は天気初の間は宜からざる処、八時頃入湯間より気象宜く相成り断雲追こに生するを見たり、濤□□荒たれとも海面漸次に和やかなり、○海上帆船漁舟夥しく出るを見る、○此日偶々次来訪、久振ニテ向嶋言門^(間)団子を食ふ、□□□□□□、

三月三十一日『金』晴、本日芝公園植木屋へ行く、往來人力車ナリ、○勃平来ル、草書法帳を与ふ、保坂へ預証を給す、代金は未与ナリ、

四月一日『土』晴、本日上野へ行かんとす、百足屋家内、きよ子も共なり、○明六社へは上京中なれと断りを出ス、○本日朝灌腸二度にて通利少し、其後灌水、其就座、パン二切、乳牛二椀、昨日も同じ、其後小水雪隠、其後二階ニテ小水、床の内、其後アポプレキシール九拾五粒、昨日も同じ、○朝九時頃より上野へ行く、周、舛、きよ子、百足屋四人、上野桜不開ニ而興鮮なし、午餐は松源楼ニテ白魚の吸物□□□佳なり□□、白魚の吸物、尤佳ナリ、了て□□寺へ行き□□□奥山へ到り、象の観物を看、夫より直に帰る、□□寺□□□□□□、宮崎蕪庵来る、□□□□□□土産あり、帰宅後入湯、晚餐は牡丹餅等、塩鯖等なり、了てアポプレキ^(シ)ール九十粒服用、小水一度、就寝、○本日明六社会に断りを出ス、途中同社の人に逢ふて□たるを弁せず、老猾故なり、□□と思ふ、明日は観劇十時より也、

四月二日『日』雨、九時半より歌舞伎座へ行く、周、舛、勃平、きよ子、百足屋家内と五人、午餐晚餐中に、箕作麟祥君並に令夫人共夫婦逢ふ、其後田中并ニ其姑に逢ふ、○帰宅後春^(春)の呉れたる鮓^(鮓)をを食ふ、父子に逢、夜八時帰宅、其後アポプレキシール

丸拾を服用ス、就寝、

四月三日『月』昨夜終夜雨霏々たり、本日快晴となる、○本日神武天皇御祭典、○午後六時より豊住秀堅君快気祝、○御祭典へは昨日届書差出ス、○朝起灌水、其後茶間就座、パン、牛乳二杯、其後アポブレキ^(シ)ー丸五粒、○勝来る、色々土産物持参の由、未逢、○替ち逢ふ、勃平の事杯話し、別に特別の話も無し、○舛子は此より越後屋へ到り、白縮緬にて買ひ、直に岡の富子さんの此度婚礼に供せんと、直に岡へ廻る筈なり、○灌水前灌腸を為したれと強糞二切のミ、○其後富雄来る、何れ函館行の日限も定まりたれば、再び大磯へも来るへき由にて、暇乞をなし去る、○田中栄秀君の令夫人来る、カステイラを出て暫くして帰る、○午餐ハ鮎^塩の煮蔓、腹充滿、○午後入浴の積り、舛子も午過帰宅、越後より岡へ廻り、田中令夫人も同時に岡へ到り、此方へも来りたる由、談話の由ニ而承知なりし由也、午後勝帰る、小供泣きて喧し、○夕六時より芝公園紅葉館に至る、豊住快気祝なり、会者○





四月四日『火』朝曇、雨ならんとす、○高木兼寛夫婦、西周夫婦、瀬脇姉、瀬脇寿雄夫婦、山本景好夫婦、主人夫婦、^{織田一}夫婦、瀬脇寿次郎、西勃平、看病夫二人、凡て拾八人、高木門弟二人、凡をは二十人ナリ、○昨日帰宅後、保々駒次郎より端書届く、保々直記去月三十日死去の由知らせあり、一円多くる、○舛子は昨夜は勃平の惰頼^(頼カ)に依り、津田東君の令夫人の処へ行く、九時よりなり、○其後瀬脇の姉、小児千代を抱きて来る、名を、○十時頃より雨降り出^(し)てたれと、十一時半より雨は止ミたり、○舛子は津田へ行たるにあらず、向嶋清水に行きたるなり、○今朝七時に皆他行の由、留守なり、つまらぬ事、○津田の事も序に□りてたるに既に嫁したる也、鳥渡苦勞千万なり、○午餐は安広の味噌汁、飯一杯、跡ニテ向嶋の言問団子等、満腹ニテ、小水不通、暫くして小水一度、○其後石川達玄君来訪、○午前時事新報来ル、実業論は何時の如く確論□、実業論に附スルに電気鉄道ノ不許可紀事を以テスルハ如何アラン歟、○晚餐は昨夜ノ残物、白酒等ナリ、其後下の手水所に行き、満腹□水を利したり、其後手水所より帰ル、好子来ル、此時一□□を持ち来ル、神奈川^{程ケ谷}県下程ケ谷村 □□□□□□□□□□、其より青山を越へ八丁程ある由、孰レ人力車三騎ニテ、一人ハ□□食物を載せ行かざるを得ず云ふ、

四月五日『水』午前快晴、八時の瀛車ニ而東京を發、十時後に大磯別荘に着、大磯猶曇なり、十二時午餐は鮭ノ煮肴と蒔草ノ漬物ナリ、諸家より来状あり、永見お鎮、弥重養介等なり、お鎮は定テ世辞、養介ハ六十ノ賀ノ祝にてお舛より歌を贈りし札なり、其後菊の親父来ル、沢山ノ土産あり、第一水戸公家伝ノ中風葉散葉、第二途□□□松露□□と梅を□□するに足るなり、○其後夫婦入浴、例の潮湯ナリ、○其後水戸公の薬方服用す、未だ功験知らず、○次に松路^(露)は尤も□すへし、後に晚餐に用ふへし、○本日午後は雨は降らすといへとも、北方曇る尤甚し、何れ今宵雨は降ると定む、○其後午前に百足屋主人礼に来る、百足屋家内は直に来ル、先つ此を慰

「西周日記」

勞して遣る、○植木屋仕事は余り捗取らすにて并ハ雨降りしと見、池水に掛れり居れり、雲間□を放ちたれば鉄道に水落達□□□□□を喰ひたる由、○晚餐は白魚に雞卵、松露、白酒、正宗等二杯也、其後水戸散葉一包、就寢、○天氣は晚來曇勝也、風は北風、北方尤曇、

四月六日『木』曇、○朝灌水、其後就座、牛乳粥二杯、雞卵二個、其表便所小水一度、其後湿電一回、只□□腕のミ、其後裏表便所小水一度、○本日の天氣北方総曇、東方も曇、南に亘り折々罅裂を見る、雨は降らず、風は北、寒甚し、折々日光を見ゆ、海上帆船漁舟多し、○午餐は罐込の鮭、若松屋ノつくし、松露等なり、○午前就休、少し午睡、午後再就床、○舂子、冊短を買ひに自ら行く、其後小水裏便所一度、○陰雲東方中央大虧裂を生すと雖へとも、北方白雲猶多し、雨歇ミたる故職人は来ル、其後晴雨如何ならん、金太も寒き故先つ床に就く、○舂子、直に帰る、余未床に就かざる前なり、○晚餐かますの味味曾汁、松露ノ吸物、ほうれん草の浸物等ナリ、○其後水戸様の散葉服薬、後表の便所ニ而一度、就寢、

四月七日『金』快晴、北方殊ニ一点ノ雲氣無し、東方海上壱間許ノ処ニ白雲棚引き漸次消散ス、南西とも快晴ナリ、○朝起塩湯、其後灌腸、硬糞四五切通り、其後灌水、就座、雞二個、白粥三杯、其後表便所にて小水少く垂掛ヲ為したり、其後就座、灸治七ヶ所、其前水戸公薬一服、其後湿電一回左右腕、中間小水ニ裏便所へ行く、○此間一時間もあるへし、○本日は植木屋職人早朝来ル、昨日までに仕揚たる四足亭の屋根を葺くと見へ、先四構木の真下へ露降房の如き物を下げたり、○其後裏庭へ草履回はせて露降房を見に行く、其所は狭くして見へず、帰路花段ヲ命し、夫より直に花草ノ種を見に見に行く、花草は色々あり、中に点々生したるあり、乃ち直に望に復ス、此墓に蠶の戯あり、○其後植木屋職人は午餐の為に帰ル、○午餐は平目の煮肴、つくしの浸物等等、斯る処きよ子、富子を伴ひて近日婚儀の為め来訪せり、是二時の瀛車ナリ、此後□□に出て、また土産等種々ありて園内を徜徉せり、四時過潮湯湧くを報ス、○本日代の女も来る、○植木屋、本日の仕事は四架材の中間に□材を充填するにあり、、先つ図の如く四角材を取置て、、其間に充填する事図の如くする也、是本日の仕事ナリ、○晚餐は安広のうと煮、ひらめの子、つくしし等なり、  鯛ノ酢浸等ナリ、食後小水一度、裏雪隠、○清子、富子、浪打際を見度とて、菊を案内者として、百足屋の浜へ出掛けたり、直に帰る可し、○其後小水、後水戸公の薬一服、就寢、

四月八日『土』好晴、○朝起灌水、其後復座、雞卵二個、粥二椀、其後表便所へ小水一度、灸治背七十個、其後小水一度、其前水戸公薬一□ナリ、○其後百足屋より鯛三個、此間の礼なるへし、○甲子植木屋来ル、昨日の継ぎ、大小松ノ事に掛る、○本日の天氣、海上帆船漁舟多く出つ、南風、○紳六郎より書翰来ル、米より書状来ル、○百足屋来ル、菊亦園内へ来ル、出立前、此日向東京三時半より瀛車にて出立、

其後五時前新橋着、

四月九日『日』 渴この天気、朝灌^腸水、此時新スポイトを資生堂ニテ調へ、時雄買ひ行く、○其後灌水、復座、鶏卵二個、其後項脊灸治七十点、本日気分存外不例也、依テ学士会院出席を断り遣ス、此時舛子、清水格亮君古稀の賀の歌を佐々木信綱の所へ行く、帰宅後乙女椿を買はんと、芝公園内勸工場の植木屋保坂金次郎方へ行き、

乙女椿并に瑞香花紅白二種を誂へ置き、了て芝公園内の桜花弁天池畔に回覽して回る、

四月十日『月』 此日昨夜より雨終日終夜に及ふ、○此日本郷春木座へ到り観劇、右団次の女形舞、小団次道場寺舞を觀、辛うして夜七時帰宅、此日舛子遅れて来る、第二十銀行より百円を抽き出し、清水氏への進物を処治し置きたればなり、

四月十一日『火』 本日存外の快晴となる、○昨日清水氏の返答に、本日当りは山辺丈夫君夫婦大築へ立寄り一宿して、十二日当りに東京に来るへしといふに依り、心待ち無きにあらず、○昨夜、綱の母親、西家へ参り、例の宇仁を壺俵齋ら来ルといふを以て、其を取帰り、本日動きたるなり、○水戸公薬剂、丸せんとして過分に量を過すを以て仕損したり、遂□大不規則ノ丸子トナシ、乾かし収メ置く、○昨日之事なりとか、蕪鉄ノ十五本を植木屋齋し来ル、百足屋高価ナルヲモ否む、植木屋遂に代五円となし、松樹ノ右に植付置て去れりと、為吉、お安いふ、○

四月十二日『水』 本日先つ曇天、晴雨未判ナリ、○朝起灌水、其後就座、鶏卵二個、粥牛乳三椀、其後裏便所へ小水一度、其後水戸公薬剂二十粒服用、○其後湿電一回左右腕項脊兩脇等、余り利かず、○本日は園内職人来れり、水閘を敞ち池水を落す、○本日も海上漁舟多く出つ、○本日も舛子未座にて、弥張瀬脇薬も時々服用す、○昨日も本日も山辺丈夫君夫婦未だ見へず、如何なる事にや、○本日午後まで北ノ風曇なり、海上漁舟は点々見ゆ、○植木屋職人ハ来れり、芝附なり、午餐は平日の煮肴なれば嗜ミなし、唯白飯茶浸ナリたり、○午餐平日ノ煮肴ナリ、余り食はず、○其後表の便所ニテ小水一度、○午後三時より雨降り出ス、○時事新報も午前に来り、皆読了したれと何事□□□□□□□□、加藤弘之君位一級上進、小野田警□同上等ナリ、○本日は晩方国府津瀛車帰て山辺来らず、明日になる歎も知れず、○本日植木屋園池に蓮を植へたり、其苗多く、百足屋話に佐土原君の種なりといふ、○晚餐は木柄茶鯛の酸の物、鐘詰の鮭等二而、至極味佳、茶飯四椀を喫したれり、○其後水戸公秘伝薬四十粒を服し、寢に就く、

四月十三日『木』 晴、断雲多し、○朝灌^腸水○其、乾糞多く下ル、弥程^{息ミ}氣味たり、其後灌水、其後就座、鶏卵二枚、粥二椀、其後表便所小水一度、其後きよ子より便あり、其後湿電一回左右腕兩項背腰兩脇兩脚、其後舛子より瀬脇を呼ふとて、きよ子へ手紙を出ス、其後為吉提灯を直ほス、其後裏便所へ小水一度、其後山辺夫婦来ルやと伺ひたれと人影も見へず、既に東京へ行きたるなる可しと皆云ふ、○午餐は大鯨ノ

「西周日記」

煮物、^{〔ママ〕}方稜草ノ浸物等、其後裏便所に小水一度、□後に亦一度、生宇仁ノ味大に佳ナリ、○時^{〔申〕}々新報も午前に来たれとも格別の事無し、文部省国史編纂廃止等ナリ、唯福沢ノ自由貿易論は実に銘論ナリと思ふ、○本日の天気、始メ断雲□□せしが、漸次破却して晴□中消滅し、北方東方海上に緩達白雲残るのミ、復一度国府津の瀛車来たれとも山辺は見へず、○百足屋の誂之萩二十一株を売り来る、□白赤となれと如何ナル色ナラン、金九拾四銭ナリ、之を買ひたり、売人は大磯山王町星野弥次郎といふ人ナリ、○晚餐前湯殿に下りて目を洗ひたり、○晚餐は鐘鎮の味噌汁、余り佳からず、残物ノ雲丹□□□□したり、茶飯三椀、家人の気□□□□□には閉口セリ、○了て就寝、○晚餐後水戸公秘薬四十粒服用□□、午後に買ひし萩は白物ナル由也、速に顕れたり、

四月十四日『金』曇、朝灌水、其後就座、鶏卵二枚、粥二椀、其後裏便所小水一度、○本日植木職人早朝来ル、○処々鳥鳴雉声聞ゆ、○昨夜ノ返電達ス、瀨脇ハ第三^{午前十一時四十五分}ノ瀛車にて来る由ナリ、○水戸公ノ秘方四十粒服用、○表手水場小水一度、○瀨脇ハ四番発ニテ四時二十四分着ノ由、○湿電一回左右腕面項脊腰腿両脚背等、八時半より九時半まで、○中間裏水[●]手所一度、○其前便気を催ふし裏便所に至り息ミたれと出産無し、○其後園内を回覧せんとして、表便所に至り小水一度、○遂に植物を覽、枸杞など少し生へたり、未だ真の芽生にて見るに堪へず、其より小坂より園内へ下り、四足亭至り、紙卷煙草を□□□□□□取り二服程喫し、復裏小木戸を貫き門前に到り、門より玄冠^間を通して帰り、座に就く、皆菊之を扶く、尤始メ表の便所に至りしは□□安一人あり、其後十時の瀛車にて勃平来る、午後にはきよ子も来る由、稍人意を強くすと謂ふ可し、○きよ子、寿雄君、二時着ナリ、早速診察を願ふに、○其前時事新報閲見す、水水論電気論等類気の附□論といふへし、晚餐は平目ノ酒肴、牛肉等□□肉等、白酒二杯、二十酒一杯等ナリ、其後水戸公秘薬四十粒、後入浴髟結を呼び髟剃り、其後就寝、○本日橋元来て□□ノ返辞□、同氏へノ香典、弥重忠助ノ卒ノ賀一円、保々直記□書状等ハ清子に托ス、

四月十五日『土』晴、海上雲気あり、北方は快晴なり、○朝灌水、其後就座、鶏卵二個、粥二椀、其後小水に行く裏便所、其後相沢より手紙来ル、きよ子、津和野への書状を書く、○相沢ノ手昏に云はく、お□□ハ病氣、来り帰す、途中より引き返せりと、十六日には来ルへし、○本日植木屋は早朝より来ル、昨日珊瑚樹を移植したり、○勃平一時四十八分帰る、○豊住来ル、三時二十分、きよ子と一同に帰る、但し豊住は休暇ニ而大船まで同車ノ由ナリ、○四時二十五分瀨脇寿次郎君来る、園内を一覽して直ニ去ル、○本日東京芝より先日誂へたる白椿并乙女椿、邪シャ、七杓子、柚樹等を贈り越す、○皆庭前に植ゆ、其松樹に蜚虫附く事を発見す、百足屋□□此を駆除ス、○植木屋の職人ら駆除を勤む、○其後萩売り再び来て先日誂の萩水を潜き置き帰る、○午餐は小鯛ノ潮煮、牛肉等ナリ、晚餐は乾鰯、牛肉ノ芋煮等ナ

り、食不進、○植木屋も蜚虫駆除法に転したりと見へ、晩方にて□□松樹ノ□□に
棕櫚を巻きたる、□□□□たり、○晚餐後水戸公ノ秘法四十粒を服用ス、而后
小水一度、就寝、

四月十六日『日』雨、朝灌水、其後就座、鶏卵二枚、白粥二椀、牛乳、此に均し、其
後裏便所小水一度、○本日植木職人数人來り、昨日の続にて棕櫚繩を巻きたり、上
つに泥塗をなして此を捺りたれとも、雨降り出したれば皆帰れり、然れとも、昨日
植へたる白椿、乙女椿、夜叉、干椿、^{瑞香等に}□□尤も適せりと思はる、○昨夜三時まで
に舂子シイープを用ひたり、今朝脈度六度五厘となれり、最早氣遣ふほどの事無し、
今朝は陰雲多けれと、八時前は河原にて紙鳶を見たれと、其後北風雨降り出したり、
○今朝餐後水戸公の秘薬四十粒を服用ス、○其後湿電一回、面項脊背腰腿脚両腕尤
も長し等ナリ、○十時二十分、時雄、瀬脇ノ薬品等持参ニ而訪問す、○東京は八時
頃出立の由なれとも、未雨は降らざりし由ナリ、午餐は赤小豆飯三椀、烏賊ノ奉書
焼一ツ、外ニ芋、人参^(煮)杯着物あり、本日充分大食、○午餐後表の便所へ小水一度、
○高木、三時四時の瀛車ニ而來臨ノ由、宅中掃除に掛る、○津和野村田春生より手
紙を差越ス、東京ニテハ本日お清に托して香典を贈る積ナリ、○春生君ノ手紙は四
月十一日とあり、自身ノ書状先尊大人美実君之手画とを贈れば、○高木夫婦と下女
一人、四時二十五分着ナリ、○晚餐は牛肉ノビーフステッキ、牛肉、□□ノ味噌汁
等、□□高木□□へノ御□□ニテ充分ならず、七時三十五分高木帰、跡ニテ表便所
へ小水一度、○最後水戸公の秘薬四十粒服用ス、

四月十七日『月』十時後晴に決ス、^昨時夜半後は雨霏たり、本日朝は曇、其後曇雲壊裂、
北方は晴、東雲方ハ少しく白雲あり、南西方は未たナリ、○朝灌腸、其後灌水、其
度就座、鶏卵二個、白粥二椀、其後水戸公ノ秘薬五十粒、其後電気一回面頭項脊腰
腿脚等、其後裏便所小水一度、○本日は月曜なれと時事新報は号外を贈れり、乃東
学党ノ事にして恐るるに足らず、○午餐は甲ノソツプ、牛ノ骨油等ニテ、赤小豆飯
三椀、其後裏便所へ小水一度、○本日履表ノ第二ヲ作らんと欲し、先日持來りし拜
命書ヲ出し検査したれと、中〜一二日ノ業には思ひ寄せは、暫く止め置く、○
晚餐は鮎ノ煮肴、人参ノ煮物等ナリ、跡ニテ水戸公ノ秘伝薬四十粒服用す、一
小時ノ後表便所へ行き、寝に就かんとす、

四月十八日『火』好晴、○朝灌水、其後就座、鶏卵三枚、白粥二椀、○舂子ノ病を訪、
馬寫子ノ診察を受け、頬□ノ腫^瘍様を開切せしむ、○其後小水一度、○其後水戸公ノ
秘伝薬四十粒を服用ス、○本日植木屋早朝より來ル、甲子植木屋イチハツの花弁ニ
黄水仙ノ花を贈与ス、○余ノ職人は花壇を作らんとて数本の棒株を持参ナリ、○馬
寫氏は鎌倉山稜別荘に行き不在ナリ、其門人を招き□□内へ□□に遣はし、未た來
らず、其後ランセツタ來り、間もなく開破を試ミ、痛ミ従て去る、門人殿辞して去
ル、本日までの苦痛思ふへし、○其前十時頃百足屋來ル、藤とあじさいの寄た物を

「西周日記」

買ひ持来ル、本日は浜に祭礼ありて賑ふ由ナリ、午後至り見んとす、藤大小、紫白あしさい、都合七拾銭ノ由ナリ、○午餐後、為吉、菊、安を連れ、六里の段を降り向中ノ道に出て、寺ノ前を通り、門前町に出て、光祥楼ノ町へ入り、和泉ノ病氣を訪ひ、和泉竹も同道、椅子を担きて来り供ス、遂に海浜に至り、佐土原侯に逢ひ、落合君に逢ふ、□□□□□□、了て百足屋前に町を出て、本日の見物□□□□前を過ぎ、本寺門より□□□、○晚餐は大磯鰻鯉、生醤油ニテ山椒ノ味ナリ、平素好物故三椀を喰ひたり、了て

四月十九日『火』晴、多分後程々晴とならん、○朝灌水、其後就座、鶏卵二枚、白粥二椀、其後俄かに裏便所に行き、急度之際其儘小水一度、○其前水戸公之秘薬一服、表の便所へ行かんとする際、急劇にて失禁したり、○時午前八時前、山辺より電報届く、本日午後来ル由、直に返電す、舛子より、○其後電気、湿分一回、菊之を司る、両腕面項腹脊腿脚等同し、了て裏ノ便所に行く、小水一度、○本日は清和ノ天気、西風に海上浜辺紙鳶遊び多し、舛子は本日は回復と見へ、園内を掃除ス、○金太も頗ル快適と見へ少く元氣就く、○午餐は 其後園内を降り、四足亭ニテ一服、是に百足屋通り掛り、請ふて園内に来り、煙草、菓子□等供ス、午後二時勃平来る、山辺歟と見れば勃平ナリ、山辺は五時ノ瀛車ニ而来る事と見へ、余も小坂を上り、□□園内を徘徊し、還りて座に就く、其後裏便所にて小水一度、此時桶屋通る、○

四月二十日『木』曇、○朝灌腸、其後灌水、其後就座、朝食山辺も了し、其後八時となる、丈夫君少し早めに停車場に赴く、貞子、児清、勃平、為吉、菊、見送りに行く、其後八時に発車ス、山辺に牡丹の事囑したり、○鶏卵二枚、白粥二椀、常の如し、○信綱より書状、舛子宛にて書状来ル、○本日早朝より植木屋来ル、乱株を打つことを務む、此時□□□の大樹ナリ、山裂氏〔岩崎カ〕へ売りたれと、既ニ他の樹木を入れたれば不用となりたるを以て、買呉れんことを請ふと申来れり、此ては万事百足屋に任せたれば、其答納に任すと答へたり、○折柄園内を廻りて、小坂より返りたる時、舛子、貞子、小児、菊杯を連れ、大磯町を見に行かんとして百足屋に逢ふ、乃ち前条の話に及ふ処、百足屋も既に承知、其樹、現に若松屋ノ裏にありといふ、乃ち舛子に囑し、序に此を視せしむ、乃ち舛子、貞子、前岡を越へて去る、○勃平ハ郵便を差出し序に巻煙草を買ふとて安に命し、拾銭銀貨を請取り出て去る、○○其後山川と□し勃平を尋ね来ル、勃平留守なる旨を答ふ、出て去る、○本日入湯潮湯、○其時百日紅大株を、岩崎氏誂不用となりたる品を移植したる、楓大小二を其合調に植木屋移植ス、○其外午餐晚餐懶惰ニ而記さす、

四月廿一日『金』昨夜雨霏す、本日も同し、○朝起灌水、其前小用に行く裏便所、其後就座、鶏卵二枚、白粥乳二杯、其裏便所小水二度、其後湿電一回、小児邪魔を為して電線利かす了ル、○舛子之所へきよ子より、山辺貞女子ノ処へ清水より書状来

ル、○電気は□□□□□□□□、○本日江ノ寫神社参詣ノ積なりしか雨降て不叶、明日に致す、○午餐はいかの□煮等ナリ、味佳ナリ、赤飯二椀、○晚餐酢の由、義太夫も来る由ナリ、時事新報も来ル、格別なる事無し、再び新聞広告を論スといふ位の事ナリ、○夜中お貞さんの振舞の為、義太夫を呼ぶ、敬愈と□く美なり、されとも声慥なり、百足屋并に若松屋のば、始聞に来ル、夜十時頃了したり、其後議して江寫行を廃ス、

四月廿二日『土』朝曇未破、○其後十時雲破れ晴に向ふ、○早起灌腸、其後就座せず、灌水に行く、其後復座、鶏二枚、白粥牛乳二椀、○其後裏便所へ小水一度、序椿の花を截りに行く、○此時清児眼に爪□□□ノ首出し眼に傷く、体たる事に非らず、○九時二十八分、三十分過に至る、貞子、清児を連れ瀛車にて出立、○勃平其後朝餐に就く、○其前お貞さんへ山辺丈夫君より書状届く、并にきよ子より舂子へ書状届く、○殆満天虧裂破り、北方少く斜に斜雲あり、海上東方一間許白雲鬚鬚たり、南方西方猶残雲あり、然れとも好霽に障りも無し、○然るに海上白波多く、此岸に打揚く、何ノ所以を知らず、北方好晴なりと雖へとも、白雲一推起り漸次漸減に就く、南方西方ハ一推ノ一間許白雲鬚鬚たりか富山に至り消滅せり、此或は富山より西方に亘延し吊て其より北方へ亘り東方に及ふ者にして 計り難しとす、○午餐は昨夜の酢の残りを茶漬にして喰ふ、味甚佳ナリ、○其後舂子座ニ就く、少く頭痛を覚ふれはなり、脈度は三十七度五分ナリと、勃平実験して答ふ、格別の事無しと思はる、只明日東京行を廃止して、再び瀬脇を呼ぶ可し哉否やを思ふ、未決せしに、東京行を思ひ立たれと、遂に此に決ス可き哉トおもふ、此亦未□なり、○晚餐前入湯潮湯、余は菊之扶助す、次暫く□□へ存外待つ由、舂子忌みて入湯なし、晚餐は金子ノ赤小豆肴、赤小豆飯二椀ナリ、其後裏便所へ小水一度、其後水戸公の丸薬例ノ拾粒服用、其後に就寝、○時事新報来たり、東学党□□□異論なし、文部大臣に□□□といふ論文善し、

四月廿三日『日』曇天、雨降らんと欲す、○朝灌水、其後就座、雞卵二枚、白粥二椀、裏便所へ小水一度、其後水戸公の秘方薬前同数服用ス、其後園内を徧遙ス、此を扶翼ス、了て復座ス、枸杞未た伸ひず、其他植物亦同し、昨夜持来ル植樹椎ノ数二三本在り、今日午後一時二十五分後——より東京出発、□舂、気分復して勃平留守番ナリ、未た起きず、菊三等ニテ供す、○乙女椿白の分既に小稍に一輪開くのミ、既に来り紅ノ分能く見れば絞なり、紅勝なれと白ノ分勝たんことを稀ふ、○其後裏便所ニテ小水一度、○本日は植木屋ならず人足頭来ル、其後鯉と鮒とを売りに来ル、枉けすして去る、○四時 分東京着、晚餐は鰻鯉飯、葱ひ等、菊は早速宿へ行き服薬ノ間に合はず、寝後咳出て困難したり、

四月廿四日『月』東京曇天、曇、雨は降らず、○西寿丸より、村田香典、弥重祝料、保々直記宛香典等を差越しと、皆自身持参ノ由、○朝湯殿ニテ灌水、其前上便所ニ

「西周日記」

テ灌腸、其後灌水ナリ、茶間ニテ雞卵二枚、白粥一椀、○其後二階ニ昇る、○舛子
は朝ノ中豊住へ行く由、○時既に八時ナリ、率此時より曇天薄青始まる日光を視る、
○水産会幹事村田保君より^優夫待券一枚を差越ス、既済たる事なれば夫まゝト致し置
く、○日本弘道会より第十二号叢記を差越ス、○本日午後三時分、夫婦連にて共に
人力車、駿河台渡辺良斉子ノ宅に至り、齒療を乞ふたり、舛子の齒は抜く可らずと
断り、余か実に旧義齒なる事、此を持ち来るへしといふ、其より一旦帰宅、旧義齒
ノ件に掛る時に、大磯より勃平電報を差越ス、勃平ノ咽喉愈痛ミ、茶を差越し小遣
錢も不足之由申越ス処、加に瀬脇氏に嘱し一先大磯へ往診を乞ふ、瀬脇之を諾し、
午後三時發に大磯に往診す、尤小遣錢ノ不足等は、此を予算して瀬脇氏に托ス、瀬
脇同日發、後瀛車便夜十二時帰京之由、廿五日に至り漸く明なり、

四月廿五日『火』昨夜大雨、^雷電鳴夜中屢〜起く、○本日は舛子、母親の五十年祭ニ
テ、是非板橋へ行かんとする□□、然かるに昨夜に引続き大雨雷鳴止まず、然るに
年回報事なれば決行する事に決し、きよ子も亦紳六郎の志を継ぎ金三円を出して、
共に板橋ノ智清寺に墓參に行きたり、朝九時を以て發ス、○九時頃より昨日と同じ
く南風なれと、頭上少く虧裂を見る、○今十時後なれと、癖日和と見へ時々吹掛来
り霎時にして止、雷鳴も亦あり、然れとも南方より漸く^に北方へ移れり、○本日は
吹掛日和と見へ、午後一二時過ぎ至るも、再び雨天曇りて吹掛け至る、依而駿河台
行きを罷メタリ、○賞勲局より賞状を受く、此明治廿二年愛知県水害ノ節、罹災者
救奨として、元々老院議官奉職中七十三名共同金百円施与ノ段奇特ニ付て明廿六年
三月廿四日とあり、○四時四十分、舛子、きよ子帰宅、○晚餐は安康ノ肝ノ味噌汁、
別ニ板橋土産沢山あり、喰ひ切れず、○其後表便所ニテ小水一度、○其後山本に本
日の賞勲局達文を印行を行ひ、拝答文を明日賞勲局へ持參すへきを命ス、并に觀桜
御会□□の書を令夫人宛差出シたる旨を領ス、其後就寢、○明日は三崎座觀物ナリ、
『渡辺良斉ハ駿河台戸田家ノ上也ナリ、』

四月廿六日『水』本日快晴、九時より三崎座へ行く、周、舛、きよ、菊四人、并^人四力
も二挺ナリ、其前駿河台渡辺良斉へ行くとして其成否如何、渡辺ノ診察に少く手間取
り、十九日に至らば義齒を作り与ふへしといふ、故に総出来ハ三十日、来月一日頃
なるへし、○今朝大磯留守勃平より郵便あり、咽喉も□□喉^一之方、瀬脇療治後扁桃
も善し、留守中ハ案^{（綜綱）}する事勿レと、只風雨ニテ新入ノしろノ樹三二本顛覆せり、別
に異なし、数日の用を足して而後に復レと□□にする事なしと、

四月廿七日『木』快晴、東風、朝起灌水、其後茶ノ間に就座、雞卵二枚、白粥二椀、
其後二階上り、亀井八重子さん、此度なれば子を連れて来る、大なる子供ナリ、茲
迪君の面相あり、並に其母公綾君も共来ル、即ち二階を下り^鏡面ノ間にて此に面ス、
午餐を両君并ニ下女に供ス、喫し了て去る、目黒の□杯種とあり、○其前菊を大
磯へ遣はず、滞在稍延なるを以てなり、牛肉等を齎らし勃平の食料に備ふるナリ、

○午餐後きよ子は林恭子^{研海委服}_(麗)ノ字の婚儀祝挨拶に行く、併し先つ林董ノ所に行く、其仔細を知らんと欲してなり、其留守に林若吉より鯉節に赤飯ノ贈あり、○午餐は筍に鯛の味噌漬等なり、○餐後飽食を為したるを以て、入浴前灌腸を行ひたり、通利沢山なり、其後湯湧を報ス、遂ニ湯室に至り入浴ス、○○三時過菊帰る、早速電気菊□□□行く、○本日 お八重さん来る前、好来る由、○□晚餐は亦沢山、始メ林ノ赤飯を喰し、後茶飯、□□牛肉ノ未^(味)噌焼ナリ、後アポフレキシール拾粒、以て下利を催ス、○きよ子ハ本日内務書記官箕作氏へ行く、高崎ノ裏屋之由ナリ、

四月廿八日『金』晴、朝起風呂場ニテ洗面、灌水、其後茶ノ間就座、鶏卵二枚、白粥一碗、○裏便所小水一度、階上小水一度、○瀬脇姉さん来訪、養生煎餅ノ送あり、ふかし天蚕豆を供す、○本日は勃平、豊住氏へ来ル由ナリ、昨日舛子ノ許へ書状来れり、○二階ニテ小水度、○其前湿電一回左右腕面額項脊腰脇腿脚裏面等ナリ、○時事新報来ル、格別なる事なし、○報知新聞ハ置て行く、○午餐は鯛ノ酢焼、飯三碗、○其後芝公園に行く、人力車なり、第一翠香園□□花一鉢を買ふ、名を忘れたり、洋草ナリ、了て薔薇園に行く、花無し、翠香園ノ牡丹は観るに足らず、了てまた勸工場の保坂金次郎方へ行く、□□ノ花を観る、只一種にて如何とも為る無し、其より余は直にまた人力車にて帰宅、舛子、きよ子、菊は、後より勸工場に買物ありとて暫くして帰宅、余帰宅後表便所にて小水一度なり、○本日紳六郎より郵報あり、廿九日品海に帰艦ノ積ノ所、艦未た□□せず故に□□ノ里返へも行き得すとて断りの書状なり、○芝勸工場より帰宅すると同時に勃平帰宅、一二談話の後、豊住へ行くとて遅に出行ス、また熟談に及はず、其後二階にて小水一度、○

四月廿九日『土』曇、雨は降らず、暁起二階ニテ小水一度、其後湯殿へ行き洗面、灌水、茶ノ間に復座、鶏卵二枚、白粥二碗、其後アポフレキシール九十粒、宮内大臣より^{四月}五月三十日浜離宮ニ於て午餐下し賜候ニ付招状あり、早速山本に命し、御断申上之旨宮内大臣へ差出ス旨申渡置く、○本日菊を大磯へ諸取締として并ニ金太保護に帰へす、○本日は渡辺良齊君の処へ行き、義齒を作る約束日なり、午後は帰宅、鳥渡十二時大砲間無く発ス、○午餐は鰯ノ煮肴、蕨ノ煮物等ナリ、其後今朝元か宿の亭主来り、今朝ハ大磯行と聞き御断り申上候へ共、能^(央)考へ見れば東京ニ而も中央区計ニも非らず、遠方なれば一二年間は中英区ノ事情も知るへかり、されは率路大磯に行き仕んにはと改心せし旨を述へ、給金一円五拾銭ニテ、来ル一日に同道大磯行と決し、菊も此左右を聞き、安心して二時ノ瀛車ニテ大磯へ移りたりと、先つ一応事成れり、○歯科渡辺良齊氏も一二度舌ニ載セ、コム^(央)の細工して、来ル一日朝参来の時就すへしと約したり、此にて万事了ル、午後四時前高木ノお富さんとおせいさんと達玄女ノ子来ル、石川おせいさんは色々挨拶したれとも尽し難し、○其後八百屋ノ団子を二串喰ふ、○其後六時五十分ノ瀛車にて、勃平大磯へ発車ス、数々囑する所あり、中大沙糖樽等也、自身ニも太刀を携へ行く可しと勇ミ居れり、

「西周日記」

四月三十日『日』快晴、寒し、早起湯殿にて灌水、洗面、再茶ノ間ニテ復座、鶏卵二枚、白粥二椀、了て玄関に出て、玄関より二階へ登り、西洋ノ間を通過し、二階大□間に至る、○其後小水一度、再就座、西洋ノ門、二階通過ノ時、きよ子此を扶く、○茶ノ間ニテ其前アポプレキシール九十粒を服用す、○其後大野富雄来、昨日の四月限り預ケ金の事を申出し、当節は慎思郎も留守旁今少し延引之方可然といふ、其義に決ス、然れとも少く金入用筋あれば、明日即五月一日に至らば五拾円丈当座預ケ分より引き出すへしと答ふ、○其後午後より有楽館に行て、周、舛、時雄三人三人皆顔不□ナリ、

五月一日『月』晴、本日は昨夜遅く渡辺良齊より断り差越したれば、駿河台は訪問明日となる、朝起二階ニ而便用了て、下りて浴殿に行き、灌水、洗面、返て茶ノ間に就座、其鶏卵二枚、白粥三椀、了て表ノ手水所へ行、小水出でず、則ち二階ニ登り便所へ行く、漸く小さく通利あり、○其前瀨脇水薬一服、○本日は福祿座へ行かんとす、○昨日きよ子、富子の里返りに罷越し、帰路に牡丹紅白二鉢を齎らし帰へり、○本日大磯へは電報に申達ス、○女子は来るへし、其儘に置くへしと、○朝九時過より赤坂座へ行く、六時前帰宅、後直に表便所へ行く、小水一度、尤赤坂座にて二度、□□に任たり、然れとも始終快からず、帰後本道に快く通したり、晚餐は牛肉、蛤ノ吸物、鱈ノ甘酢、ふき等なり、午餐座にて何も無し、□□之所満腹となれり、明朝或は灌腸を促かすならん、晚餐後就寝、○赤坂座は十年ノ役及今紫ノ□等ナリ、蝶花形は□□□無し、午後三時過地震ありと山本いふ、座にてハ撃柝最中ならん、知る者無し、

五月二日『火』渴この晴、○本日駿河台へ行き義歯を挿する日なり、午後は大磯へ帰る都合ナリ、○紳六郎も昨日尾張まで帰艦之由なり、遠からず品川湾入る事ならんと信す、○朝起灌腸、其後湯殿ニテ盗漱、洗面、櫛、復座、鶏卵二枚、パン一枚、牛乳三杯、了て二階ニ昇り、二階ニテ小水一度、○時事新報も見了る、格別之事無し、真□は大磯別邸に在りといふ、○午前帰宅、三時半ノ瀛車にて大磯へ帰る事ニ決ス、夫迄に渡辺へ義歯を取に遣す約束なり、午餐は富子ノ赤飯、鯖魚ノ照焼等ナリ、○五時四十九分大磯着、其余晚餐等は詳細に記せず、只入浴は明日に譲る、

五月三日『水』昨夜着後雨、終宵降る、今朝雨は止みたれとも曇日なり、○朝湯ニテ灌水、義歯を忘れ、後に舛子□□□、此を銜む、○跣足にて園内を遶り、下に降り四足亭ノ椅子に掛ケり、其より園内小坂を登て蒔物□を見、了て椽側より上り座縁に就く、○其後小便所へ小水一度、○其後入浴潮湯、○其後湿電一回、左右腕面間項脊腿脚肩等、○其後裏便所ニテ小水一度、○午餐は牛肉ノ煮物と筍ノ煮物等なり、○暫く午睡に就、○晚餐は鱈の甘酢、蕨の煮物等、飯茶漬三杯、○其後瀨脇薬一杯、其後小水一度、就寝、

「西周日記」

に服薬ス、服薬は甘味ありて飲安き薬なり、○此時鈴木帰る、大磯浜を見物にて何の累もあらず、○午餐は鯖の焼肴、鯖ノ酢の物等、切乾等ナリ、別に御馳走も無し、小豆飯三杯等なり、○勃平、其後馬寫へ行く、○金太も能く食ふ、○時事新報は午前に来りたれと別ニ臨報無し、只静岡ノ茶ハ伊勢ノ茶に勝る位ノ事ナリ、○晚餐は同、同立合、岡野東七郎、勃平、鈴木守衛、五人、同夜にていかノ甘煮、ゑひノ具足煮、玉子ノ吸物等ナリ、其後灌腸、下利あり、其後カミツレ煎一合、

五月八日『月』本日も床ノ内ニテ朝食、鶏卵二枚、パン一枚、牛乳一合、其後馬寫薬一杯、○朝為吉海水を汲む、湧けは数日の垢を除かんと欲す、八時半より入湯、削鬚、潮湯ナリ、下間床に就く、其後プランの寸法を取りに行く、延縮なく壺丈ナリ、此段□に及ぶ、○午餐は泥鰯ノ味噌汁、具少し、鱈ノ干物等なり、○勃平は午餐後浮腫之気味に馬寫庄次郎の診察を乞ひに行く、○晚餐ハ鰻鯉ナリ、薄焼、白飯壹碗、鮎魚三疋ナリ、植木屋ノ贈物ナリと、了て小水一度、

五月九日『火』晴、本日も北東南西とも霽れ、風未た起らず、朝起湯へ行き灌水、了て座に復し、鶏二枚、パン一枚、牛乳^乳壺合、○其後馬寫薬壺杯、○了てアポフレキシシー丸十五粒服用ス、其後裏便所に行く、小水通利無し、○其後電気、菊此を司る、左右腕面項背脊左右腿脚裏等ナリ、○後裏便所^あニ行小水一度、○午餐は乾燥の牛肉、山本ノ買ひたる分、葛管の□味噌煮^あへ物、喰ふへき物なし、赤小豆飯三膳を傾けたり、○勃平も馬寫へ行く、喉を焼く積也、馬寫薬一服の後、余は午睡に就、午前は勘定簿に掛り、三月四月に至たれとも倦きたれば他日を約して廢したり、晚餐は白飯、鱈の塩焼、鮎煮、了て馬寫薬一杯、其後アポブレキシシー丸十五粒服用、□□□□□、

五月十日『水』晴、雨未夕到せず、朝灌腸、其後洗面梳髮、其後鶏卵二枚、パン一枚、其後^馬真寫薬一服、其後アポブレキシシー丸拾五粒、○其後電気、左右腕面項両腿両脚等、菊同し、○朝晴雨等は判然ならざる処□□□より南風雨降り出たす、○きよ子より手昏、舛子之処へ来りたり、余によるしくといふ事なり、紳六郎は未だ住所定らずと、○岡は病十分ならずとて大森へ出養生致す積なりと、勃平も兎角宜しからず、何分自療治多しと見ゆ、○百足屋、昨日東京へ行きたる由、歌舞座毎日道中ニテ賑敷なりし附き座敷も無く、余程賑ひの由なり、○午餐は鰻鯉ノ蒲焼、泥鰯ノ卵子綴ナリ、○午後^三五時過入浴潮湯、髪を剔る、其前三嶋夫人来り、舛子と談話す、兼て薩州^カ卅十里の礼を言ひ、巡查のかミさんも来りたりと見ゆ、○時事新報は午前に来たれり、元平墓に取次所なりしか、今度大磯に移すに付、広告を願ふといふ挨拶書を添へたり、新報には別ニ奇事無し、地震会議ハ文部省楼上に開く由なり、其他□□□以下数横浜根岸ノ競馬を看に□□たりといふ位の事なり、○晚餐は豚ノ薩摩汁、大根墮し等なり、赤小豆飯三椀、腹充分ナリ、了て馬寫薬一杯、アポブレキシシー丸拾五粒服用、而后小水に裏便所に行き、寝に就く、

五月十一日『木』 快晴、海上尺許の外雲無し、○早起灌水^二を忌む故裏便所へ小水に行く、了て就座、鶏二枚、パン一枚、牛乳三合、本日天気好く温暖にして、咳嗽少しもなし、其後馬寫薬一服用、○其後アポプレキシシー丸拾五粒服用ス、其後裏便所へ小水一度、○先日残ノ会稽^(ママ)結算為したり、○時事新報も午前に来りたり、格別の奇事無し、只文部大臣、浜尾大学総長を訪問したり、また総理大臣、改革ノ寛厳如何等ナリ、東京市参事会員ハ一旦辞職後如何等なり、○午餐は大根、ふきの煮物、○本日午前馬寫庄次君診察に来ル、○晚餐は鱈ノ田楽、葛管ノ酢味噌あへ等ナリ、了て真嶋薬一服、其後アポレキシシー丸拾五粒^(フ)服用、○而后就寝、

五月十二日『金』 快晴、北東南西一点ノ曇気無し、○朝起灌腸、其後灌水、平常に復ス、鶏卵二枚、パン一枚、○其後六時半ノ瀛車にて、舂子東京へ行く、其後裏便所へ小水一度、○其後馬寫薬一服、其後アポプレキシシー丸拾粒^(脚)服用、○八時半頃南風例ノ如く起る、○其後湿電一回両腕面項脊腰却等、菊も同じ、○其後裏便所にて小水一度、○其前山辺丈夫より、牡丹は既に季節を過る故秋季来年のものを送るへしといふ、また石川扇子より舂子ニ当てたる手昏あり、舂子留守なれば開かず、○後に園に下り、小坂を下り四足亭に至り、椅子に倚り、再び遶りて、大坂を昇り座に帰る、金太も安ず^ニに御負ふして来り憩ふ、○其後豊住より横須賀より来状あり、腎臓病と聞き、瀬脇へ早く医療を托ス可しとあり、○また午餐前により裏便所へ行き小水一度、○却金太煎餅を能く食ふ、○午餐前三寫さんより例の薩摩流の萩^{萩ノ餅ナリ}端^端午餅^ニ何かを贈り越せり、匂味佳なり、○午餐は鮎の甘酢、後園ノ豌豆、蕨^蕨等ナリ、□□赤小豆飯三杯を以テセリ、○時事新報も午前に来たれと、別に記すへき事無し、只驚く可きは塞爾維王は今迄の内閣員に辞職を勧め、国会議員を新撰すといへる策なり、○舂子は五時四十五分着、夫より晚餐は牛肉和か煮多し、夫より□□□□なり、其後馬寫薬一服、其後アポプレキシシー丸拾五粒、其表便所へ行き小水一度、而后チ寝に就く、

五月十三日『土』 快晴、○朝起灌水、其後復座、鶏卵二枚、パン一枚、牛乳二杯、其裏便所へ小水一度、其後勃平に扶けられて園内を遶り、四足亭にて巻煙草一本を喫し、次に小坂を登り、園内ノ小園内を遶り、復座ス、○其後湿電一回左右腕面項背腰腿脚等皆同じ、大凡一時間許、○時事新報に歌舞伎座近火之報あり、又同時、犬賢虻虫を生し、サントニーネを飲ましむ、供せて此を吐くの煩あり、○其後勃平に扶けられて四足亭に到り、巻煙二服を喫し、小坂を昇り通行路に出たる所、道狭にして兩人通りに難し故、勃平負ふて過さんと欲す、辛うして横行し、平路に出て、帰、就座す、後灌腸を行ふ、明日東京に行かんと欲するなり、通利頗ルあり、後入浴潮湯浴、罷て真寫博士来ル、診察を受く、浴後故脈拍急ナリ、打診も別に異状無し、○午後四時過、きよ子より書状来ル、歌舞伎座は座近きニ而、順延になりたりと、○晚餐は鱈ノ甘酢、牛肉等、赤小豆飯二杯半等ナリ、勃平、舂子は、岡を越へ

「西周日記」

て逍遙に行く、為吉、金太と二人、就寝、其前馬糞葉一杯、其後アポプレキシー丸拾五粒服用、

五月十四日『日』晴、晴に相違なけれとも未だ判然せず、^北南風海上穏なり、○朝灌水、復座、鶏卵二枚、牛乳麵包一枚、了て裏手水所ニ行く、小水不通、○本日は第二日曜なれと、昨日勃平より書状遣はし、会院へ不参なり、○本日はブランコの金具は本日差越ス筈なり、○其後湿電、葉旧くして利かす、扱無し、乾電を用ゆ、両腕面背腰腿却等大凡同し、菊も同し、○本日も駅亭の四足亭を修繕す、昨日の如し、○午餐は鮎ノ昆布巻き、大磯ノ赤豆飯二杯、○午餐、裏ノ便所へ行き軽く小水一度、時事新報は午前に来たり、寺嶋陶蔵君の容体の外、格別之事無し、○午後風向も愈々南風となれり、海上白波起れり、昨日の如し、

五月十五日『月』朝起灌水、其復座、鶏卵二枚、麵包一枚、牛乳一合、其後明日の京行を考へ灌腸一度、通利頗なり、其後ブランコ着にて此を乗り試む、○時に百足屋来り、伊豆竹も来り、人足も来り、ブランコを扶く、○本日はブランコノ騒^(ママ)にて色々ノ事あり、○本日は時事新報例として来らず、頗ル閑暇なり、○午餐はいさきの生き腐、鱒の酢ノ物、豌豆まめ煮物、□花と嗜ナリ、其前勃平、百足屋と碁を囲ミ、敗□したり、○本日また植木屋、紅色卯つ木、また浜囲の□□呉れ□けし行きたり、○午前当地に珍敷なる紙鳶を見たり、百足屋を□ス、二時過入浴潮湯、^(ママ)鬚剃、剃髪、芝居観物に須する也、○本日午後南風殊に烈し、西南方陰雲殊に多し、明日之天氣不測也、夕方酢を作る、家内振払甚し、○植木屋の^職白人晩方まで居りて、其前□花を直ス、○夕方為吉帰り、ブランコノ椅子ヲ除き、只横木を用ひ、平常ノ制ノ如くに此に試むるに甚痛くして堪へ得ず、○晚餐ハゑひ、鯨、鱈□ノ煮たものなり、跡にアポプレキシー丸拾五粒服用、

五月十六日『火』曇、雨、朝灌水、其後就座、鶏卵二枚、麵包一枚、牛乳一合、○本日雨天なれと東京へ出府、○一番瀛車にて出立、^八九時頃新橋着、○勃平も立寄り、暫くして豊住へ行く、肴杯拵了て、○午餐は^八○晚餐は鰻鯉の茶漬、満腹なり、明朝は灌腸と究む、

五月十七日『水』昨夜雨る、夜半□□強風□む、○本日十時より歌舞座観物、朝湯殿ニテ洗面、灌水、復座、牛乳一合、鶏卵二枚、パン一枚、○紳六郎、昨夜来り不得と書状届く、○豊住好、豊は□ならんといふ、勃平も来ルへし、只百足屋未だ音信なし、如何にや、^和伊泉竹も来るならん歟、本日十時過より芝居へ行く、勃平も来り共にす、豊住好、豊も来り、大磯も百足屋、午後より招仙閣三人、大磯大□□、其外^(ママ)外人共に来ル、伊和竹ハ来らず、凡て十人なり、皆上総屋にて食事を酒を給す、夜八時後帰宅、

五月十八日『木』本日曇る、予報も立てからず、紳六郎も十時頃より来る由、勃平は本日は参らず、○九時過より三崎座へ行くと定む、朝灌水湯殿ニ而、其後就座、鶏

卵二枚、牛肉一杯、パン一枚、二階にて小水に行く、本日は芝居供梅なり、
五月十九日『金』晴、雨らず、虧裂なり、午後に至て快晴に至るへき歟、○朝湯殿ニテ灌水、復座後、鶏卵二枚、麵包二切、牛乳壺合、また二階ニテ瀨脇薬一杯、其後小水一度、其後水^戸薬一服、其後灌腸二階にて、本日程ニ依り入浴ノ仕構なり、○^{〔販、以下同〕}坂谷芳郎君ノ居処分らず、帰磯後調ふ可しと思ふ、午餐は甘鯛ノ煮、九品を振舞う、其後復座、○午後、○其後高木ノお富さん来訪、あんころ餅ノ土産あり、其後岡たり、長州ノ酬并ニ長州料理ノ到来あり、未だ試みず、○晚餐は岡の重詰等なり、
五月二十日『土』晴、本日乗瀛車にて大磯へ帰る、○新橋停車にて小町美稲君等に逢ふ、旧元老院の人となり、何れに行くを会せず、并ニ河野敏鎌君にも逢ふ、○品川停車場て勃平来り会ス、○其後横浜停車場にて紳六郎辞し去る、遂に程ヶ谷を歴、^{〔戸〕}土塚を歴、大船を過ぎ、藤沢に廻り、平塚を経て、大磯に帰る、帰路停車場より人力を雇ふ、帰て午餐す、蚕豆等ナリ、晚餐前百足屋礼に来る、其後晚餐はいさき及^{〔晩〕}豌豆なり、此日疲労にて日記も十分ならず、夜来雨る、晚餐前入浴潮湯、其前少時間ブランコ等なり、
五月廿一日『日』朝雨る、○早起灌腸、通利少し、其後灌水、其復座、鶏卵二枚、麵包一枚、多分餅食無きにあらず、○其後水戸薬一服、其後湿電一回、左右腕面項脊背両腿両脚、菊皆同し、始メ利悪し、後能く利きたり、其後表便所へ小水一度、○其後午餐は牛肉のからし味等ニテ白飯三椀ナリ、其後跣足ニ而^{〔縁〕}椽先より下り、花壇を見、夫より小坂を下り、泥濘甚しく、依て大坂を昇り、内ニ帰り洗足、就座、○加藤君、明日帰京ニ付、何れ其前立寄へきに付、態々御来車は断りと之事なり、○四時半過、勃平に誘れてプラ子に従事ス、少許□□□□用ひ□□止めたり、○晚餐はパンと卵子少し、牛肉ノ煮物等なり、○其後庭前に出て帰る、後水戸薬十五粒服、寝に就く、本日午後晴□□出し□□晩方まで□^月高く清白たり、
五月廿二日『月』本日昨夜より都合ニ而上天気なるへきに、本日も又雨ニ而曇天なり、○早起湯殿に行き灌水、復座、鶏卵二枚、麵包一枚、また四月一日ニ而、^{アヒル}鶩卵二枚、其後灌腸、通利あり、本日入浴潮湯なればなり、○其後湿電、両腕より両脚に至る、菊も皆同し、時正に十時、海上今朝よりも曇る、○金太騒く、○灌腸前水戸薬一服用ス、○十時後裏手水場ニテ小水一度、○午餐は□箱ノ煮物、蚕の豆及白飯三杯ナリ、○表便所ニテ小水一度、加藤君の来るをまつ、其間水戸薬一服用、○其後三嶋夫人より東京土産なりとて覆盆子を差越ス、其後加藤来ル、再覆盆子を差出ス、一二顆を喫して三時三十分の瀛車に発ス、其後入浴潮湯、其後豊住の手紙を見る、○晚餐は赤ゑいの担肝味噌汁、頗満腹、
五月廿三日『火』昨日の通、八専の例として曇天、北風なり、朝起湯殿にて灌水、其後復座、鶏卵二個、麵包一個、其後裏便所ニテ小水壺度、其後湿電、利き薄し、其後乾電一回、只し左右腕、其後植木屋大柚木一本を移植ス、其後表便所へ行き小水

「西周日記」

一度、○其後時計直し、○午餐は大鰯ノ塩焼蓼酢、護豆、天蚕等ナリ、午後舂子、宮城屋に沢老夫婦を訪ふ、未だ大磯に來らざる由ナリ、○時事新報は午前に来れり、本日は色々大事件あり、第一ハ朝鮮防穀事件ノ落着、外務大臣ノ果斷と大石公使の弘毅とに依り彼レ罪を負ふて賠償金十一万円を出ス事に至り、無事事となれり、○其他吾妻山再破裂ノ詳報あり、然れとも人畜死傷無し、○中ニも深く畏る可きは伯耳義国哈畏鳶ノ嘯に倣はんとする事ナリ、○本日は勃平も東京へ帰らず、明日帰る由ナリ、○植木職人本日一日の仕事なし帰り、怠惰と謂ふへし、○晩來猶雨点と降る、八專ノ徴ナリと、晩餐はしこの酢焼、豌豆の煮物、牛肉ノ茸煮等ナリ、其其後水戸薬一服用、

五月廿四日『水』曇、八專ノ続なり、朝起朝起灌腸、其後灌水、其後復座、雞卵二枚、麵包一切乾噪甚し、牛乳壺合、其後裏便所へ小水一度、其後勃平起床、飯を食ス、其後表便所へ小水一度、○本日も朝より甲子植木屋人夫を牽ひて來る、庭ノ草採と見ゆ、○きよ子より書狀來る、例の鑰^鑰は索探を遂れとも見へすとあり、○午餐フライトヒツシ、莢豌豆等、白飯三椀ナリ、其後園中ニ出て、四足亭ニテシガル二服吸ひ、其ブランコに乗り、島毛ノ枸杞ノ生長を見て帰り、就座、○其後入浴湯潮ナリ、○本日も午後夕方に雨降り出ス、气象台ノ報告霽ならず、時事新報も午前に来ル、○其中只天文台の報告真に近かし、いふ低気圧あり、九州より大阪を襲ひ、分れて二となり、一は北海に入り、一は紀州沖ニに入りたり、故に氣候に変を生したりと、東京も寒き由なり、○晩餐は小豆、護摩菜ノ□□□炙ノのツへい等ナリ、了て表便所にて小水一度、了て水戸薬一服用、後就寢、

五月廿五日『木』例の低気圧ニテ、本日も曇天、霽相も無し、○風は北風、或は霽れに至るならん、○朝起灌水、其後就座、雞卵二枚、包麵^{ママ}一切、其後裏便所ニテ小水一度、○乾電法に左右腕面項脊背腿兩脚、其後表便所へ行く、其後表便所にて小水一度、勃平九時四十八分の瀛車に東京豊住へ行く、鰯等土産あり、庭前四足亭に出て、此を望見し後送り、了て為吉に誘はれ帰て、就座、金太は為吉に負はれ、勃平を送り帰りて、就座、○此時時事新報來ル、別に格別之報告は無し、郡司大尉の事ハ別報に記ささりしか、本日の報告に 聖上も奏聞を聴かせられ、一時驚かせ玉ひしか、後報にて御平穩に復させ玉ひしといふ、○三時^{前より}本日又と雨り出たせり、□気圧の結果是哉、甚しき塩況も次第に高まるといふ、蚕況勿論なりと、○午後坂谷芳郎氏へ答書を書せんと□□□□□勃平の□□へ□□なれと見へす、○□□臨んで加藤弘之氏歐文書翰を求めたれと折節□□□見へす、蓋し其代りに坂谷□□□□を携へ去りしならんと推測したり、○晩餐は鯛の酢、酢に過ぎて味佳ならず、別に豆腐ノ煮物あり、金太好んで之を食ひ、跡ニ而吐す、

五月廿六日『金』例の低気圧を解かん為か、昨夜より續て雨止ます、然れとも未だ低気圧解けたる様相無し、○朝起灌腸、通利あり、其後湯殿ニテ灌水、復座、雞卵二

枚、麵包一切半等、其後水戸薬一服と用ス、了て表便所へ行く、小水一度、此を手伝ふ、○其後不変湿電、能く利くを菊服ス、乃ち湿電を□□して此を掛し、左右腕同し、夫より脊部十分より腰部、夫より腿部脚と共に同し、茲に始本日も湿電療治を了る、○午餐は鰹魚ノ差し身、大根の煮物、牛肉等なり、了て表便所へ行く、其時事新報を閲了、格別之事無し、鋼鉄艦再調査説、後藤大臣の認可なり、海産物は異なり、郡司太尉ノ第三ボートは未当ナリ、其後入浴潮湯了、表便所に行き、安なり、小便不利、返て裏便所に行、小水不通なり、晚餐は鱈ノ酢浸、かき等なり、白飯三椀、是より小水に行かんとす、○本日村田氏書状を書き掛けたれば半成ナリ、五月廿七日『土』曇^{快晴}本日、例ノ低気圧は^{本日にて止む}止まず然れども、江ノ寫ノ遙に見ゆ烏帽子岩まで或虧裂を生したるや否未^{十時に}未^{判然}判然せず、○早起灌水、其後復座、雞卵二枚、麵包一枚半、○其後裏便所に小水一度、其後水戸薬一服と用、○海潮勢暴なり、北風依然たり、○其湿電一回、左右腕面項腰背脊腿脚ニ裏面等、菊も同し、○其後表便所へ行き小水一度、○九時正東南の間に真ノ虧裂を生し、其後佐土原さんの上より虧裂を生し、猶も一面ノ大虧裂となり、北方にも一ノ虧裂を生し、正二猶続かんとす、○十時過百足屋来ル、色々別荘之談あり、直に帰る、本日は快晴にて追々海水浴盛ならんとすと、○□前に^{□前に続く}続く、時事新報も午前^名に届きたり、前代史を作るは異論無^七、○本日も植木屋□材を運ふ、皆堀ノ土留に打つ為ナリ、○時事新報も午前来る、別段ノ記事も無し、只郡司太尉ノ第三ボートは十八人全く没したりといふ、或は実ならん、○本日勃平、一時四十五分発にて帰宅、好よりの牛肉、茶等多し、帰宅後表便所へ行く、小水一度、其後勃平ニ扶けられて^{〔ソ〕}ブラ子を試む、了て四足亭に於巻煙二服を喫したり、○晚餐は牛肉に莢豌豆に□□□□酢浸等ナリ、跡ニテ水戸薬一服用、寝に就く、○晩来亦雨降□□ □□通りて書齋に帰る、晩来亦雨降る、五月廿八日『日』晴、昨日の続き南風、朝起灌腸、通利尋常なり、其後湯殿にて灌水、復座、雞卵二枚、麵包壹枚半、牛乳一合、了て裏便所へ小水一度、其後電気湿電一回、本日潮湯、百足屋浜にて汲に行く由ナリ、其前水戸薬一服と用ス、湿電ノ前ナリ、○午餐は黄膚真黒ノ刺身に莢豌豆等ナリ、三時より入浴潮湯、其後小水裏手水場に行く、六時晚餐は牛肉、人参煮、吸物、茶漬三杯、○本日義太夫の推売も来り、また鯉を売りに来り、此を買入、其後表便所に行く、五月廿九日『月』朝曇、霧深し、未判然せず、多分雨に近かし、早朝灌水、復座、雞卵二枚、麵包一ツ切半、了て表便所に行く、此時^{〔符〕}舂子出立、東京に行く、六時六時^{〔録〕}四十一分ナリ、勃平見送る、帰宅、朝餐に就く、周椽側に見送り、急に小水を催ふス、乃ち表便所に行く、小水一度ナリ、○了て水戸薬一服と用ス、○其後裏便所に行き小水一度、○其後湿電を行ふ、両腕面項背脊腿腰上両脚両脚脊、菊も同し、○本日も植木屋人足兩人来ル、芝ノ草取りなり、○六時前より愈々雨降り出ス、○本日も紙欠亡くして、村田、坂谷へ答書從事叶はず、○夕六時、舂子帰宅、夫鰻鯉

「西周日記」

の蒲焼を喫し、最後に覆盆子ノ馳走なり、また其前に亀井公の贈物を食し、
五月三十日『火』早起灌腸、其後灌水、其後復座、鶏卵二枚、アウトメール乳牛一合、
後表ノ便所へ小水快通、灌腸後なるを以てなり、其後湿電一回、菊も同じ、其後裏
便所にて小水一度、其後舂子ノ勸に依て会計簿を附記す、○吉村ノ手帑を読む、昨
日従三位殿より油絵を贈りたる由、十分周に似すと云ふ、○水戸薬も服用す、○午
餐は残の鰻鯉茶浸にて、猶別に鱈の塩焼等、シヤガ芋もなり、午餐表ノ便所へ、勃
平、舂子、兩人ノ手伝にて小水一度ナリ、水戸薬も一服十粒服用ス、○本日も二時
頃入浴潮湯ナリ、三時前揚ル、其表便所へ行き小水一度、本日も時事新報来れり、
○郡司大尉、眼を負傷せりと事なるか^生死命には氣遣ひ無しと、其他は大坂府下河内
国赤坂村にて十人斬ノ談等ナリ、別段奇事なし、○天気は昨日ノ如し、照りもせず
降りもせず、時々漸雨降る、○晚餐ハ硬牛肉葱焼、覆盆子羹、白飯三杯ナリ、了て
表便所へ小水一度、了て就寝、其前水戸薬一服用ス、

五月三十一日『水』昨日の如く惣曇天なれと、北東方時に剝裂無きに非らず、伊豆海
青し、○早起湯殿に洗面、灌水、復座、牛乳一合半、鶏卵二枚、麵包一切レ、了て
表便所へ行き小水一度、○勃平八時起床、就食、其後裏便所小水一度、○其後湿電
を行ふ一回、菊個所も同じ、○馬鳥氏へ謝礼金五円を遣はす、周水薬、勃平淋病薬、
舂子口中薬等ナリ、○本日も植木職人二人草採りに来る、午後雨降り出したれば皆
帰へりる、午餐は疣鯛の煮物、味佳なり、餐後表便所へ行き小水一度、○其後再裏
便所へ行き小水一度、○本日も午前は剝裂も処こニ在り、多分開晴なるへしと思ひ
たれと、午後に至り□^{〔遠ノ露カ〕}に南風と変り、雨降り出せり、○時事新報も午前に来れり、
中ニも土耳其貿易は頗る面白し、郡司大尉は微傷なる由、五六日を歴ハ全癒に至る
可しといふ、○晚餐は名残ノ鰻鯉煮、牛ノ味噌煮、葉大根ノ漬物、牛肉ノ巻物等ナ
リ、餐後周等高木ノ前を降り、下りて□□に出てんと、暫雨降り出して帰宅、依て
□便所に行かんと欲し、帯を解き時節待つ、其間に水戸薬拾服用ス、了て便所
に行き寝に就く、○本日は村田氏、坂谷氏答書を載めんと欲したれと能はず、○

六月一日『木』快晴、○朝起灌腸、其後浴室に行き洗面、灌水、其復座、鶏卵二枚、
麵包一切、其後表便所へ行き小水一度、時は急なり、少し汚らす、○本日庭職人三
人来ル、○七時半勃平起牀、就食、○其後裏便所へ小水一度、○其前水戸薬拾粒服
用ス、○其後湿電一回、面項脊背左右腿脚裏面等皆同じ、菊亦同じ、○其後園中
に出て枸杞ノ世話をして帰り、就座、○午餐は平鱈ノ煮肴、豌豆ノ煮物等ナリ、○午
前に紳六郎より便あり、本日品川拔錨、中支那朝鮮管轄沿岸航行之由、出発前いと
ま相伺候心組ノ処、昨朝まで判然せず時間を消す、□□□□□□亦□□□□□□
ハ何分□□候、何れ次便にて委細可申上候、匆々拜白、ナリ、○舂子は勃平と共に
高麗園に行きたり、金太靱に出合て頻りに叫ひたり、○其後為^に吉^に依頼しブランコ

吊らしめ、十分間程此に乗り、了て四足亭に休息し、シガル二本を吹き、帰り座に就く、其処へ舂子、勃平帰る、○四時後入浴海潮、剃鬚^{〔ママ〕}、○晚餐ハかれい一塩、切鱈、豌豆ナリ、了表便所小水一度、復座、水戸薬拾粒一服と用、○本日も村田、坂谷両氏への返答遂に延引となる、

六月二日『金』曇、北風寒し、兎角不順ノ時候なり、全く虧裂ノ望無し、九時過より雨となる、早起表便所に小水一度、其後湯に至り洗面、灌水、復座、鶏卵二枚、麵包一切レ、牛乳一合、其後裏便所へ小水一度、○植木屋職人足五人来れと、雨となり皆帰へり、○紳六郎より、品川軍艦千代田より書状来ル、昨日と略同し、仮帰京ハ九月とあり、是慨す可きのみ、○勃平も早起、朝食稍達すのみ、○本日は朝早く電氣了む、菊早く持参したるなり、両腕面項脊背脛^{〔脚〕}兩却等同し、菊も同し、湿電能く利く、昨日より新葉なれはなり、其後水戸薬拾粒服用ス、○時事新報ハ午前来る、中ニ周学生会院年金三百円は六十年以上ニ付賜はる由有之、また紳六郎ハ^{〔免〕}本職、英国ニ製造ノ吉野艦回航被仰候旨、新報に見へたり、○また災火^{〔脚〕}は本日午後、○時愈〜ストレキニーネニテ□□に帰したり、安憤る、事甚し、○午後汁粉白玉を喫したり、本日は雨降り出してより三□晚前北風□□に起る□□□□□□□□□□、○晚餐は鱈ノ塩焼、白飯三杯ナリ、別に□□□□等ナリ、其後水戸薬十粒服用ス、

六月三日『土』昨夜ノ風ニテ吹き霽らし、北方ハ既に満天霽れ涉り、東方ハ大劇裂を生し、南方ハ伊豆山ノ下海青し、○朝起灌腸、其後湯殿へ行洗面、灌水、復座、鶏卵二枚、アウトメール牛乳二盃半、了て表便所ニテ小水一度、其時東海道□□れり、紳六郎在りやと見る、一も類似ノ事無し、○八時十分前ニ再ひ出て見る、亦□□□□、○勃平、八時半起床、就食、○本日早朝より庭芝間の草採三人来ル、○八時過より湿電一回、左右腕面項脊背腰腿脚裏等、菊此を司る、平日ニ同し、○了て裏便所へ行き小水一度、○きよ子よりも紳六郎令達ニ付、官報ニて承知の様なれ、神戸へ再ひ伝達も如何と危ミ、其□□に致し置様子なり、何れ□□事なれハ神戸ニ而達を受け、早速支那^{〔朝〕}鮮魯国沿岸の拳を止め、英国ニ而製造ノ吉野艦乗組を替る可しと思ふ、何れ明後五日に三十間堀へ行く故、事委細に分かる可しと思ふ、尤きよ子の手昏ハ六月一日の書ナリ、○其後四時入浴潮湯、其前表便所小水一度、○其後四時勃平入浴、○其間白地を着くし園内に下り、枸杞世話ス、菊手を引き返ル、座に就く、其後表便所へ行く、舂子此を扶く、其後勃平湯より揚る、○其後為吉草を苜り初む、○本日時事新報も午前来ル、格別ノ事無し、□□は改事しといふ趣ナリ、○大尉は極て微傷ノ由ナリ、○晚餐は鯛ノ潮煮、鯛ノ煮肴、白飯三杯、其後に水戸薬十粒、後に小水表便所に行く、後勃平ニ誘れしなり、踏切を越へ大磯町に出て、若松屋に立寄りて、人力車を雇して帰宅、

『夜十時頃微震あり、是頗ル長し、』

六月四日『日』本日薄曇、剝裂細長多く、未だ判然せず、朝早起灌水、復座、鶏卵二

「西周日記」

枚、アウトメール二杯半、其後表便所へ小水一度、其後風候ノ為坐敷へ行く、○本日植木屋早朝より来ル、松の枯枝を切取せんことを望、植木屋聴かす、○餐の後再び表便所へ行く、小水一度、○湿電を行ふ一回、両腕面項脊背腿両脚率同し、菊亦同し、○其後表便所行く、小水一度、安此を扶く、○其後百足庭作ノ礼として薩摩織一反、フラネル一反を遣ス、其後羊肝一切レを食ふ、○午餐は鰯ノ干物、かしき鮪の蒲焼、せんさい等なり、○午餐の後表便所へ行く、小水一度、勃平此を扶く、○本日南風海浜紙鳶の揚るを見る、本日朝より紳六郎立寄る事もあらんと、瀛車来ル毎に屢〜出て見る、□□□□□□を得ず、或は直ちに帰宅したるなるへしと思ふ、○本日は芝草三人余り来る、○時事新報も午前に来れり、ベル林市内病院ノ凶ノ外何ノ事も無し、尤も昨日は土曜、本日は日曜なればなり、○午後午睡後腸裏張スルコト甚し、乃ち大便二行きたるを大便沢山通利あり、其より例の如く灌水し、再び座に就きたり、○村田春生君と坂谷芳郎君へは勃平之手を振り返答を裁したり、此にて此書信を免れたり、○上京瀛車ノ来る毎に屢〜気を付け居れとも、紳六郎ハ見へず、○其後裏便所へ行き小水一度○、○午□時前永見裕君より手昏来ル、別に異状無し、大坂山辺の所業挨拶と勃平勘当ノ物件ノ御用のミ、○晚餐はチキンライスにて満腹なり、水戸丸薬拾粒、

『十時微震あり、』

六月五日『月』早朝より雨、○早起灌水、其復座、鶏卵二枚、アウトメール二椀、其後表便所へ小水一度、□亦裏便所へ行き大用便通無し、其後小水一度、其後屢〜紳六郎、途中立寄哉と坐敷まで到り見るに見へず、只今^{端書}書状届く、曰ハク昨日無事当港（神戸港）へ着、英国ニテ製造ノ軍艦吉野回航、只今命せられ候ニ付、近日帰京、此段不取敢御報申上候也、勿々、とあり、六月三日神戸軍艦千代田之西紳六郎とあり、以て延引ノ所以を審かにす、○本日夜来東京出立と極めたれと、雨なれば止ス積りノ処、□□に止ミタリ、灌水前湯殿にて点滴淋漓たり、○只今新杵の須浜等を食ふ、○○午餐は鳥ノソフレー、蚕豆ノ煮物等ニ而満腹、ソフレイ三腹、白飯一膳を喫したり、午睡一時間、了て表便所に小水一度、□□の故を以て甚た快通せり、○五時頃より入浴、剃鬚、了裏便所ニテ小水一度、○本日北風、浜ニテ紙鳶を揚る者あり、○本日より鹿兒寫英次郎、お竹より、周、紳、勃平、舛子江郵便来る、小児名君代といふ由ナリ、○晚餐は鱈ノ荒煮、大根ノ煮物、其後国府津よりの瀛車を^見間違へ□□車□□□□紳六郎を待つ、猶早も猶一度東京より来りて後ナルヘシと、折節雨点と処乃ち帰座、水戸丸十粒を服用し、紳六郎も来らハ留む可しと成し、

六月六日『火』曇天、昨夜より引続キ霽相も無し、北風なり、○朝起表便所ニ行き、其後灌腸、通利僅かなり、其湯殿に行き洗面、灌水、其後復座、鶏卵二枚、アウトメール二椀、其後裏便所へ小水一度、其後湿電一回、左右腕面項脊背腰腿両脚裏面、菊も同し、○午餐前此間芝居へ誘たる三人来り、礼を述へ、午後の綱引に誘はんと

いふ、且期日を選ふ、日は九日より東京へ行かんと欲すれば、其前なれハ何時も可なりと答ふ、皆諾して去る、○午餐は鯖の一塩、頗る味あり、蚕豆等なり、○午餐前裏便所行く、小水一度、○後東海道□□□□□□□、舂子、諸婢、芝ノ草を採し、周は四足亭に紳六郎来るを□に、紙巻煙草二本を喫し、再帰り就座、勃平并ニ為吉は此を扶く、○舂子いふ、日ニ朝貌は□□ニ在り□に日なし、○時事新報は午前来り、南洋州ノ酋長サンミ ウイリス之事を載ス、別ニ新奇之事無し、○三時三十分ノ東海道瀛車之紳六郎は来らず、晚餐はかます、少く香あり、代ふるにサルジキを以てす、依此快食を得たり、又野菜は紅大根ノ浸物等なり、其後裏便所へ行き、水戸薬を服用し、寝に就く、本日と明日快晴と見、赤剝裂を呈したり、甚妙ナリ、

六月七日『水』曇、本日ノ剝裂は黒雲之處変して劇裂となる、平常に變なり、早起灌水、其後就座、鶏卵二枚、アウトメール牛乳二杯、赤大根ノ浸少々、○本植木屋の草採り三人、早朝より来ル、舂子、下女を連れ草採に出つ、皆足袋跣足ナリ、九時より始る、○勃平九時前起床、○最早紳六郎帰京の念絶つ、○八時過湿電を受く、菊、両腕面項脊背腿脚裏面皆同し、○屢裏便所ニ行く昨夜二度本、○午餐は鰹魚ノ照焼に蕨等ナリ、○きよ子より書状来ル、紳六郎只今に帰京せざる由、再び上方瀛車ノ来る毎に見る事を得む、其後二度程来れと、皆非なり、○本日は劇裂ハ縦裂ニテ、漸次に消散し晴天となれり、風位朝北風なりしか午後南風となれり、○勃平、午後茶を飲ミ、後山跋涉に出行ス、余も其茶ニテ午睡を醒まし、其後裏便所へ行き、○建具屋午前に来り、処々建具直し、蚊帳の釣手を打ち、午餐を喫して去れり、○○其後晚餐ハ 公魚の煮物と蚕豆ノ等なり、其後□ノ瀛車通るに逢ん、再び庭前に出て、ブランコをなし、遂に四足亭に至り、巻煙草二服を喫し、帰座、時に蚊帳の釣手に蚊帳未だ掛らす、此日最地に腕スに色々之事あり、夜十時後就寝、
『夜十時微震あり、』

六月八日『木』快晴、一天無雲、早起灌腸通利無し、其洗面、灌水、復座、鶏卵二枚、アウトメール牛乳^二合、野菜少し、後裏便所へ小水一度、○本日草採三人来ル、○其後湿電一回、両腕面項脊背腰兩腿兩脚、脚裏甚利かす、旧なれはなり、○裏便所へ小水一度、○其後勃平に囑し、学士会院へ辞表を草せしむ、「本員儀、一昨年来中風症ニ罹り、是迄久敷東京学士会院ノ列を候処、今般御規則等御改正ニ相成候、□□既ニ耆老之故を以て、続て奉職仕候様被仰渡難有仕合御坐候へ共、□□□□病気又一層差重り、夏季ニ向へ共一向動靜に異動無之、此煩ニ而は迎六□等□□□□何分冗員ニ属し候而は此際本意ニ違候間、謹而□□□□□□□□文部大臣へ御趣義出□□処、此段奉願候由、東京学士会院長加藤弘之殿」、○午餐は牡丹餅八ツ、跡ニ而白飯半碗ナリ、○新報ハ午前来れり、格別なる事無し、○只年来ノ朋友ナル寺嶋伯薨去之事ナリ、○二時後入浴剃鬚^{ママ}、三時過舂子も揚がる、○勃平四時

「西周日記」

過ぎ湯よりあかる、○晚餐は鯖の煮、瓜は酢の物、前二午後の残の牡丹餅五ツ等ナリ、午餐後運動を試みんと逍遥□□高木下ニ□□□と門前に帰ヘル時に、百足屋□□を追て附て来ルより庭に出て□□□と四足亭に至り、此にて百足屋兼而地引を約束を成さんと其事を約し、明日晩四時に地引地に来るへしといふ事を約し、帰宅後水戸薬拾八粒を服用し、其後裏便所に至り小水一度、而后寢に就く、

六月九日『金』本日大磯快晴、朝ノ間大磯百足屋外数人ノ招請に依り、引網漁を見に行く、帰宅後瀛車にて東京出立、午後廿二時過着、此より東京滞在、○此後紳六郎より電報あり、明日午後神戸発ニ而帰京之由、○舛子より勃平へ郵便を發ス、○文部大臣より学士会院と□□□事学士会院書記より申越ス、又こ加藤君へ宛、願書御免願差出す事に決ス、○夜中、舛子、きよ子、銀座街へ行く、

六月十日『土』雨、早起灌水、湯殿にて舛子此ヲ扶く、後茶ノ間に至り、後にきよ子に命して、加藤学士会院長より 文部大臣へ上申を請ふの文を清書せしめ、此山本を遣はして加藤邸に送らしむ、「其文、周儀淺識短才ノ身ヲ以テ学士会員末列ヲ瀆ス、茲に年アリ、伏テ惟ミルニ、齡已ニ耳順ヲ過キ老齒脱落論辭に便ナラス、四肢衰廢進退意ニ随ハズ、常ニ自ラ其贅員ニ属スルヲ恐ル、曩ニ学士会則ヲ改正セラル、ヤ、周猶耆老ノ故ヲ以テ依然会員ニ列シ其職統奉スヘキノ命アリ、榮典之ヨリ大ナルハ莫シ、乃チ敢テ身ノ老廢ヲ顧ミス謹ンテ其職ヲ奉シ以テ今日ニ至ル、然ルニ頃者老病日ニ重キヲ加へ、起居進退一ニ他人ノ扶ヲ要ス、故ヲ以テ昨年来月次ノ例会に臨ムヲ得ス、今時ノ状幸ニ人ノ扶クル有テ此ニ臨ムヲ得ルモ、言語ノ意ノ如クナラス、徒ニ員備ルノミ、此ク如クナレハ、実空名ノ会員無用ノ冗員ノミ、幸ニ之ノ文部大臣閣下ニ上申シテ請フ、非才老耄之ニシテ、永ク賢路ニ當ルノ責ヲ免ンコトヲ、恐懼再拜 明治二十六年六月 東京学士会院会員西周 東京学士会院長加藤弘之殿」、昨日曇、会院書記より通報あり、寺嶋も会員ノ一ニテ其薨去ニ就て各自各贈スルコト会長ノ命ナリト、依テ周ハ先つ一円を贈したり、此ヲ記スル塗端ニ、舛子、佐こ木信綱氏の元より帰へり、○此朝時雄、瀬脇に通して為吉の病を診せしむ、曰ハク病症は脚氣とレウマチスと相混するなりと、少く服薬せば、また療劑すれば、可なりと、○加藤君よりは平常の請取来る、坂谷芳郎君より礼の請取り来り、次に岡浦太郎君より君より蚊帳来り、^{〔 衍 〕} 算用大概済む、小宮妻子小児を連れて来ル、□□□□土産あり、伊藤裕之君来ル、初て逢ふ、岡富子ノ夫なり、其先赤松^別範良君来ル、此は紳六郎昇進を賀し、一寸立寄しなり、其後^{青山}麻布□□氏へ勃平ノ書籍為持遣はス、其前、勃平、公債利子を取り来ル、其後木挽町ノ三浦君来ル、南洋州ノ話を為ス、次に紳六郎より電報来り、明日八時に神戸出立、本日夜之瀛車ニ而五時三十分新橋着ノ由ナリ、○

六月十一日『第二日』朝曇、然れとも朝起、劇裂を見たり、或は霽にならん、朝早起灌腸、其表二階を降り湯殿へ行き洗面、灌水、復座茶間、鶏卵二枚、麵包一切レ、

「西周日記」

後裏便所小水一度、○八時勃平起床、食に就く、○新薬湿電一応受用す、菊、個所も同しく、○其後為吉足痛ノ故を以て浴水ニ入浴、高橋ノ油絵ノ故に鬚を剃る、^{〔ママ〕}鬚を止む、^{〔鮎カ〕}○鮎を売りに、以て此を買ふ、午餐は鮎の甘酢□□、○其舂子湯を了し、勃平浴に行く、○此頃より北東南方は漸次劇裂を生ず、昨日ノ例ノ如し、○本日草採り雇人二三人来ル、○植木屋活花を持ち来る、未だ活けず、○本日□□焼を服ス、○午餐は鮎の甘酢、^{〔鮎カ〕}○若松屋より莢や豌豆を贈り越ス、孫女の縁附たる祝歟、○本日勃平に扶けられて庭園に出て、菖蒲の花を見、四足亭に至り、シガル二本を喫して帰り、就座、○時事新報も来たれり、大石公使の事のミ、別に異事無し、○本日晩方になり、劇裂四方に合して愈〜曇天となれり、○本日午後舂子、沢氏を訪問ス、来月に非れは来らすといふ、○晩方婢女二人、庭前ノ草を採る、植木屋ノ雇人は庭前掃除を了り、猶道の泥濘取除き色々、植木屋午後松の枯枝を剪り取る、其枝□□に来らす、○晚餐は□とキヤベツの煮物、□□□□□□□□□□、其小水に行く、其前□□□□□□□□ノ菊、安兩人、芹を播きに行く、□□□□捧ス、兩人四足亭に至り此を看ル、晩に頗ル□□□□□□□□、明日も亦好天に至るを徴す、其後水戸薬一服を服用、寝に就く、

六月十五日『木』半曇、北風、降はせず、○早朝灌腸、其湯殿二而、朝灌水、其後復座、鶏卵二枚、牛乳壺合、アウトメール式杯、○其後舂子、国府津第二瀛車二而東京へ発^七六時半ナリ、此を四足亭に送る、安、此を扶ク、勃平、為吉、菊、此見送ニ行く、干物、新聞紙の事あり、間に逢ふ、其後復座、菊湿電を行ふ、了て裏便所へ行く、小水一度、○此時十字ナリ、日就社より発行停止之端書来ル、此時国府津ノ第三瀛車来る、○此時為吉、大百足ノ騒あり、余も亦出て此を見る、長サ三寸位也、跡ニテ聞ケハ□□□□□□□□□□□□□□タル由ナリ、午後二時より雨降ナル降る、○舂子ノ写真□□□□濟ミたるへしと思ふ、○時事新報は格別之事無し、○午餐はキヤベツ、旧牛肉また天蚕及芹のしたしなり、○晚餐は待ちに待ちたる鰻鯉の茶漬ナリ、後水戸薬一服を服用、就寝、

六月十六日『金』曇、○湯殿にて洗面、灌水、其後復座、鶏卵二枚、アウトメール二杯、○其後裏便所へ小水一度、其後湿電一回、菊此を司る、箇所同し、其後小水一度、○勃平七時起床、就食、○其後荷車来ル、○勃平は本日は雨天故、東京行延引、○昨日より曇屋来、時ニ女居間六畳、其次勃平間八畳半済む、客間六畳に掛、○午前より雨降り出したれば、六畳ノ内三畳程了、帰宅せり、○午餐は鱈煮附、腥なりて食はれず食はず、□□の浸しにて酢を掛け食はれたり、後淡水浴に入る、二時揚る、即午睡に附く、○本日も時事新報来り、雑報ノ部ハ平常通ナリ、○晚餐は鮎ノ煮物と鮎ノ刺身にて、白飯二杯を食し了り、残は好物なれと製法調はず、葱のしたし、刺身も好き時あれと茶漬には向かず、之紅飯を望ミたれと婢女能く聴さる故なり、○晚餐後水戸薬一服を服用、就寝、

六月十七日『土』快晴、浮雲無きにあらず、○朝灌腸、其後湯殿にて灌水、其後就座、
鶏卵二枚、アウトメール牛乳一合にて二杯、其後裏便所にて小水一度、○勃平、本
日第三国府津瀛車にて東京へ行く、九時三十分ナリ、帰時は二十日なりと、○勃平、
九時四十五分出立、○周、此を四足亭に見送る、○其後午餐前裏便所に行き小水一
度、○其後午餐、鱒ノ生干に紅飯ナリ、午後牡丹餅ノ馳走など、□□□少し控へる、
○本日は午前再び曇り、雨少し降り出ス、直に止ミて上天気、南風となれり、○四
時着の瀛車二而、高木お寛さん、山本おきよさん、並に高木賢蔵^{〔ママ〕}、高木俊二^{〔ママ〕}、并石
川お清さんに高木お富さん付き来ル、牛肉、葡萄酒、贈物あり、晚餐此にて充分ナ
リ、今夕も夕照あり、明日之天気も好天気ならんと、本日亦続くへし、○明日は日
曜ニ而兼寛君も出掛く可しとなり、豊住も、○与五郎跡にてお富さん色々秘密談あ
り、秘す可し、○

六月十八日『日』快晴、朝起湯殿にて洗顔、灌水、其後復座、鶏卵二枚、アウトメ
ール牛乳二椀、其裏便所小水一度、○本日為吉、国府津一番瀛車ニテ東京に行く、瀬
脇氏に診察を乞ふ為ナリ、○お富さん、朝より賢次、俊蔵、子、きよ子を率ゐ
て遊び来る、賢次、俊蔵は瓦投をして遊ぶ、帰路に二尺程ノ蛇を□□して之を殺す、
百舎屋^{〔見〕}も来り会ス、帰路立寄りて、舂子に挨拶して帰る、○後表便所へ行き小水一
度、快通ス、昨夜^{十一時裏便所、三時裏便所、今晩裏便所}、小水四度も、○紳六郎、十時十五分に来り、
恩給ハ佐野氏に托ス之由を申し、一時二十三分集会ノ間に合ふ様に帰りたり、午餐
には例の好物赤貝ノ酸浸ナリ、取へし用件先送り、彼より申越ス約束なり、紳六郎
帰ると同時に高木兼寛君来ル、藤沢にて逢ふ筈ナリ、高木君着、舂子、お富さん出
迎に出、紳六郎を見送る、其后にて高木君を迎へ帰り、高木君は□□荘に来り、
瀬脇、織田へ付き来り、只今五時の瀛車ニテ高木ニテは、賢次、俊蔵、お広さん、
おきよさん、石川お勢さんとも、五人帰り、高木別荘も人数には困りたるなり、
但し此等は再大磯へ来ル由ナリ、○其後為吉も帰り、本日は診察ノ為に行しが、
其甲斐も無く、跡には瀬脇ノ診察を受ける由なり、○本日西寿丸より両所様として
手昏来る、別段奇事無し、此地へは紳六郎持参なり、○時事新報来りたり、別に新
奇事無し、水産会へ牡蠣の種養製法ハ□□□注意し謂ふへし、○本日ノ气象ハ劇裂
ノ現象無く、一段快晴に赴き、午後ハ北風南風に変し、間ニは依て以て紙鳶を揚る
を見たり、晩扯裂之雲無きに非らず、本日之模様にては明日も天気なるへし、

六月十六^九日『月』薄曇、降はせず、早起灌腸通利無し、第二灌腸にて屎切通利、其
後湯殿にて洗顔、灌水、其後復座、鶏卵二枚、牛乳、パン一切、一合乳にて朝食を
了す、此時瀬脇寿雄君、瀬脇寿二郎君帰る、高木お富さん、舂子、停車場に送ル、
周も四足亭に此を見送ル、其後就座、○其後受湿電気の試験頗利かと思ふ、其裏便
所にて小水一度、○其後衣物を衣替へる、単物裕羽織と本日襦袢無し、○其後舂子
ノ処へ大坂山辺定子より書状来ル、○また勃平ノ処へ芝田村町八番地伊東資敦氏よ

り書状来ル、○此時南風頗ル強く、紙鳶の^翼□類なり、○其後淡水浴、剃鬚、其後□
□天象に本日南風強し、常の劇裂に非らずして扯裂なり、北東南とも多く扯列にして青天ノ処より南尤増加して、遂に一天青雲を背に引至るなり、○舛子、浴後高木
に行く、本日高木夫婦共帰京するを以てなり、○海上南風ニテ白波多し、時ニ白濤
を起ししなり、○午餐鮎ノ塩焼□□□、赤小豆飯三椀を喫したり、暫ありて表の便
所へ行き小水一度、○此時国府津より瀛車来る、定て高木に会る、小田原ノ医家も
乗り居るなるへしと思ふ、○佐々木信綱来ル、鎌倉ノ帰り之由、其母又鎌倉ニ而或
ハ別荘を借りて養生す、故に大磯当りへ移らんとす、幸に本多氏別荘□□津の上に
在、此を借らんやとの望ニ而、其処を見に行きたるなり、三時三十分ハ出立時ナリ、
其迄に見分を了し帰らんといふナリ、帰路四足亭に出て見れば、信綱君車窓より拝
して通過する見たり、先つ一安心なり、○次に植木屋来り、向陽花と松の事を談し
たり、紫陽花は現移植ノ後花を持ちたれば、氣遣ひ無しといふ事ナリ、松は□□た
れば根腐なりと、何レ明後日を期し、下地に移植して試む可しと、其外□□は無し、
○時に高木出立ナリ、舛子見送ニ行く、○伊和竹来ル、○三時三十分此を四足亭に
て見送ル、お富さん立る、織田一婦ル、四足亭へは為吉、伊和竹、此扶く、○晚餐
は鮎□塩焼、赤小豆飯二杯ナリ、跡ニテ水戸薬十粒、○お清さんの東京土産として
あんころ、団子贈り越せり、○一君は残りたりと思ひしに、矢張一列にて帰りたる
由ナリ、見たと思ひしは巡查の由ナリし、△

六月二十日『火』晴、南風強し、○早朝湯殿ニテ洗顔、灌水、其後復、鶏卵二枚、牛
乳壺合、麵包一切、其後表便所へ独行、後菊来りて此を扶く、其後湿電一回、菊此
を司る、其前水戸薬拾粒、○富雄より愈〜小樽詰被命廿五日出発、何れ兩三日中
に参車之事なり、○本日も南風、海上白波起ル、○午前新杵ノ菓子二ケ、茶壺杯、
○午餐は真黒ノ小串、鮎の煮染、蚕豆等ナリ、午餐後表便所へ行き、其後午睡、○
時事新報も来りたれと、只会社何こといふ如キ事にて記するに足るもの無し、○本
日は勃平も四時ノ瀛車まで帰らず、○金魚屋、鮎、鯉、金魚を売り来たり、此式円
ナリト、未だ見ず、其後後園ニ至り金魚を見る、皆洋ことして其処を得たるかこと
し、○其後裏便所ニ行き小水一度、○晚餐、○晚餐は甘鯛ノ潮水、里久煮、蚕豆ナ
リ、○其時佐土原公より御国ノ枇杷□□□□を贈らる、落合持ち来たり、出て、挨
拶す、其後晚餐に就く、晚餐は鯛ノ潮煮ナリ、其高木ノお清さんを訪問し、運動、
裏門より入り表間^(門)を出て帰る、お清さん□□□□、次ニ時刻約す、△

六月廿一日『水』昨夜来月清、星出つ、暁来一日日現れ、特ニ晴ならんとし、忽然陰
雲晦暝雨降ル、○早起灌腸通利少し、其後復座、鶏卵二枚、麵包一切、牛乳一合、
其後小水は裏便所一度、其後前岡上少許ノ劇裂を見る、殆晴ならんとす、再び曇天
に変ス、遂に惣曇天となる、雨は止ム、○勃平より端書来ル、本日二番にて帰宅ノ
由ナリ、○朝園池ノ菖蒲数本を切り、佐土原家に^呈報ス、昨日枇杷ノ賜に報スルナリ、

○菊湿電を行ふ一回、○其後高木寿ニ以茄子を呉る、鵜焼を命す、十時十四分、勃平、富雄同道ニテ着、午餐は茄子ノ鵜焼、鰯ノ小串位なり、莢豌豆ノ煮物位なり、其前に佐土原君より到来ノ枇杷を四分して、周、舛、勃、富雄、食す、其種は^(ママ)に貯へ置く、○本日勃平来り、富雄来り、富雄に拾円を俸ス、五円を二分ス、富雄其場ニテ五円を呈ス、○其後表便所に行く、安此を扶く、入浴前ナレハナリ、○其後入浴、淡水、上浴後直に加藤君来ル、即ち一応之礼を述へ、恩給ノ事を談さんと思ひたれと書遣ければ一応ノ挨拶を為したり、○其後勃平、加藤ト挨拶して入浴す、○本日は雨天にて松を移す可らず、夫故か植木屋も来らず、○晚餐は鰯ノ塩焼、蓼酢、紅飯三杯等ナリ、餐後裏便所小水一度、○時事新報も午前に来りたり、剰余金と対外策頗面白し、余は格別ノ事も無し、○大野直和之返答は勃平に托したり、後水戸薬一服、就寝、

六月廿二日『木』朝より雨、○早起湯殿ニテ洗顔、灌水、其後復座、鶏卵二枚、麵包一切、牛乳壺合、其後湿電一回、菊此を司る、○其後表便所へ行き小水一度、舛子此を扶く、○昨日加藤君土産は枇杷、林檎、沙糖之由、○其後土方ノ親方来りて、金魚屋ノ口入をなし、鯉と金魚ニテ四円に上るといふ、其後池上に臨ミ、四足亭に休憩し、巻煙草二本を喫し帰ル、就座、裏便所へ行く、小水不通、乃ち洗手して帰座、○うるめの子僧来てうるめを売り、跡に勃平乃カテイテルヲなす、此を□□□、此時時事新報来ル、午餐はジャクフノ団十分四煮一盞悉し、他は赤豆飯一杯に了す、其後一時四十五分ノ瀛車にて織田夫婦、周五郎、豊住下女を連れて来ル、余は四足亭に出て、此を請し、其池中にて釣魚するを見、帰宅、新聞を見る、総而珍事無し、周五郎度々園中来ル、或は姉豊、或ハ勃平□ひ、或ハ下女に誘はれ、時事新報は皆平常ノ報告、只長崎昨廿一日の福嶋中佐勸迎式を催し、会員千人に及ひたりといふ、○晚餐はうるめノ一塩、赤小豆飯三椀、外ニ松茸漬ノ牛蒡人參あり、食了て枇杷を秀夫に為持遣はス、○其前紳六郎より書翰は廿七日出張廿九日見送りノ件、其節詞令書一切を持参ノ件なり、

六月廿三日『金』快晴、朝灌腸通利平常なり、其後湯殿に而洗顔、灌水、其後復座、鶏卵二枚、麵包一切、其後勃平起床、就食、其後に織田、後山に行き竹を探る、○其後表便所へ行小水一度、○其後菊湿電一回を行ふ、○其後周五郎、織田一君は、池にて金魚一ツを釣り上く、周も四足亭に至りプラン子に従事ス、洋服を着し、本式にて出掛ケたり、其後復座、洋服を脱し、裏便所へ小水一度、午餐は鯛ノ煮物なり、茶飯三椀、佳なり、○其後豊住より秀堅君より勃平ノ所へ書状来ル、○午餐は鯛ノ煮物也、○其後織田、豊と下女と周五郎を伴ひ、海水に行く、勃平蓋し此約あるを以て、竹を切りに行き、此を裂たるなり、○其後織田□□□路より帰りたり、○三時半入浴潮湯、為吉去病平癒ニ付潮湯たる、夫婦入浴より揚り、勃平替り入る、此日豊住婿夫婦を呼、晚餐を供す、跡ニテ織田一君頗ル長談ニテ殆とに及ふ、遂ニ

「西周日記」

就寝、

六月廿四日『土』晴、昨日の天□、朝灌水、其後就座、鶏卵二枚、麵包一切レ、了て時、織田夫婦昨夜の礼に来ル、周五郎も来ル、○勃平早朝起床、同時就食、同じく池畔に遊ひて帰り去ル、其後裏便所へ小水一度、此時既に九時ノ荷瀝車来ル、其後菊湿電を行ふ、薬田にて利かす、即ち亦乾電を用ゆ、面項背脊両腿両腕等に掛、頗ル利くか如し、○此日午餐以後海水浴に行き、詳かに認メ得す、

六月廿五日『日』晴、昨日如し、劇裂といふ程に非らず、漸次互裂消滅して晴に赴くなり、早起灌腸、其湯殿に至り洗顔、灌水、復座、鶏卵二枚、麵包一切レ、了て小水に裏便所に行く、小水なしたり、○時早に□植木屋ノ養子来り、○周次郎□□□□□、○勃平も早起、就食、後蛙の折□なり、○植木屋昨夜より今朝も早くより来り、松□□に来□□ノ方なり、○菊、乾を行ふ一回、両腕面項背脊両腿却裏、尤其是□□□□□を殺す事無数なり、○其後裏便所へ行く、小水不通、蓋し食物少量なる故ならん、其後舂子跡より帰る、訳は毛を剃りし時、剃刀に□ありて殆と破傷風にならんとせし由、幸に風は尤□□事に至らざりしと、○午餐は鐘詰ノいわし、茶飯三杯、いんげんノ胡麻流等ナリ、餐裏便所に行く、小水不通、了て手洗ひて復座ス、○織田夫婦、周次郎并ママに高木も来り遊ふ、午後にて去る、○四時頃より点心少し、其後入浴潮湯、削鬚、五時十一分揚湯、○本日海水浴に赴かず、内に潮湯あればなり、○此時月昇る、海上并ニ白帆帰る、其風景明媚実に甚し、○□□□□□処より舂子□□□□□□□□□□□□□請したりし、○晚餐は□ノ煮物、牛ノ鐘詰□ノ煮物、尤口に爽なり、了て水戸薬一服、こ後就寝、

六月廿六日『月』晴、朝起、殿湯にて洗顔、灌水、其後復座、鶏卵二枚、麵包一切レ、了て内便所へ行き小水一度、其後乾電氣を用ゆる一回、菊司之、個所も同じ、利薄し、間々時に通し、○織田一君、昨日より真黒の刺身に当り、昨夜下利数行ありたりと、○勃平、朝早起、同時に就食、其後織田を問ふ、其後池畔に臨ミ蛙□□、織田、豊住より贈物あり、印鑑無しにより借用に来ル、○其より庭園に出、て四足亭津に至り、金魚を見る、時恰も国府瀝車来る、○其後巡査来りて、各住人ノ本宿地□□□訪ひ、下女、下男に及ニ、勃平出たる、此に答ふ、了て帰座、裏便所ニ行き小水一度、○植木屋来りて、松ノ移植附きたるを賀ス、序に扣地に□断を截入を植へん事を命し、併せて樓紅菫草を得んことを頼む、○午餐は黄瓜揉□□油漬、鯛□ノ煮物等ナリ、了て舂子、高木へ織田一君ノ見舞に行く、周五郎如何哉と見舞ふなり、○午餐は黄瓜揉、赤小豆飯三椀、鯛ノ□漬等ナリ、○了て表便所にて小水一度、○其後水戸薬一服、○舂帰る、織田は病に悩ミ帰らんと云ふ、周五郎は如何にしても帰らずといふなり、○夕方、お富さん、別荘に来る、□□ノ出来上りを見ん為ナリ、此時雷鳴、雨降る甚し、雷は恐るゝ人は為吉と□□なり、晚餐は蛸ノ鐘詰、□□□□味噌汁等ナリ、○午後五時瀝車ニ而高木兼寛君着、本日□□その様子を見□□

□□為ナリと、余此を四足亭に迎□□、直ニ□□□□□□□□、○ 足亭より帰る、
就座、水戸薬を服用ス、

六月廿七日『火』早朝灌腸二度、其後湯殿にて洗顔、灌水、其後就座、鶏卵二枚、麵包一切レ、裏便所行き小水一度、○本東京行きを企つ、○勃平も早起、食後就机、○再び裏大便所に行く、尻工合悪き故ナリ、而て水瀉利全く止む、此時第八時ナリ、勃平、織田周五郎の所へ見舞に、本日□□も帰郷之由ナリ、□乃ち国府津第一瀛車ナリ、○勃平へ依頼し参る、大野直和書状を□□ □□せんか為ナリ、○織田周五郎は九時瀛車帰京之由ナリ、○命令書□箱ノ内より周ノ履歴書及ヒ□歴写を抜き机上に置く、菊に申付置く、○一時 発三時 分東京着、其後來賀スル者、鈴木芝区長、豊住秀堅君、紳六郎へ贈達あり、未だ織田一、周五郎ノ帰着知らず、勃平未だ豊住へ帰宅せざる由ナリ、周帰着前、岡君も来訪、折節周等到着を聞て、其前に紳六郎の事を賀せんとして来るなり、

六月廿八日『水』 ○本日は紳六郎も暇にて始終在宅の由、○早起湯殿ニ至り洗顔、灌水、復座、鶏卵二枚、パン一切レ、其後二階にあり、○佐々木慎四郎、紳六郎乞に来ル、贈物ありと聞く、○其後荒木卓爾君紳六の方も来ル、□□□□□アリ、其表便所に行き小水一度、再二階戻り就座、其後、此林老人、赤松お貞さん、紳六郎出發を賀しに来る、既にて紘五郎、茶漬などを食し去る、○△其入湯に行く、○其後瀬脇姉、紳六郎出發ノ祝に来る、剃ノ鬚^(ママ)、紳六郎入湯に赴く、

六月廿九日^{〔木〕}晴、朝湯殿にて灌水、洗顔、此時灌腸を忘る、家内中就食、吸物、鯛ノ浜焼等、八時三十分紳六郎出發、参会者杉山^好敏、芝区長鈴木、岡いつ子、宮内広并岡、宮内紘五郎、出入ル者数人、送る者数人、林若吉、林董子息^{息を}、伊東祐成妻富子、勃平、横浜にて、勃平本日は帰る、三十間堀立寄ル、三十日大磯へ帰る由ナリ、停車場にて岡野荘五郎、大築奥さん、同^{□□}、^{牛込}夫築嘉人、豊住好来ル、周五郎は其後嘔吐気無之き由、或は大築の^{□□□□}適当ならんと思ふ、其後に返る□□、舛子に灌腸を求む、□□灌腸す、后湯殿ニ行き、返而午餐に就く、午餐は風月堂ノ洋食ナリ、其後福嶋□□□□□□、喧呼拍手盛ナリ、○其後水戸薬一服々用ス、其後就午睡、○午睡醒過ニ見送りノ帰り来ル、第一勃平、第二きよ子等、第三お富さん、第四おしつさんなり、□□一時、○伊東お富さんは直に帰宅、○勃平第三番瀛車にて大磯へ帰るといふ、

六月三十日『金』晴、本日九時前より三崎座へ行くと定む、○朝湯殿にて洗顔、灌水、其復座、鶏卵二枚、包一切レ等ナリ、其表便所へ小水に行く、不出、其二階に昇り、裏便所へ、小水不出故灌腸を行ふに通利少しあり、其後小水は不試ナリ、○灌腸前水戸薬一服、^{●●}□□□□、夜六時前帰宅、

『南山経済研究』掲載論文の中で示された内容や意見は、南山大学および南山大学経済学会

「西周日記」

の公式見解を示すものではありません。また、論文に対するご意見・ご質問や、掲載ファイルに関するお問い合わせは、執筆者までお寄せください。

(川崎 勝, E-mail: tanishi9n@jcom.home.ne.jp)